鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（146）

南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

宮ノ上遺跡

（みやのうえ）

旧石器時代編

（南九州市川辺町）

２０１０年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　　文

この報告書は，主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）整備事業に伴って，平成16年度と17年度に実施した宮ノ上遺跡の発掘調査のうち，旧石器時代の調査成果を報告するものです。

宮ノ上遺跡は，南九州市川辺町に所在し，鳴野原台地上に残る段丘に形成された遺跡です。総数３万５千点以上の旧石器時代の石器が出土し，活発な石器製作が行われたことがわかりました。整理作業では，これらの石器が互いに接合し，石器製作の様子を具体的に知ることができる良好な資料を多数得ることができました。

この接合資料は総数770個体を超え，質・量ともに西日本有数の規模を誇るものです。

今回の調査により，今後，南九州を舞台とする旧石器時代の人々の活動の一端を，具体的に復元出来る重要な資料を多数得ることができました。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解を頂くとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査に当たりご協力頂いた南薩地域振興局建設部，南九州市教育委員会，関係機関及び発掘調査に従事されました地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成22年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　　長　　山　下　吉　美

宮ノ上遺跡
尾松
神殿
上里
中服良
田代
下里
鳴野
鳴野原
軸屋
川辺
内青野
清水
桜元
小桑畑
古殿
野間大久保
野間
松尾城
野崎
木場田
桑水流
迎方
中福良
荒殿
島内
宮下
迎川原
中川原
山添
両添
向江町
横手
平山
川原町
穂永
御園
西野
0
1
25,000
1km

宮ノ上遺跡の位置図

報　告　書　抄　録

ふりがな	みやのうえいせき
書　　名	宮ノ上遺跡
副 書 名	南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅲ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	146
編著者名	馬籠亮道
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　　TEL 0995-48-5811
発行年月日	2010年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （m²）	調査起因
		市町村	遺跡番号					
みやのうえ 宮ノ上	かごしまけん 鹿児島県 みなみきゅうしゅうし 南九州市 かわなべちょう 川辺町 ふるとの 古殿	46223	27-97-0	31° 25′ 30″	130° 25′ 00″	確認調査 20040203～ 20040226 本調査 20040510～ 20040318 20050601～ 20050927	2,000	南薩縦貫道（川辺道路）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮ノ上	包含地	旧石器	礫群 石器製作址	角錐状石器 小型ナイフ形石器 接合資料ほか	
		縄文後期	集石　土坑	土器，石器	
		古墳時代		土器	
		古代～中世		青磁，白磁，土師器	

遺跡の概要	宮ノ上遺跡は，旧石器時代から古代・中世に至る複合遺跡である。 このうち，旧石器時代では角錐状石器石器群及び小型ナイフ形石器群を主体に，約３万５千点以上の遺物が出土した。特に，整理作業では総数770個体を越える豊富な接合資料が得られたことが注目される。これらの接合資料の分析により，当該期の石器製作技術やブロック形成過程の復元が可能であり，今後の調査研究の基礎資料として活用されることが期待される。 縄文時代は，後期前半に位置づけられる土器を主体に，約３万点の遺物が出土している。

例　言

1　本書は，主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）整備事業に伴う「宮ノ上遺跡」旧石器時代編の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は，鹿児島県南九州市川辺町古殿に所在する。

3　発掘調査及び報告書作成（整理作業）は，鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所；現南薩地域振興局建設部）から鹿児島県教育委員会が依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。

4　発掘調査は，平成16年５月10日から平成17年９月27日まで実施し，整理作業・報告書作成は平成19年度から平成21年度まで実施した。

5　遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，表，図版の番号は一致する。

6　挿図の縮尺は4/5を基本とする。しかし，大型品や接合資料等についてはこの限りではない。

　挿図の縮尺は各図面に示した。

7　本書で用いたレベル数値は南九州地域振興局建設部が提示した工事図面に基づく海抜絶対高である。

8　発掘調査は埋蔵文化財センターの指揮・監督の下に，労務管理，測量等の一部業務を新和技術コンサルタント株式会社に委託した。

9　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は調査担当者と新和技術コンサルタント株式会社が共同で行い，実測図作成の一部については株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

10　遺構実測図のトレースは，整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行った。

11　石器の実測・トレースは整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行い，一部を株式会社九州文化財研究所，株式会社パスコ，大成エンジニアリング株式会社に委託した。その監修については馬籠亮道が行った。

12　遺物の写真撮影は，吉岡康弘，西園勝彦，辻明啓が行った。なお，本文中に掲載した接合資料展開写真については馬籠亮道が行った。

13　整理作業・報告書作成にはデジタル技術を導入し，分布図・実測図等の挿図データの作成，デジタル写真処理，編集等の作業は整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行った。

14　本書の執筆・編集は，馬籠亮道が行った。

15　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用する予定である。また，本書に使用したデータは鹿児島県埋蔵文化財情報管理システム及び埋蔵文化財情報データベース(http://www.jomon-no-mori.jp)で公開する予定である。

　なお，宮ノ上遺跡の遺物注記の略号は「ミヤ」である。

本　文　目　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　調査に至るまでの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第３節　発掘調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　第１節　位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　第３節　鳴野原台地周辺の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第Ⅲ章　発掘調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第１節　発掘調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第２節　遺跡の層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第３節　整理作業の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第Ⅳ章　第Ⅰ文化層の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第１節　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第２節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第Ⅴ章　第Ⅱ文化層の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　第１節　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　第２節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
　第３節　接合資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第Ⅵ章　第Ⅲ文化層の発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
　第１節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
　第２節　接合資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
第Ⅶ章　第Ⅳ文化層の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・371
　第１節　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・371
　第２節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・373
第Ⅷ章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・375
　第１節　石器群の層位的変遷について・・・・・・・・・・・・・・375
　第２節　角錐状石器について・・・・・・・・・・・・・・・・・・375
　第３節　第Ⅲ文化層の剥片剥離技術とブロック形成過程・・・・・・375
写真図版

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第２図　川辺道路関連遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第３図　周辺地形およびグリッド配置図・・・・・・・・・・・・・・・7
第４図　基本土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第５図　土層断面図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第６図　土層断面図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第７図　接合資料の記載方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第８図　第Ⅰ文化層全体状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第９図　第Ⅰ文化層遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第10図　第Ⅰ文化層遺構実測図（１）・・・・・・・・・・・・・・・14
第11図　第Ⅰ文化層遺構実測図（２）・・・・・・・・・・・・・・・15
第12図　第Ⅰ文化層遺構実測図（３）・・・・・・・・・・・・・・・16
第13図　第Ⅰ文化層出土石器分布図（１）・・・・・・・・・・・・・16
第14図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（１）・・・・・・・・・・・・・17
第15図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（２）・・・・・・・・・・・・・18
第16図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（３）・・・・・・・・・・・・・19
第17図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（４）・・・・・・・・・・・・・20
第18図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（５）・・・・・・・・・・・・・21
第19図　第Ⅰ文化層出土石器分布図（２）・・・・・・・・・・・・・22
第20図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（６）・・・・・・・・・・・・・22
第21図　第Ⅱ文化層全体状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第22図　第Ⅱ文化層遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第23図　第Ⅱ文化層遺構実測図（１）・・・・・・・・・・・・・・・24
第24図　第Ⅱ文化層遺構実測図（２）・・・・・・・・・・・・・・・25
第25図　第Ⅱ文化層遺構実測図（３）・・・・・・・・・・・・・・・26
第26図　第Ⅱ文化層第１エリア～第２エリア出土石器分布図・・・・・・27
第27図　第Ⅱ文化層第１エリア出土石器実測図（１）・・・・・・・・・28
第28図　第Ⅱ文化層第１エリア出土石器実測図（２）・・・・・・・・・29
第29図　第Ⅱ文化層第２エリア出土石器実測図・・・・・・・・・・・・30
第30図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器分布図・・・・・・・・・・・・31
第31図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（１）・・・・・・・・・31
第32図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（２）・・・・・・・・・33
第33図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（３）・・・・・・・・・34
第34図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（４）・・・・・・・・・35
第35図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（５）・・・・・・・・・36
第36図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（６）・・・・・・・・・37
第37図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（７）・・・・・・・・・38
第38図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（８）・・・・・・・・・39
第39図　第Ⅱ文化層第４エリア及びエリア外出土石器実測図・・・・・・40
第40図　第Ⅱ文化層第４エリア出土石器分布図・・・・・・・・・・・・41
第41図　第Ⅱ文化層石器接合状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第42図　接合資料No３（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第43図　接合資料No３（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第44図　接合資料No４（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第45図　接合資料No４（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
第46図　接合資料No４（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第47図　接合資料No５（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第48図　接合資料No５（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第49図　接合資料No６（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第50図　接合資料No６（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第51図　接合資料No７（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第52図　接合資料No７（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
第53図　接合資料No８（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第54図　接合資料No８（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
第55図　接合資料No９（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
第56図　接合資料No９（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第57図　接合資料No10（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第58図　接合資料No10（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第59図　接合資料No10（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第60図　接合資料No10（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第61図　接合資料No10（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
第62図　接合資料No11（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
第63図　接合資料No11（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
第64図　接合資料No11（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
第65図　接合資料No12（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
第66図　接合資料No12（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第67図　接合資料No13（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第68図　接合資料No13（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
第69図　接合資料No13（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
第70図　接合資料No14（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第71図　接合資料No14（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
第72図　接合資料No15（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
第73図　接合資料No15（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第74図　接合資料No16・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
第75図　接合資料No17・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
第76図　接合資料No18・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第77図　接合資料No19・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第78図　接合資料No20・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
第79図　接合資料No21・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第80図　接合資料No22・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第81図　接合資料No23・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第82図　接合資料No24・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
第83図　接合資料No25・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
第84図　接合資料No26・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
第85図　接合資料No27・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
第86図　接合資料No28・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
第87図　接合資料No29・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
第88図　接合資料No30・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
第89図　接合資料No31・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
第90図　第Ⅲ文化層遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第91図　第Ⅲ文化層第１ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・・74
第92図　第Ⅲ文化層第１ブロック第１遺物集中部出土石器実測図（１）・74
第93図　第Ⅲ文化層第１ブロック第１遺物集中部出土石器実測図（２）・75
第94図　第Ⅲ文化層第１ブロック第２遺物集中部出土石器実測図・・・・76
第95図　第Ⅲ文化層第１ブロック第３遺物集中部出土石器実測図・・・・76
第96図　第Ⅲ文化層第１ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・・77
第97図　第Ⅲ文化層第２ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・・79
第98図　第Ⅲ文化層第２ブロック第４遺物集中部出土石器実測図・・・・79
第99図　第Ⅲ文化層第２ブロック第５遺物集中部出土石器実測図・・・・80
第100図　第Ⅲ文化層第３ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・80
第101図　第Ⅲ文化層第３ブロック第６遺物集中部出土石器実測図・・・80
第102図　第Ⅲ文化層第４ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・81

挿　図　目　次

第103図　第Ⅲ文化層第４ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・81
第104図　第Ⅲ文化層第４ブロック第８遺物集中部出土石器実測図（１）81
第105図　第Ⅲ文化層第４ブロック第８遺物集中部出土石器実測図（２）82
第106図　第Ⅲ文化層第４ブロック第９遺物集中部出土石器実測図（１）83
第107図　第Ⅲ文化層第４ブロック第９遺物集中部出土石器実測図（２）84
第108図　第Ⅲ文化層第４ブロック第10遺物集中部出土石器実測図（１）85
第109図　第Ⅲ文化層第４ブロック第10遺物集中部出土石器実測図（２）86
第110図　第Ⅲ文化層第４ブロック第11遺物集中部出土石器実測図・・・87
第111図　第Ⅲ文化層第４ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・87
第112図　第Ⅲ文化層第５ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・88
第113図　第Ⅲ文化層第５ブロック出土石器実測図・・・・・・・・・・89
第114図　第Ⅲ文化層第６ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・90
第115図　第Ⅲ文化層第６ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・91
第116図　第Ⅲ文化層第６ブロック第13遺物集中部出土石器実測図・・・92
第117図　第Ⅲ文化層第６ブロック第14遺物集中部出土石器実測図・・・93
第118図　第Ⅲ文化層第６ブロック第15遺物集中部出土石器実測図（１）93
第119図　第Ⅲ文化層第６ブロック第15遺物集中部出土石器実測図（２）95
第120図　第Ⅲ文化層第６ブロック第16遺物集中部出土石器実測図・・・95
第121図　第Ⅲ文化層第６ブロック第17遺物集中部出土石器実測図・・・96
第122図　第Ⅲ文化層第６ブロック第18遺物集中部出土石器実測図・・・97
第123図　第Ⅲ文化層第６ブロック第19遺物集中部出土石器実測図・・・98
第124図　第Ⅲ文化層第６ブロック第20遺物集中部出土石器実測図・・・98
第125図　第Ⅲ文化層第６ブロック第21遺物集中部出土石器実測図・・・99
第126図　第Ⅲ文化層第６ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・100
第127図　第Ⅲ文化層第７ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・101
第128図　第Ⅲ文化層第７ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・101
第129図　第Ⅲ文化層第７ブロック第22遺物集中部出土石器実測図・・・102
第130図　第Ⅲ文化層第７ブロック第23遺物集中部出土石器実測図・・・102
第131図　第Ⅲ文化層第７ブロック第24遺物集中部出土石器実測図（１）103
第132図　第Ⅲ文化層第７ブロック第24遺物集中部出土石器実測図（２）104
第133図　第Ⅲ文化層第７ブロック第25遺物集中部出土石器実測図・・・104
第134図　第Ⅲ文化層第７ブロック第26遺物集中部出土石器実測図・・・104
第135図　第Ⅲ文化層第７ブロック第27遺物集中部出土石器実測図（１）105
第136図　第Ⅲ文化層第７ブロック第27遺物集中部出土石器実測図（２）106
第137図　第Ⅲ文化層第７ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・107
第138図　第Ⅲ文化層第８ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・108
第139図　第Ⅲ文化層第８ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・108
第140図　第Ⅲ文化層第８ブロック第28遺物集中部出土石器実測図・・・109
第141図　第Ⅲ文化層第８ブロック第30遺物集中部及び第31遺物集中部出土石器実測図・・109
第142図　第Ⅲ文化層第８ブロック第32遺物集中部出土石器実測図・・・109
第143図　第Ⅲ文化層第８ブロック第33遺物集中部出土石器実測図・・・109
第144図　第Ⅲ文化層第８ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・109
第145図　第Ⅲ文化層第９ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・110
第146図　第Ⅲ文化層第９ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・111
第147図　第Ⅲ文化層第９ブロック出土石器実測図・・・・・・・・・・111
第148図　第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・112
第149図　第Ⅲ文化層第10ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・113
第150図　第Ⅲ文化層第10ブロック第37遺物集中部出土石器実測図・・・114
第151図　第Ⅲ文化層第10ブロック第38遺物集中部出土石器実測図・・・115
第152図　第Ⅲ文化層第10ブロック第39遺物集中部出土石器実測図・・・115
第153図　第Ⅲ文化層第10ブロック第40遺物集中部出土石器実測図・・・116
第154図　第Ⅲ文化層第10ブロック第41遺物集中部出土石器実測図・・・116
第155図　第Ⅲ文化層第10ブロック第42遺物集中部出土石器実測図・・・116
第156図　第Ⅲ文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図（１）118
第157図　第Ⅲ文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図（２）119
第158図　第Ⅲ文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図（３）120
第159図　第Ⅲ文化層第10ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・121
第160図　第Ⅲ文化層第11ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・122
第161図　第Ⅲ文化層第11ブロック下部石核等出土石器実測図・・・・・122
第162図　第Ⅲ文化層第11ブロック第45遺物集中部出土石器実測図・・・123
第163図　第Ⅲ文化層第11ブロック第46遺物集中部出土石器実測図・・・123
第164図　第Ⅲ文化層第11ブロック第47遺物集中部出土石器実測図・・・123
第165図　第Ⅲ文化層第11ブロック第49遺物集中部出土石器実測図・・・124
第166図　第Ⅲ文化層第11ブロック第50遺物集中部出土石器実測図・・・125
第167図　第Ⅲ文化層第11ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・126
第168図　第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器分布図・・・・・・・・・・127
第169図　第Ⅲ文化層第12ブロック下部石核等出土状況図・・・・・・・128
第170図　第Ⅲ文化層第12ブロック第51遺物集中部出土石器実測図・・・129
第171図　第Ⅲ文化層第12ブロック第52遺物集中部出土石器実測図・・・129
第172図　第Ⅲ文化層第12ブロック第53遺物集中部出土石器実測図・・・130
第173図　第Ⅲ文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図（１）130
第174図　第Ⅲ文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図（２）132
第175図　第Ⅲ文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図（３）133
第176図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（１）134
第177図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（２）135
第178図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（３）136
第179図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（４）137
第180図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（５）138
第181図　第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（６）139
第182図　第Ⅲ文化層第12ブロック第56遺物集中部出土石器実測図・・・140
第183図　第Ⅲ文化層第12ブロック遺物集中部外出土石器実測図・・・・141
第184図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器分布図・・・・・・・・・・・142
第185図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図（１）・・・・・・・・・142
第186図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図（２）・・・・・・・・・143
第187図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図（３）・・・・・・・・・144
第188図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図（４）・・・・・・・・・145
第189図　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図（５）・・・・・・・・・146
第190図　第Ⅲ文化層接合状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
第191図　接合資料No32（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
第192図　接合資料No32（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
第193図　接合資料No33・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・150
第194図　接合資料No34・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
第195図　接合資料No35・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
第196図　接合資料No36（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
第197図　接合資料No36（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
第198図　接合資料No36（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・154
第199図　接合資料No36（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
第200図　接合資料No37・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
第201図　接合資料No38・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
第202図　接合資料No39・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
第203図　接合資料No40・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
第204図　接合資料No41・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第205図　接合資料No42・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第206図　接合資料No43・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
第207図　接合資料No44・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
第208図　接合資料No45・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
第209図　接合資料No46（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
第210図　接合資料No46（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
第211図　接合資料No47・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
第212図　接合資料No48（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
第213図　接合資料No48（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・165
第214図　接合資料No48（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
第215図　接合資料No49（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167
第216図　接合資料No49（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
第217図　接合資料No50・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・169
第218図　接合資料No51・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
第219図　接合資料No52・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
第220図　接合資料No53・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171
第221図　接合資料No54（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171
第222図　接合資料No54（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172
第223図　接合資料No55・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・173
第224図　接合資料No56・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第225図　接合資料No57・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第226図　接合資料No58（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
第227図　接合資料No58（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・176
第228図　接合資料No58（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
第229図　接合資料No58（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・178
第230図　接合資料No59（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・179
第231図　接合資料No59（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
第232図　接合資料No59（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・181
第233図　接合資料No59（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・182
第234図　接合資料No59（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
第235図　接合資料No60（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・184
第236図　接合資料No60（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・185
第237図　接合資料No60（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・186
第238図　接合資料No60（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187

挿　図　目　次

第239図　接合資料No61（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188
第240図　接合資料No61（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
第241図　接合資料No62（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・190
第242図　接合資料No62（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191
第243図　接合資料No63・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
第244図　接合資料No64・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第245図　接合資料No65（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第246図　接合資料No65（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第247図　接合資料No65（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
第248図　接合資料No65（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第249図　接合資料No65（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
第250図　接合資料No66（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
第251図　接合資料No66（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
第252図　接合資料No67・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
第253図　接合資料No68・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
第254図　接合資料No69（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
第255図　接合資料No69（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
第256図　接合資料No69（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・202
第257図　接合資料No70（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・202
第258図　接合資料No70（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
第259図　接合資料No71・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204
第260図　接合資料No72・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
第261図　接合資料No73・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・206
第262図　接合資料No74・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
第263図　接合資料No75・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
第264図　接合資料No76・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第265図　接合資料No77（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
第266図　接合資料No77（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
第267図　接合資料No77（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
第268図　接合資料No77（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・213
第269図　接合資料No77（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第270図　接合資料No77（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
第271図　接合資料No77（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
第272図　接合資料No78（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
第273図　接合資料No78（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第274図　接合資料No79・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第275図　接合資料No80（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第276図　接合資料No80（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・218
第277図　接合資料No81（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・219
第278図　接合資料No81（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
第279図　接合資料No81（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
第280図　接合資料No81（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
第281図　接合資料No81（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
第282図　接合資料No81（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
第283図　接合資料No81（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
第284図　接合資料No82・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・226
第285図　接合資料No83・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
第286図　接合資料No84・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
第287図　接合資料No85・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
第288図　接合資料No86・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・229
第289図　接合資料No87・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第290図　接合資料No88・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第291図　接合資料No89・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第292図　接合資料No90（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・231
第293図　接合資料No90（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・232
第294図　接合資料No91（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・233
第295図　接合資料No91（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234
第296図　接合資料No92（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・235
第297図　接合資料No92（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
第298図　接合資料No92（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・237
第299図　接合資料No92（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・238
第300図　接合資料No93（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・239
第301図　接合資料No93（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・240
第302図　接合資料No93（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・241
第303図　接合資料No93（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・242
第304図　接合資料No93（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・243
第305図　接合資料No93（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・244
第306図　接合資料No94（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・245
第307図　接合資料No94（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・246
第308図　接合資料No95・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・247
第309図　接合資料No96（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・247
第310図　接合資料No96（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・248
第311図　接合資料No96（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・249
第312図　接合資料No96（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・250
第313図　接合資料No97・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
第314図　接合資料No98・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
第315図　接合資料No99（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・252
第316図　接合資料No99（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・253
第317図　接合資料No99（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・254
第318図　接合資料No99（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・255
第319図　接合資料No99（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・256
第320図　接合資料No99（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・257
第321図　接合資料No99（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・258
第322図　接合資料No99（8）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・259
第323図　接合資料No99（9）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・260
第324図　接合資料No99（10）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・261
第325図　接合資料No99（11）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・262
第326図　接合資料No99（12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・263
第327図　接合資料No99（13）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・264
第328図　接合資料No99（14）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265
第329図　接合資料No99（15）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・266
第330図　接合資料No99（16）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・267
第331図　接合資料No99（17）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・268
第332図　接合資料No100（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・269
第333図　接合資料No100（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・270
第334図　接合資料No100（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・271
第335図　接合資料No101・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・272
第336図　接合資料No102（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・272
第337図　接合資料No102（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・273
第338図　接合資料No103（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・274
第339図　接合資料No103（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・275
第340図　接合資料No103（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・276
第341図　接合資料No103（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・277
第342図　接合資料No103（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・278
第343図　接合資料No103（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・279
第344図　接合資料No104（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・280
第345図　接合資料No104（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281
第346図　接合資料No104（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・282
第347図　接合資料No104（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・283
第348図　接合資料No104（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・284
第349図　接合資料No104（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・285
第350図　接合資料No104（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・286
第351図　接合資料No105（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・287
第352図　接合資料No105（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・288
第353図　接合資料No105（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・289
第354図　接合資料No105（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・290
第355図　接合資料No106（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・290
第356図　接合資料No106（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・291
第357図　接合資料No107・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・292
第358図　接合資料No108（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・292
第359図　接合資料No108（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・293
第360図　接合資料No108（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・294
第361図　接合資料No109・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・295
第362図　接合資料No110・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・296
第363図　接合資料No111・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・296
第364図　接合資料No112・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・297
第365図　接合資料No113（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・298
第366図　接合資料No113（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・299
第367図　接合資料No114（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・299
第368図　接合資料No114（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・300
第369図　接合資料No114（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・301
第370図　接合資料No115（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・302
第371図　接合資料No115（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・303
第372図　接合資料No115（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・304
第373図　接合資料No115（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・305
第374図　接合資料No115（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・306

挿　図　目　次

第375図　接合資料No115（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・307
第376図　接合資料No116（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・308
第377図　接合資料No116（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・309
第378図　接合資料No116（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・310
第379図　接合資料No117（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
第380図　接合資料No117（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・312
第381図　接合資料No117（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・313
第382図　接合資料No118（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・314
第383図　接合資料No118（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315
第384図　接合資料No119（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315
第385図　接合資料No119（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・316
第386図　接合資料No120・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
第387図　接合資料No121・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・318
第388図　接合資料No122・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・319
第389図　接合資料No123・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・320
第390図　接合資料No124（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・321
第391図　接合資料No124（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・322
第392図　接合資料No124（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
第393図　接合資料No124（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・324
第394図　接合資料No124（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・325
第395図　接合資料No124（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
第396図　接合資料No124（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・327
第397図　接合資料No125（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・328
第398図　接合資料No125（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・329
第399図　接合資料No125（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・330
第400図　接合資料No126（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・331
第401図　接合資料No126（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・332
第402図　接合資料No126（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・333
第403図　接合資料No127（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・333
第404図　接合資料No127（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・334
第405図　接合資料No127（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・335
第406図　接合資料No128（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・336
第407図　接合資料No128（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・337
第408図　接合資料No128（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・338
第409図　接合資料No128（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・339
第410図　接合資料No129（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・340
第411図　接合資料No129（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・341
第412図　接合資料No130（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・342
第413図　接合資料No130（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・343
第414図　接合資料No131（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・343
第415図　接合資料No131（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・344
第416図　接合資料No131（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・345
第417図　接合資料No132（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・345
第418図　接合資料No132（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・346
第419図　接合資料No132（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・347
第420図　接合資料No132（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・348
第421図　接合資料No133（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・349
第422図　接合資料No133（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・350
第423図　接合資料No134・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・350
第424図　接合資料No135（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・351
第425図　接合資料No135（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・352
第426図　接合資料No136（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・352
第427図　接合資料No136（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・352
第428図　接合資料No36構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・353
第429図　接合資料No48構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・353
第430図　接合資料No58構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・354
第431図　接合資料No60構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・355
第432図　接合資料No77構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・・356
第433図　接合資料No77構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・・357
第434図　接合資料No81構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・・357
第435図　接合資料No81構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・・358
第436図　接合資料No91構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・359
第437図　接合資料No93構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・・359
第438図　接合資料No93構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・・360
第439図　接合資料No99構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・・361
第440図　接合資料No99構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・・362
第441図　接合資料No99構成剥片実測図（３）・・・・・・・・・・・・・363
第442図　接合資料No99構成剥片実測図（４）・・・・・・・・・・・・・364
第443図　接合資料No103構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・364
第444図　接合資料No103構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・365
第445図　接合資料No113構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・366
第446図　接合資料No114構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・366
第447図　接合資料No114構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・367
第448図　接合資料No117構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・367
第449図　接合資料No124構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・368
第450図　接合資料No125構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・369
第451図　接合資料No126構成剥片実測図（１）・・・・・・・・・・・・369
第452図　接合資料No126構成剥片実測図（２）・・・・・・・・・・・・370
第453図　接合資料No133構成剥片実測図・・・・・・・・・・・・・・・・370
第454図　第Ⅳ文化層全体状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・371
第455図　第Ⅳ文化層遺構配置図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・371
第456図　第Ⅳ文化層遺構配置図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・372
第457図　第Ⅳ文化層遺構実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・372
第458図　第Ⅳ文化層石器実測図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・373
第459図　第Ⅳ文化層石器実測図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・374
第460図　宮ノ上遺跡第Ⅰ文化層～第Ⅲ文化層層位別器種変遷図・・・・375
第461図　宮ノ上遺跡第Ⅲ文化層の剥片剥離技術・・・・・・・・・・・・376
第462図　第Ⅲ文化層工程別・重量別分布図（１）・・・・・・・・・・・378
第463図　第Ⅲ文化層工程別・重量別分布図（２）・・・・・・・・・・・380
第464図　第Ⅲ文化層工程別・重量別分布図（３）・・・・・・・・・・・382
第465図　第Ⅲ文化層工程別・重量別分布図（４）・・・・・・・・・・・384

表　目　次

第１表　周辺遺跡地名表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第２表　基準杭座標一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第３表　宮ノ上遺跡石材分類基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第４表　第Ⅰ文化層出土石器観察表（１）・・・・・・・・・・・・・・・17
第５表　第Ⅰ文化層出土石器観察表（２）・・・・・・・・・・・・・・・20
第６表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（１）・・・・・・・・・・・・・・・29
第７表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（２）・・・・・・・・・・・・・・・30
第８表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（３）・・・・・・・・・・・・・・・31
第９表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（４）・・・・・・・・・・・・・・・32
第10表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（５）・・・・・・・・・・・・・・・35
第11表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（６）・・・・・・・・・・・・・・・38
第12表　第Ⅲ文化層第１ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・・75
第13表　第Ⅲ文化層第１ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・・77
第14表　第Ⅲ文化層第２ブロック～第３ブロック出土石器観察表・・・・80
第15表　第Ⅲ文化層第４ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・・81
第16表　第Ⅲ文化層第４ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・・86
第17表　第Ⅲ文化層第５ブロック出土石器観察表・・・・・・・・・・・・88
第18表　第Ⅲ文化層第６ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・・94
第19表　第Ⅲ文化層第６ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・・98
第20表　第Ⅲ文化層第６ブロック出土石器観察表（３）・・・・・・・・・99
第21表　第Ⅲ文化層第７ブロック出土石器観察表・・・・・・・・・・・107
第22表　第Ⅲ文化層第８ブロック出土石器観察表・・・・・・・・・・・110
第23表　第Ⅲ文化層第９ブロック出土石器観察表・・・・・・・・・・・112
第24表　第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・114
第25表　第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・117
第26表　第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器観察表（３）・・・・・・・・120
第27表　第Ⅲ文化層第11ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・123
第28表　第Ⅲ文化層第11ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・126
第29表　第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表（１）・・・・・・・・131
第30表　第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表（２）・・・・・・・・136
第31表　第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表（３）・・・・・・・・138
第32表　第Ⅲ文化層ブロック外出土石器観察表・・・・・・・・・・・・146
第33表　第Ⅳ文化層出土石器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・374

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所；現南薩地域振興局建設部；以下，道路建設課という）は，主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道「川辺道路」を計画し，事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下，文化財課という）に照会した。これを受けて文化財課は分布調査を行い，事業区内に山神迫遺跡，折戸平遺跡，宮ノ上遺跡，堂園遺跡，鳴野原遺跡，古諏訪陣跡，馬場田遺跡等が所在することが判明した。遺跡の総面積は79,600㎡が想定された。

この結果を受けて，道路建設課，文化財課，埋蔵文化財センターで協議した結果，上記の遺跡の範囲と性格を把握するために確認調査を実施することとし，調査は埋蔵文化財センターが行うこととした。

なお，馬場田遺跡に関しては，事業区域が町道拡幅工事と重なることから，川辺町（現南九州市）教育委員会が確認調査等を行うこととした。

確認調査は，平成16年２月３日から２月26日まで実施し，宮ノ上遺跡は約2,000㎡に縄文時代と旧石器時代の遺物が残存することが確認された。

本調査の期間は以下の通りである。

平成16年度

平成16年5月10日から平成16年８月27日

平成17年１月12日から平成17年３月18日（実働90日）

平成17年度

平成17年６月１日から平成17年９月27日（実働61日）

第２節　調査の組織

平成15年度　確認調査

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　　長	木原　俊孝
調査企画	次長兼総務課長	田中　文雄
	調査課長兼南の縄文調査室長	新東　晃一
	主任文化財主事兼第一調査係長	池畑　耕一
	主任文化財主事	中村　耕治
調査担当	主任文化財主事	中村　耕治
	文化財主事	元田　順子
	〃	岩戸　孝夫
	〃	吉岡　康弘
	〃	石原田高広
事務担当	総務係長	平野　浩二
	主　　事	福山恵一郎

平成16年度　本調査

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　　長	木原　俊孝
調査企画	次長兼総務課長	賞雅　彰
	調査課長兼南の縄文調査室長	新東　晃一
	主任文化財主事兼第一調査係長	池畑　耕一
調査担当	文化財主事	日高　正人
	〃	森　　雄二
事務担当	総務係長	平野　浩二
	主　　事	福山恵一郎

調査指導

鹿児島大学法文学部助教授	本田　道輝
東京大学大学院人文社会研究科助手	安斎　正人

平成17年度　本調査

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　　長	上今　常雄
調査企画	次長兼総務課長	有川　昭人
	次長兼調査第一課長兼南の縄文調査室長	新東　晃一
	主任文化財主事兼第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	池畑　耕一
	主任文化財主事	中村　耕治
調査担当	文化財主事	八木澤一郎
	〃	石原田高広
事務担当	総務係長	平野　浩二
	主　　査	寄井田正秀

調査指導

文化庁美術学芸課考古資料部門文化財調査官	原田　昌幸
鹿児島大学法文学部助教授	本田　道輝
西南学院大学文学部教授	高倉　洋彰

平成19年度　報告書作成

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（南薩地域振興局建設部）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　　長	宮原　景信

作成企画	次長兼総務課長	平山　彰
	次長兼南の縄文調査室長	新東　晃一
	調査第一課長	池畑　耕一
	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	長野　眞一
作成担当	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	長野　眞一
事務担当	主　　査	蒲地　俊一

平成20年度　報告書作成

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（南薩地域振興局建設部）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター所　　長	宮原　景信
作成企画	次長兼総務課長	平山　彰
	次長兼南の縄文調査室長	池畑　耕一
	調査第一課長	青﨑　和憲
	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	長野　眞一
作成担当	調査第一課長	青﨑　和憲
	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	長野　眞一
	文化財研究員	馬籠　亮道
事務担当	主　　査	五百路　真
作成指導	熊本大学文学部准教授	小畑　弘己

平成21年度　報告書作成

事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（南薩地域振興局建設部）	
調査主体者	鹿児島県教育委員会	
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター所　　長	山下　吉美
作成企画	次長兼総務課長	齋藤　守重
	次長兼南の縄文調査室長	青﨑　和憲
	調査第一課長	中村　耕治
	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	井ノ上秀文
作成担当	主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長兼南の縄文調査室長補佐	井ノ上秀文
	文化財研究員	馬籠　亮道
	〃	森　幸一郎
事務担当	主　　査	高﨑　智博
作成指導	大阪市文化財協会長原調査事務所所長代理	絹川　一徳

調査協力者

安斎正人，今田秀樹，岩谷史記，鎌田洋昭，岸田裕一，桑波田武志，寒川朋枝，芝康次郎，髙野学，日高優子，藤木聡，松本茂，森先一貴，和田るみ子

第３節　発掘調査の経緯

本調査は平成16年5月10日～平成16年８月27日，平成17年１月12日～平成17年３月18日，平成17年６月１日～平成17年９月27日の３次にわたって行われた。平成16年度の調査では，８月に新たに旧石器時代の包含層が複数発見され，包含層が調査区外に延びたために改めて用地交渉等を行う必要が生じ，調査を一時中断した。旧石器時代の発掘調査は，用地交渉の結果を受けて平成17年２月に再開し，平成17年度まで実施した。調査の経緯は日誌抄をもって省略する。

（日誌抄）

平成16年度調査

平成16年５月10日（月）～平成16年５月28日（金）
　表土剥ぎ。Ⅱ層～Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。
平成16年６月１日（火）～平成16年６月29日（火）
　Ⅱ層～Ⅲ層掘り下げ，遺物取り上げ。
平成16年７月１日（木）～平成16年７月30日（金）
　Ⅲ層～Ⅴ層掘り下げ。遺構実測。遺物取り上げ。
平成16年８月３日（火）～平成16年８月27日（金）
　Ⅵ層～Ⅷ層掘り下げ。
　B,C-4～9区土坑検出。C-７～12区土層断面実測。
　出土遺物取り上げ。B,C-７～12区地形図作成。
　礫群実測。石器製作跡出土。
平成17年１月12日（月）～平成17年２月25日（金）
　Ⅷ層～Ⅸ層掘り下げ。各ブロック遺物取り上げ。
平成17年３月１日（火）～平成17年３月18日（金）
　Ⅸ層掘り下げ。ブロック検出状況写真撮影。
　石核集中部実測。遺物取り上げ。埋め戻し準備。

平成17年度調査

平成17年６月１日（水）～平成17年６月28日（火）
　調査準備。被覆土の剥ぎ取り。2mメッシュ釘打ち。
　Ⅸ層～Ⅹ層掘り下げ。ⅩⅠ層上面地形図作成。
　遺構等実測。下層確認。
平成17年７月１日（金）～平成17年７月28日（木）
　Ⅸ層～ⅩⅠ層掘り下げ。遺物取り上げ。
　シルト質頁岩ブロック実測。礫群実測・写真撮影。
　ブロック下石核群実測・写真撮影。地形図測量。
平成17年８月２日（火）～平成17年８月26日（金）
　Ⅸ層～ⅩⅠ層掘り下げ。遺物取り上げ。
　Ⅸ層ブロック実測。
　ⅩⅠ層上面等高線測量。礫群実測・写真撮影。
平成17年９月１日（木）～平成17年９月27日（火）
　Ⅹ層～ⅩⅠ層掘り下げ。遺物取り上げ。
　礫群実測・写真撮影。ⅩⅡ層上面地形図測量。
　調査終了準備。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　位置と環境

宮ノ上遺跡は，鹿児島県南九州市川辺町大字古殿字宮ノ上に所在する。

川辺町は薩摩半島のほぼ中央部にあり，西側に東シナ海を望み，東側は錫山等の山塊を境界とし鹿児島市と接している。また，平成19年10月には，近隣の知覧町，頴娃町と合併し，南薩地方の中核都市を目指し南九州市としてスタートした。

本遺跡は，南薩地方最大河川である万之瀬川に流れ込む清水川と神殿川との間の鳴野原台地に位置する。なお，この鳴野原台地上には，堂園遺跡Ａ地点，堂園遺跡Ｂ地点，鳴野原遺跡Ａ地点，鳴野原遺跡Ｂ地点等の大小の遺跡が存在し，古くから生活条件を満たす良好な環境が形成されていたことを物語っている。

清水川は遺跡の東側を北東から南西方向に走り，溶結凝灰岩や厚く堆積するシラスを深く刻んで段丘崖を形成している。地質構造的には四万十層群を基盤層とし，これらは副産物として石器の材料となる砂岩や頁岩を供給している。加えて，近年の調査では，蛇紋岩の露頭も知られるようになり，縄文時代以降の石器とりわけ磨製石斧の供給源であった可能性が指摘されてきている。その四万十層群の上位を阿多火砕流に起因する溶結凝灰岩が覆い，さらに姶良カルデラ起源のシラスが厚く堆積している。そしてこれらの台地は，中小河川の開析により狭小で間延びした南九州特有のヤツデ状の台地を形成している。すなわち，本遺跡の東側を走る清水川が開析した溶結凝灰岩崖に刻まれたのが「清水磨崖仏」である。

第２節　歴史的環境

南九州市川辺町内の先史時代及び古代の遺跡は町内全域に分布し，中でも万之瀬川流域や川を眺望できる台地上には密に分布する。

町内最古の遺跡は，後期旧石器時代のナイフ形石器や台形石器，剥片尖頭器等を出土する津フジ遺跡，背野平遺跡，上桑持野遺跡，荻久保遺跡等があり，背野平遺跡ではＡＴ層上位から７基の礫群が発見され，24,000年程前の生活痕跡を知ることができる。本遺跡で主体をなす石器群は上記石器群に後続する時期に属するとみられるが，石材原産地の近傍に位置し原産地遺跡的な性格をもつこと，多量の石器接合資料が得られ石器製作技術やブロック形成過程を具体的に検討可能なことが特に重要である。

縄文時代になると遺跡数も飛躍的に増加し，具体的活動の痕跡を多くの遺跡で見ることが可能となってくる。町内の縄文時代で最も古い縄文時代草創期の遺跡が鷹爪野遺跡で，隆帯文土器と共に舟形状配石炉が発見されている。また，その上位では早期の前平式土器が磨製石鏃と共に８軒の竪穴住居跡を伴って発見されている。小崎遺跡では南下した押型文土器に伴って食糧残滓の貝殻や獣骨が発見され，荒多遺跡・上桑持野遺跡・鳴野原Ｂ遺跡等では塞ノ神式土器が主体で遺跡を構成している。万之瀬川沿いの廻り淵遺跡や南田代遺跡，古市遺跡からは曽畑式土器や深浦式土器等の縄文時代前期から中期の遺構・遺物が発見され，時代と共に遺跡の立地が変化していく様相を見ることができる。次に，田中堀遺跡からは，指宿式土器や市来式土器が多数出土し，貯蔵穴と見られる土坑も造られている。また，2007年川辺町教育委員会発行の答石遺跡の報告書では後期の御領式土器の存在が報じられ，縄文時代のほぼ全ての遺跡が存在することが分かる。

弥生時代から古墳時代の遺跡に関しては，万之瀬川や神殿川等の河川流域や流域に直結する台地から発見される傾向が見られる。堂山遺跡では弥生前期の，古市遺跡でも同時期の竪穴住居跡が２軒発見されている。弥生中期になると，大型スーパーが進出した寺山遺跡で大規模なＶ字溝が造られ，万之瀬川を見下ろす台地に環濠集落が存在した可能性が高くなっている。この寺山遺跡の環濠集落は，万之瀬川を取り込んで構築された可能性が高い。出土品からは，丹塗り土器等の北九州系土器も含まれ，広範な交流の痕跡が読み取れる。そして，弥生後期から古墳時代前期の集落構造や葬制の様相は，堂園Ａ遺跡と堂園Ｂ遺跡で明らかになり，集落は堂園Ｂ遺跡で，当時の墓は堂園Ａ遺跡で具体的に見ることができる。さらに堂園Ｂ遺跡の竪穴住居跡の中には，鍛冶工房と指摘される特殊な建物跡もあり大いに注目される。

『倭名類聚抄』によると，古代には「加波乃部」と訓じられ河辺郡に属し，稲積・川上の二郷があったとされる。現在の川辺町は，河辺郡川上郷と阿多郡嘉例郷に属していたとされる。

平安時代末期から鎌倉時代中期にかけ，河辺郡は府領社と公領からなる。地頭は島津忠久が，府領社下司と公領郡司には河辺氏の子孫河辺道綱の名が伝えられる。その後，島津忠良の三州統一化により川辺も直轄地として組み込まれることとなり，平山城・松尾城・山石城等の乱立する詰城がその緊張した時代背景を伝えている。

鹿児島県の史跡に指定されている「清水磨崖仏群」は，清水川の右岸の溶結凝灰岩崖に刻まれている。凝灰岩崖は高さ20mに達し，総延長400m間に192体の梵字・五輪塔・宝篋印塔が確認され，その造営は平安時代から明治時代の長い間連綿と行われたとされる。

旧川辺町は，現在支所等の行政機関が集中する平山地区に中心を置くが，磨崖仏群が造立された創建当初は“岩屋”に，鎌倉期から室町期にかけては清水から古殿・神殿が中心であったと伝えられている。

第３節　鳴野原台地周辺の発掘調査

鳴野原台地及びその周辺では，川辺道路建設に伴い計９遺跡の調査が行われた。

川辺町
尾松
神殿
上里
中服良
田代
下里
鳴野
鳴野原
内木折
清水磨崖仏
桜元
小栗栖
木場田
桑水流
松城
野崎
古殿
野間大久保
野間
中福良
荒殿
島内
宮下
迎川原
中川原
山添
両添
向江町
川原町
平山
横
谷
西野
徳永
御園
0
(1 : 25,000)
1km

第１図　周辺遺跡位置図

折戸平遺跡，山神迫遺跡については確認調査で遺構や遺物が発見されなかったため本調査は行われていない。

宮ノ上遺跡は台地から一段上の段丘上に位置し，旧石器時代～縄文時代の遺物が多く出土した。旧石器時代ではナイフ形石器文化期後半期を中心に，充実した資料が得られている。縄文時代以降の調査成果については今後も整理作業を継続する予定であるが，縄文時代後期前半の土器群を中心に多量の遺物が出土している。

堂園遺跡は，南北に２つの調査区が設定され，北側をA地点，南側をB地点として調査が行われた。

堂園遺跡A地点は弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての土坑墓が64基検出され，県内では類例の少ない時期の土坑墓群として注目される。

堂園遺跡B地点は弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡が25軒検出され，弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落跡が発見されたことが注目される。この中には南九州特有の花弁形住居が12軒含まれる。従来，花弁形住居は薩摩半島では検出例が少なかったが，この例を含めて近年出土例が増加しており，本遺跡例も薩摩半島中部の事例として重要な資料である。

堂園遺跡に関しては，B地点で検出された竪穴住居群と，北に約600m離れたA地点で検出された土坑墓群との関係も重要である。同時期の集落域と墓域が近距離で検出された事例は鹿児島県内では初めてであり，当該期の集落景観を検討する上できわめて重要な資料となる。

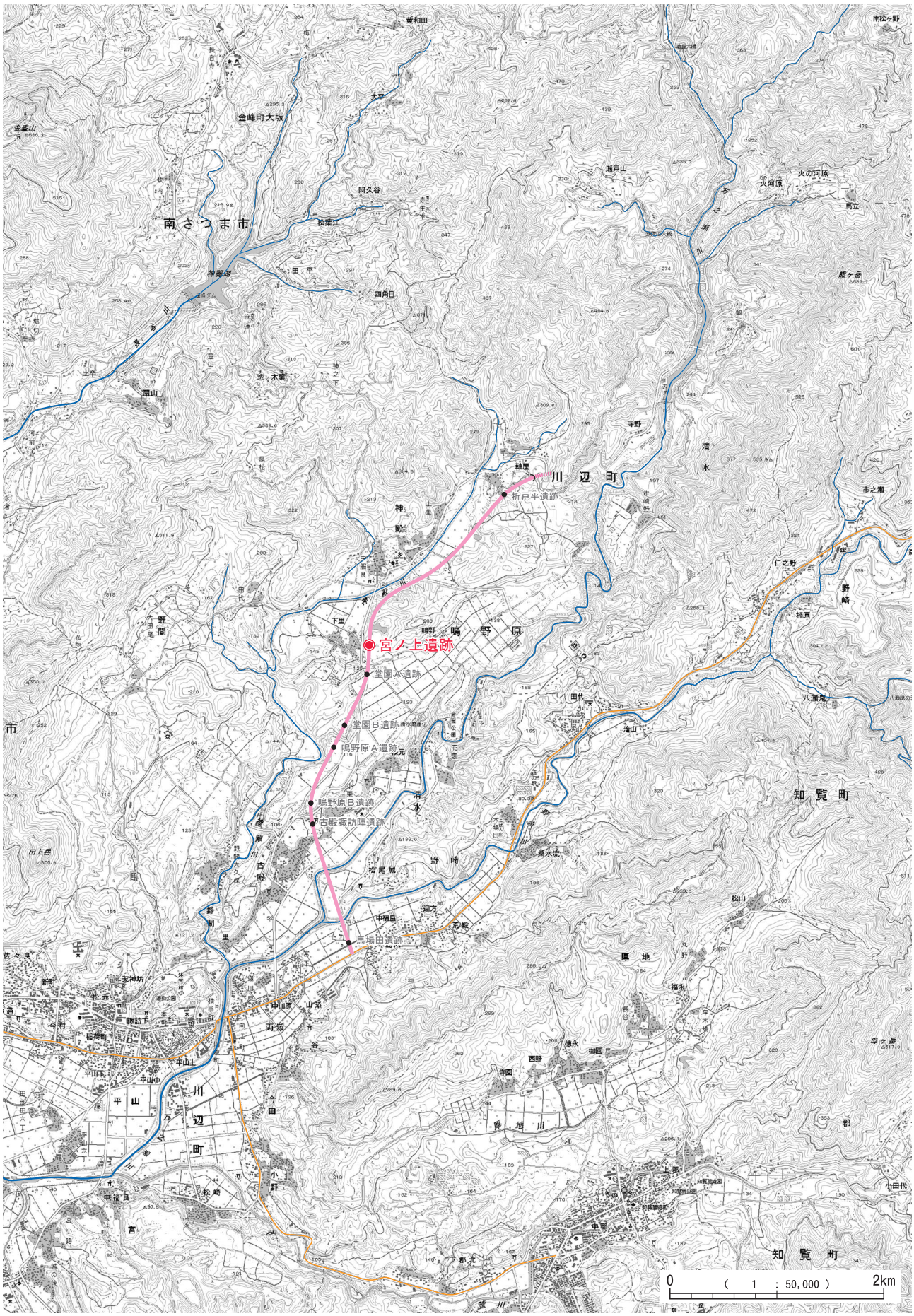
鳴野原遺跡は，堂園遺跡の南側に位置する。堂園遺跡同様，A地点とB地点に分かれて発掘調査が行われた。鳴野原遺跡A地点は，古墳時代と縄文時代後期の住居跡が検出され，多量の遺物が出土した。鳴野原遺跡B地点は台地の南縁に近く，縄文時代早期の集石と遺物が出土した。これらは現在整理作業中であり，今後発掘調査報告書が刊行される予定である。

古殿諏訪陣跡は応永24年９月11日の島津豊久と伊集院頼久の合戦の折，伊集院氏が敗走する島津氏を追撃するために布陣した地とされている。発掘調査では本陣とされた諏訪神社から西に約50m離れているためか明瞭な遺構は確認されなかった。

低地部に位置する馬場田遺跡は，南九州市教育委員会によって発掘調査が行われた。千竈氏の居館推定地に隣接する区域で，溝状遺構や陶磁器類が多く出土している。

第１表　周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	平野上	川辺町神殿平野上	台地	古墳	成川式	
2	山神下	川辺町神殿山神下	台地	古墳	成川式	
3	山神迫	川辺町神殿山神迫	台地	古墳	成川式	
4	上五反田	川辺町神殿上五反田	台地	古墳	成川式	
5	折戸平	川辺町神殿折戸平	台地	縄文	縄文土器	
6	高船	川辺町神殿高船	台地	弥生	弥生土器片散布	旧名「上ノ段中須」「地ノ目」を併合
7	高船山頂	川辺町神殿高船	山頂緩斜面	縄文(早期)	集石,前平式	
8	内青折	川辺町清水内青折	台地	古墳	成川式	
9	萩久保	川辺町神殿萩久保	台地	旧石器,縄文(早期)	ナイフ形石器,吉田式,前平式,石坂式	
10	中之平	川辺町清水中之平	台地	古墳	成川式	
11	内青折城跡	川辺町清水池ノ谷	台地	平安～中世		
12	上ノ原	川辺町神殿上ノ原	台地	古墳	成川式	
13	神殿小上	川辺町神殿小学校上	扇状地	古墳	成川式	
14	法師原	川辺町神殿法師原	台地	縄文,弥生	弥生土器	
15	大蔵	川辺町神殿大蔵	山麓	縄文	土器片散布	消失
16	宮ノ上	川辺町神殿宮ノ上	丘陵	旧石器, 縄文早期, 縄文(後期)	ナイフ形石器,細石刃核, 前平式, 指宿式	本報告書
17	堂園	川辺町神殿	台地	縄文(中期,後期,晩期),弥生(中期,後期), 古墳,古代,中世	集石,集落跡,土坑墓,道跡,深浦式,指宿式,黒川式, 山ノ口式,黒髪式,松木薗式,中津野式,土師器,鉄鏃	鹿埋セ(108), 鹿埋セ(123)
18	鳴野原	川辺町神殿鳴野原	台地	縄文(早期)	石坂式,塞ノ神式,石鏃,磨製石斧,磨石,砥石	鹿埋セ(47)
19	中須	川辺町神殿中須	台地	古墳	成川式	
20	横堀	川辺町神殿横堀	台地	古墳	成川式	
21	馬渡	川辺町清水馬渡	台地	縄文	土器片散布	平成12年確認調査
22	黒葛木ヶ迫	川辺町清水黒葛木ヶ迫	台地	弥生	土器片散布	
23	尾立	川辺町清水尾立	台地	弥生	弥生土器片散布	
24	田代	川辺町田代小学校上	山麓緩斜面	縄文(早期)	前平式	
25	仮集	川辺町清水仮集	山麓傾斜面	縄文,古墳,古代	縄文土器,成川式,須恵器	
26	東ヶ迫	川辺町清水東ヶ迫	台地	縄文,古墳		
27	木場田	川辺町清水木場田	台地	縄文		
28	東俵作野	川辺町野崎東俵作野	丘陵	縄文(早期)	押型文	
29	雲朝寺跡	川辺町清水桜元	低地			
30	桜馬場	川辺町清水桜馬場	低地	古墳～中世(鎌倉)	成川式,青磁,白磁	
31	川辺氏居館跡	川辺町清水小栗栖	低地	中世		
32	宝光寺跡	川辺町清水宇都	山麓緩斜面	中世(鎌倉)～近世	礎石一部残存	川辺町教育委員会(昭和33)
33	北中横	川辺町清水旧北中横	低地	平安～中世(鎌倉)	土師器,青磁,白磁	
34	古殿諏訪陣跡	川辺町古殿内陣	台地	古墳,古代,中世	成川式,土師器,須恵器,青磁,白磁,染付	鹿埋セ(108)
35	松尾城跡	川辺町野崎松尾城	丘陵	中世(鎌倉)	空堀,曲輪	
36	野崎陣跡	川辺町野崎陣平	台地	中世		
37	馬場田	川辺町両添	台地	中世		南九州市教委(○)
38	大田尾	川辺町清水大田尾	台地	縄文(後期)	市来式	
39	草葉	川辺町野間草葉ほか	台地	縄文～古墳		
40	野間陣之尾城跡	川辺町野間陣之尾	台地	中世		
41	平山城跡	川辺町平山天神	河岸段丘	中世,近世	青磁,染付	川辺町教委(1)
42	厚地城跡	知覧町厚地堀之内	山麓緩斜面	中世	空堀	
43	野石城跡	知覧町厚地野石	山麓緩斜面	中世？	字名	
44	山石城跡	知覧町厚地宮谷山	山頂緩斜面	古代？		



第２図　川辺道路関連遺跡位置図

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　発掘調査の方法

宮ノ上遺跡の本発掘調査は，平成16年度と平成17年度の合計３次にわたって，合計2,000㎡を対象として行われた。調査地は鳴野原台地上の神殿下里集落に面する丘陵地の西側斜面に位置し，旧地は山林，果樹園等に利用されていた。

本調査に当たっては，表土を重機で除去した後，10mグリッドを設定してⅢ層以下を人力によって掘り下げた。ただし，包含層が確認されなかった部分や無遺物層については，重機を使用して掘り下げを行った。旧石器時代の包含層はⅦ層以下に相当する。この層準では10mグリッドに沿って2mグリッドを設定して調査を行った。

グリッドの設定にあたっては，基本グリッド間隔を10mとし，工事用センター杭No.170を基点に工事用センター杭No.177を視準した線をグリッドの基軸とした。測量座標の取り扱いについては，発掘調査では国土座標によって測量作業が進められたが，本報告書では整理作業の都合上，グリッドに基づく任意座標系に変換した（第３節参照）。任意座標系はA-1杭を原点として縦軸をX，横軸をYとした。

なお，工事用センター杭No.170の国土座標はX=-174809.852,Y=-55248.550であり，任意座標はX=10.000,Y=0.000である。また，工事用センター杭No.177の国土座標はX=-174949.726，Y=-55254.077であり，任意座標はX=10.000，Y=139.984である。第３図にグリッド配置を，第２表に基準杭の座標を示した。

第２節　遺跡の層序

層序については南薩地方の層序と基本的には同様であるが，旧石器時代包含層については，宮ノ上遺跡特有のものである。以下に，各層の特徴を示す。

Ⅰ層：表土

Ⅱ層：黒色土。縄文時代～中世の遺物包含層である。

Ⅲ層：黄茶褐色火山灰土。6,400年前の鬼界カルデラ起源の火山灰で通称アカホヤと呼称される。宮ノ上遺跡においては，二次堆積中に開聞岳起源のコラがブロック状に認められたが，どの時代の爆発かは確認できなかった。

Ⅳ層：暗褐色硬質土。固く締まった土層である。

Ⅴ層：黒褐色硬質土。層内にパミスを含む。縄文時代早期の遺物が包含される。

Ⅵ層：黄褐色火山灰層。層の下部は軽石状を呈する。11,500年前の桜島起源の薩摩火山灰層に比定される。

Ⅶ層：暗赤褐色土層。旧石器時代～縄文時代草創期の遺物包含層である。

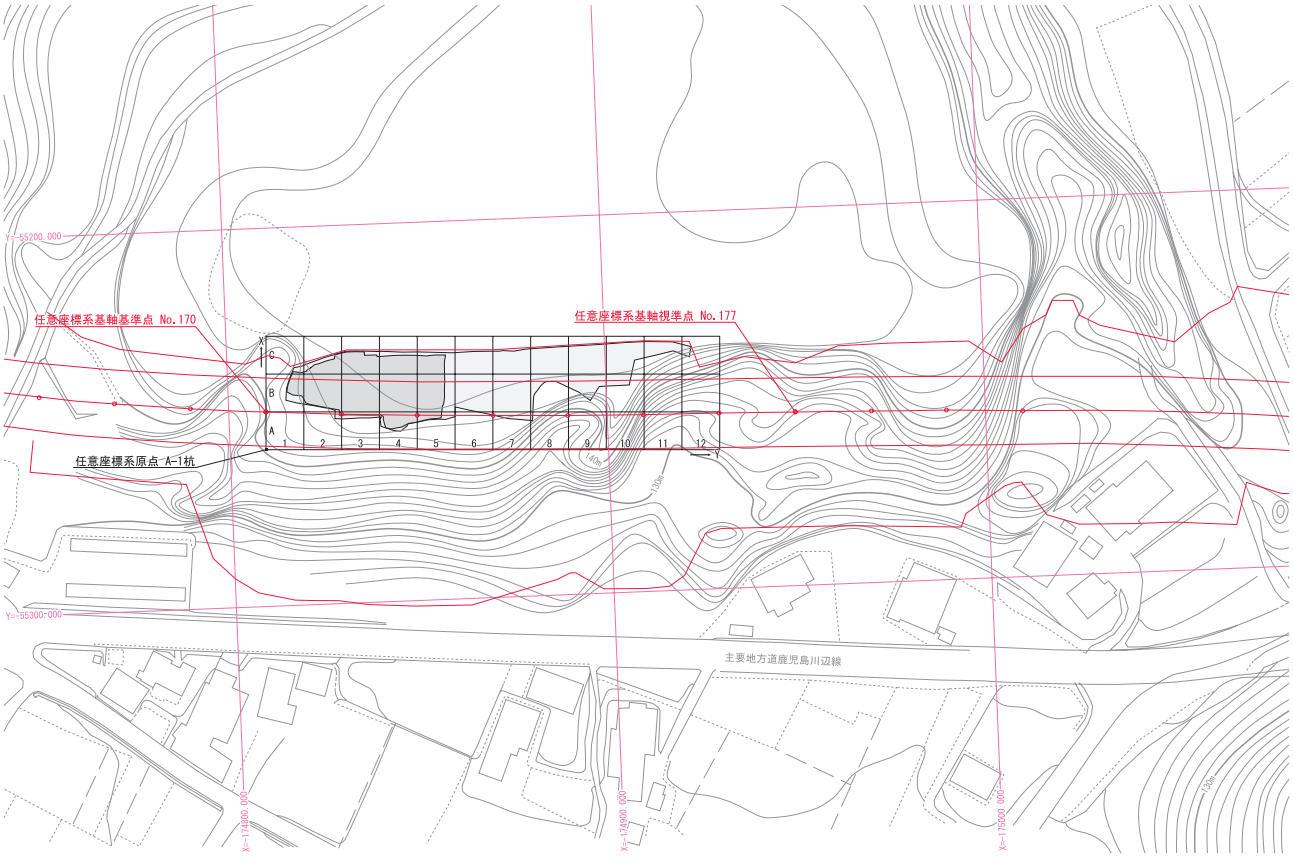
Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層。旧石器時代の遺物包含層である。

Ⅸ層：褐色シルト質土層。旧石器時代の石器製作跡が検出された。

Ⅹ層：にぶい赤褐色粘質土層

ⅩⅠ層：にぶい赤褐色シルト質土層

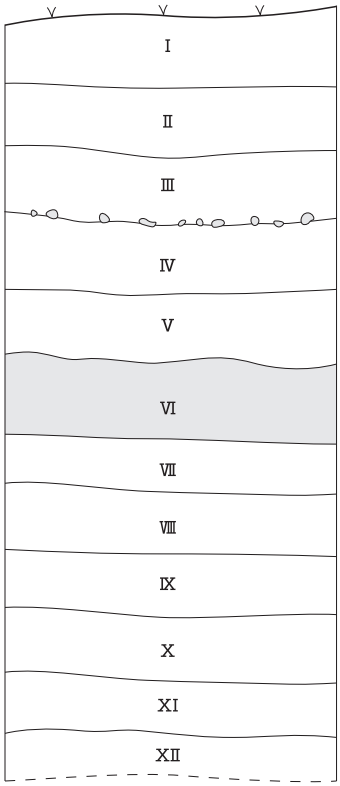
ⅩⅡ層：燈色軽石混じりシルト質土層



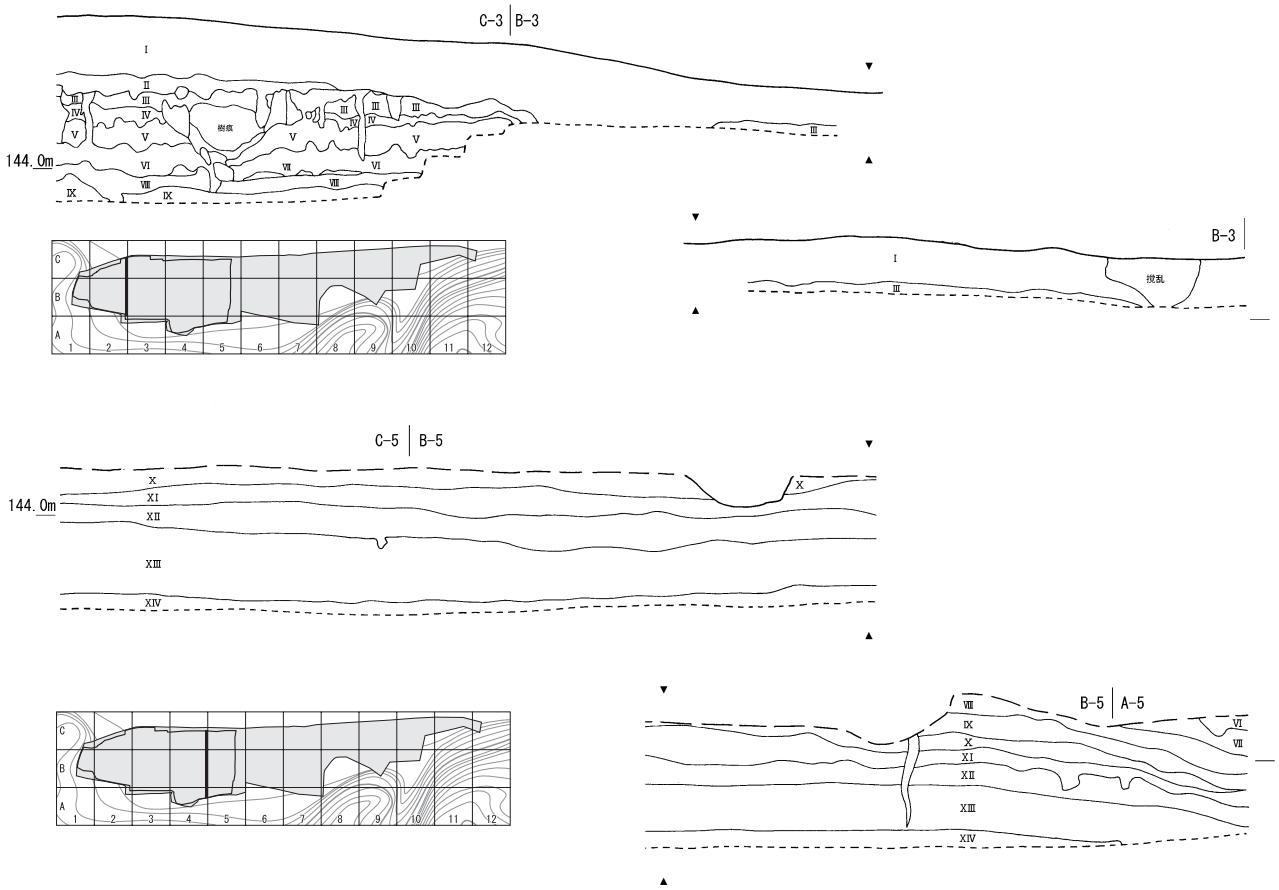
第３図　周辺地形およびグリッド配置図

第２表　基準杭座標一覧表

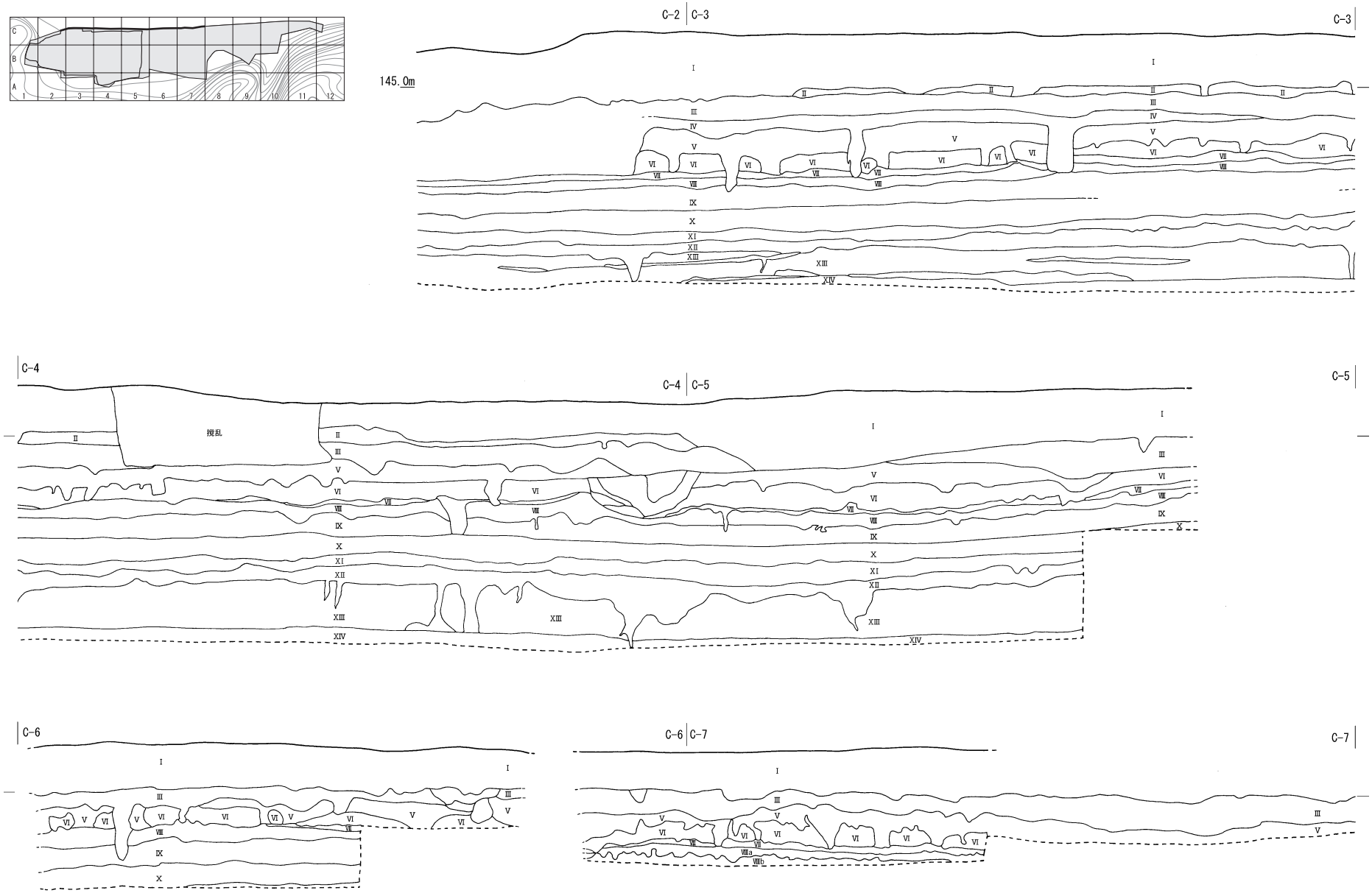
点名	公共X座標	公共Y座標	任意X座標	任意Y座標	備　　考
No170	-174809.852	-55248.550	10.000	0.000	任意座標系基軸基準点
No177	-174949.726	-55254.077	10.000	139.984	任意座標系基軸視準点
A-1	-174809.457	-55258.542	0.000	0.000	任意座標系原点
A-13	-174929.363	-55263.280	0.000	120.000	



第４図　基本土層図



第５図　土層断面図（１）



第６図　土層断面図（２）

第３節　整理作業の方法

宮ノ上遺跡では，概ね次のような作業手順により整理作業を進めた。

平成16年度・平成17年度

（1）水洗

遺物の水洗は主として発掘調査現場で行った。なお，微細剥離等の認定を確実に行うため，水洗は超音波洗浄機を使用して行った。

発掘調査現場では乾燥後遺物カードと共に袋詰めまでの作業を行い，以降の作業は発掘作業終了後に埋蔵文化財センターで行った。

平成19年度～平成21年度

平成19年度は遺物の一次選別と実測遺物の選定，実測委託，注記，接合作業を中心に作業を行った。

なお，石材分類については，第３表に示した基準に基づき，肉眼的特徴による分類を行った。

分類基準は，仁田尾中Ａ・Ｂ遺跡基準をベースに，頁岩類について細分基準を変更した。これは，宮ノ上頁岩原産地の発見と原産地資料，宮ノ上遺跡の接合資料等により新たに分類基準の検討が可能になったことによる。

（1）一次選別

一次選別では，作業を①実測遺物の選抜，②剥片分類，③砕片分類，④礫分類に区分し選別を行った。なお，作業にあたっては次の事項に留意した。

①実測遺物選別

実測遺物の選別にあたっては，石材原産地に立地し，かつ多くの石器製作跡が検出された遺跡の特性を考慮し，製品のみでなく石核，製品素材となりうる剥片等についても重点的に選別を行った。また，剥片等の観察に際しては，二次加工だけでなく微細剥離等の有無にも十分注意しながら作業を行った。

②剥片分類

石材分類を行った。ただし，ここでの分類はOB,SH等の大分類レベルに止め，二次選別以降の段階で細分を行った。

③砕片分類

砕片については，概ね径5mm以下の小片を中心に選別した。なお，径5mmを越える場合であっても，ブロック状の砕片，風化部分等については径7mm程度までを砕片に区分した。

④礫分類

礫については石材，サイズ等を考慮しながら被熱破砕礫，自然礫等に区分した。なお，ハンマー等の石器類については実測遺物に区分した。

（2）二次選別

二次選別段階では，概ね次のような作業を行った。

①実測遺物選別

一次選別において選抜した遺物を細かく観察し，実測が必要と判断した遺物について実測番号（[S]+3桁）を付与し，取上番号，出土区，層位，分類，石材等を実測遺物管理台帳に記載した。また，この段階で重量計測を行った。

②剥片分類

石材分類の確認と細分を行った。ただし，ここでは分類をOB1,CC2,SH2,HF3等の中分類レベルに止めた。

分類後，データ入力を行った。

なお，本遺跡では接合作業が確実に必要と判断されたため，剥片についてはすぐに注記作業へ移行した。

③砕片分類

砕片についても二次選別に併せて分類や石材の最終確認を行った。確認終了後はパンケースに収納し，データ入力を行った。

④礫分類等

被熱破砕礫については石材や重量など必要なデータの記録を行った。

（3）座標データ処理

宮ノ上遺跡では，発掘調査の一部民間委託により，成果品として遺物出土位置座標や遺構測点などが座標データとして納品された。

座標データの処理はこれらの納品済データを基にして行った。なお，使用する座標系についてはグリッド配置図に準じて，座標データをC-1区北隅を原点とする任意座標系に変換して使用した。また変換結果を元に分布図を作成し，国土座標ベースのものと比較して齟齬がないことを確認した。

座標データの処理に併せ，層位，グリッド，取上日等のデータについても発掘調査時のデータを基に確認・統合を行った。特に，グリッドについては座標値との整合性を確保する観点から，座標値に基づく再判定を実施した。このため，注記と観察表に表示されるグリッドは異なる場合がある。なお，発掘調査時の記載情報は備考欄に転載した。

これらの座標データは，"遺物座標DB"としてExcel形式で保存した。

（4）分布図作成

処理した座標値を基に，層位別の総点ドットを作成した。

宮ノ上遺跡の旧石器時代石器群は概ねⅦ層～ⅩⅡ層に相当し，中でもⅨ層～Ⅹ層にピークがあることが発掘現場での所見により判明していたが，これを分布図でも確認し，整理作業の進め方を検討した。

（5）注記

接合作業の対象となる剥片等について，注記作業を行った。非実測遺物については原則として白のポスターカラーで遺跡記号，グリッド，層位，取上Noを記載し，実測遺物については黄色のポスターカラーで実測Noのみを注記することとした。

（6）接合作業準備

発掘現場ではⅨ層～Ⅹ層出土遺物を中心に，概ね十数か所のブロックが認定された。

この成果を踏まえ整理作業では座標データを基に分布図を作成した。その結果，現場で認定されたブロックは平面的に60か所程度の集中部にさらに細分できることが判明した。

そこで，接合をより効率的に進める観点から図面上で接合作業のための集中部認定を行い，各集中部毎の取上Noリストを作成して各集中部毎に遺物をまとめ接合作業を進めることとした。

（7）接合作業

接合作業は，各集中部内で非実測遺物の接合から順次開始した。実測遺物についても実測作業が終了したものから順次投入して接合作業を行った。

各集中部内での接合状況を見ながら隣接集中部間接合→同一ブロック内での集中部間接合→隣接ブロック間接合→ブロック間接合と次第に範囲を広げながら接合作業を行った。

この間，母岩別の分類なども繰り返し行い，最終段階では特にブロック間の接合に努めた。

（8）接合番号の付与

接合作業がある程度進んだ段階で接合番号を付与し，接合遺物台帳を作成した。同時に剥離順についても観察を行い，剥離順を記号化して台帳に記載した。これらの記載事項は必要に応じてデータ入力を進め，順次内容を更新しながら諸作業の基本情報とし，接合資料毎に表記した（第７図）。

なお，剥離順は同一打面上で連続する剥離について，打面をアルファベット，ひらがな，カタカナの順に，剥離順を数字で記載した。剥離の前後関係については，接合位置や剥離面の切り合い，打点移動等から前後関係を理解できたものは「→」で，そうでないものは「…」で関係を表記した。

また，一回の打撃でアクシデンタルに複数の剥片が剥離された場合にはこれらを「＋」でつなぎ，括弧でまとめて表記した。加えて，剥片等を素材としてさらに剥離が進められる場合があるので，これらも括弧で括り構造化して表記した。

従って，"(A1＋A2)→A3→A4→A5→A6→[(A7＋A8)…(A9)]→B1"の場合は，次のように解釈される。

A打面では，最初の打撃で(A1+A2)が剥離され，次にA3～A6までが順次剥離される。次に(A7＋A8)と(A9)が剥離されるが，これらのブロックは前後が入れ替わる可能性がある。

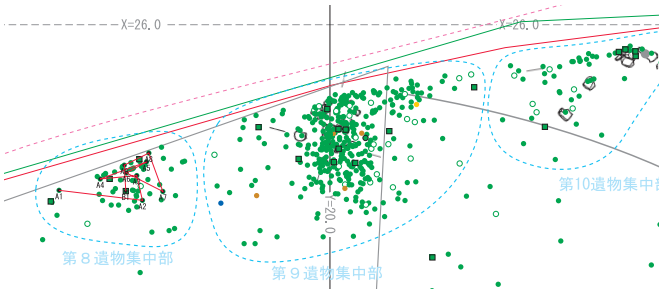
この場合，記載は剥離順が先に来る可能性の高いものから行い，順序の逆転が複数の剥離に及ぶ場合には順序の逆転が及ぶ範囲を[]で記載している。

次に，剥離順が"(A1+A2)→A3→[(B1＋B2)→B3→C1]→D1"と記載された場合には，まず，A打面の剥離が行われた後，ブロックBCが１回の打撃で剥離され，その後D1が剥離されたと理解する。[]で括られた(B1+B2)からC1までの剥離はブロックBCを素材とする状態で剥離されたことを意味する。

（9)実測

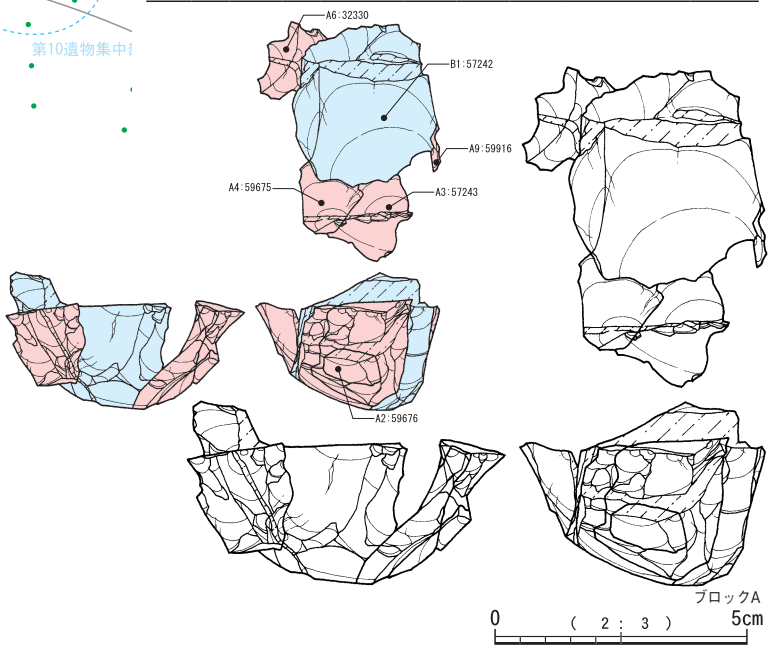
実測については，各整理作業年度に外部委託によって行ったものがあるほか，簡易なものについては埋蔵文化財センターで実測作業を行った。製図が終了した図面は順次スキャナーで読み込み，データを蓄積した。

なお，宮ノ上遺跡では実測図作成後も継続して接合作業を行ったため，実測図に記載されていない資料がある。これらは非掲載資料を含め，観察表にID等を記載した。



剥離順：(A1＋A2)→A3→A4→A5→A6→[(A7→A8)…(A9)]→B1

接合No	剥離順	取上No	ブロック	集中部	剥離段階	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
39	A1	28,807	B04	C08	S3	25.124	18.567	143.325	Ⅸ	剥片	0.8	実測後接合
						（中	略）					
39	A8	59,777	B04	C08	S3	25.321	19.042	143.220	Ⅸ	剥片	0.7	実測後接合
39	A9	59,916	B04	C08	S3	25.257	18.912	143.190	Ⅸ	剥片	0.3	-
39	B1	57,242	B04	C08	CO	25.120	18.920	143.202	Ⅸ	石核	57.1	第105図179



第７図　接合資料の記載方法

（10）報告書作成

報告書作成は，デジタル方式で行った。分布図，実測図等の要素を全てデータとして作成し，データ入稿を行うものである。使用した主な機材は，次のとおりである。

デスクトップパソコン (CPU:Core2Duo 3.00GHz)

スキャナ　(EPSON ES-10000G)

また，データの処理には次のソフトウェアを使用した。

OS：Microsoft Windows XP

データ等の管理・処理：Microsoft Excel

報告書編集：Adobe InDesign CS3

実測図データ処理，写真処理：Adobe Photoshop CS3

分布図作成，地形図作成等　：Adobe Illustrator CS3

第３表　宮ノ上遺跡石材分類基準

類	群	グループ	個体	特　　徴
黒曜石Ⅰ類[OB1；●]	不純物を多く含み，漆黒で全く光を通さないもの。			
黒曜石Ⅱ類[OB2；●]	不純物を多く含み，光を通すもの。			
	A群	不純物がやや均一で，基質は黒色～アメ色を呈するもの。		
		a	基質が黒色を呈し，わずかに光を通すもの。	
		b	基質がアメ色を呈するもの。	
	B群	不純物が不均一に入り，径0.5mm～1mm程度の石英質の不純物を含むもの。基質はアメ色を呈するものが多いが，まれにオリーブ灰色～黒色を呈する。		
		a	基質がアメ色を呈し，オリーブ灰色～暗灰色の流理が観察されるもの。	
		b	基質がアメ色を呈し，暗灰色～黒色の明瞭な流理が観察されるもの。基質はガラス光沢がやや強く，流理は網目状を呈するものが多い。	
			1	流理が黒色～暗灰色のものだけで構成されるもの。
			2	基質または流理の一部に赤褐色の部分が観察されるもの。
		c	基質が黒色を呈し，白色の不純物を含むもの。	
	C群	不純物が均一で石英質の不純物を多く含み，基質はほとんど光を通さない黒灰色を呈するもの。		
	D群	球状の石英質の不純物を多く含み，基質はアメ色を呈するもの。まれに流理が観察される。		
	E群	微少な黄色の粒状の不純物を多く含むもの。基質はアメ色を呈するもの。		
黒曜石Ⅲ類[OB3；●]	A群	不純物を含まないか，わずかに含むもので，アメ色～黒色を呈し，透明度が高いもの。基質にわずかな白濁や流理がみられるものを含む。		
		a	自然面が平滑で不純物をほとんど含まないもの。	
		b	自然面が平滑ですりガラス状を呈し，不純物をほとんど含まないもの。	
	B群	不純物を含まないか，わずかに含むもので，アメ色，オリーブ灰色，黒色を呈し，A群に比べて透明度がやや低いもの。		
		a	基調はアメ色を呈するが，黒色の霧状の流理が発達し，全体として黒色，またはオリーブ灰色に見えるもの。	
		b	基調がアメ色を呈し，オリーブ灰色～黒色の流理が観察されるもの。	
			1	流理が明瞭で，非常に顕著に発達するもの。黒色の流理部分は梨肌を呈する。
		c	基質の一部または全部が白濁するもの。	
		d	基質に微細な気泡が多く含まれ，視覚的に白濁して見えるもの。	
	C群	不純物をほとんど含まないか，わずかに含むもので，オリーブ灰色～黒色を呈し，透明度がほとんどないもの。		
		a	基調が黒色を呈するもの。ガラス光沢をもち，わずかに透明感がある。	
		b	基質がオリーブ灰色を呈するもの。石英質の不純物を含み，梨肌を呈するものが多い。	
		c	基質が青灰色を呈するもの。石英質の不純物を多く含み，梨肌を呈するものが多い。	
	D群	プラスチック様のガラス光沢を呈し，漆黒で灰色の球顆を含み，自然面が銀色に風化するもの。		
玉髄Ⅰ類[CC1；●]	基調が比較的珪質分に富み，白色系の色調を基調とするもの。			
玉髄Ⅱ類[CC2；●]	基調が比較的珪質分に富み，赤色系の色調を基調とするもの。			
頁岩Ⅰ類[SH1；●]	珪質分が非常に富む頁岩。油脂光沢のあるもの。			
	A群	白色系の珪質頁岩。		
	B群	黒色系の珪質頁岩。		
	C群	緑色系の珪質頁岩。		
頁岩Ⅱ類[SH2；●]	珪質分にはやや富むが油脂光沢があまり無いもの。			
	A群	黒色～灰色系の色調を呈するもの。		
		a	基調が暗灰色～灰色を呈し，あまり風化しないもの。	
			1	白色または暗緑色の節理がわずかに入るもの。
			2	白色または暗緑色の節理が発達するもの。
		b	基調が明灰色を呈するもの。	
			1	白色または暗緑色の節理がわずかに入るもの。
			2	白色または暗緑色の節理が発達するもの。
		c	基調がやや緑がかった灰色を呈し，暗緑色の節理が発達するもの。	
	B群	緑色系の色調を基調とし，暗緑色の節理が発達するもの。[東九州系]		
頁岩Ⅲ類[SH3；●]	珪質分がほとんど無く無光沢で，節理は発達せず，緻密で良質のもの。いわゆる硬質頁岩。泥質ホルンフェルスを含む。			
	A群	基調が黒色～暗灰色を呈するもの。斑紋のみられない泥質ホルンフェルスを含む。[東九州系硬質頁岩]		
		a	節理が全くみられないもの。	
		b	白色の節理が発達するもの。	
		c	白色の層理が観察されるもの。	
	B群	基調がベージュ～茶色系の色調を呈するもの。斑紋のみられない泥質ホルンフェルスを含む。[東九州系硬質頁岩]		
	C群	基質はやや緻密で，白い節理が発達するもの。若干珪質分を含むものもあるが，ほとんどは無光沢。表面が白く風化するものもある。[在地系硬質頁岩]		
		a	基質が黒色～暗灰色を呈するもの。	
			1	白色の層理が発達するもの。
		b	明灰色～ベージュ系の色調を呈するもの。	
		c	白色に風化するもの。	
	D群	緑色系の色調を基調とし，暗緑色の節理が発達するもの。[仁田尾中B遺跡SH2E類に対応]		
頁岩Ⅳ類[SH4；●]	シルト質頁岩。			
頁岩Ⅴ類[SH5；●]	やや粒子が粗い頁岩で，節理が発達するもの。一部は粘板岩質を呈する。			
	A群	あまり風化が進行せず，基調が青灰色を呈するもの。		
	B群	基調は青灰色を呈するものの，風化によって表面が白色を呈するもの。		
	C群	節理が発達する粗質のもの。		
ホルンフェルスⅠ類[HF1；●]	あまり節理が発達しないもの。粒子が比較的細かく，やや緻密なものが多い。泥岩～頁岩質のもの。			
	A群	基質が黒色～暗灰色を呈するもの。		
	B群	基質が茶色～ベージュ色を呈するもの。		
	C群	表面が白色に風化するもの。		
ホルンフェルスⅡ類[HF2；●]	やや節理が発達するか，粒子が粗いもの。頁岩質のもの。			
	A群	基質が黒色～暗灰色を呈するもの。		
	B群	基質が茶色～ベージュ色を呈するもの。		
	C群	表面が白色に風化するもの。		
ホルンフェルスⅢ類[HF3；●]	節理が発達するか，粒子が粗いもの。頁岩～砂岩質のもの。			
	A群	基質が黒色～暗灰色を呈するもの。		
	B群	基質が茶色～ベージュ色を呈するもの。		
	C群	表面が白色に風化するもの。		
砂岩Ⅰ類[SA1；●]	細粒砂岩。			
砂岩Ⅱ類[SA2；●]	硬質砂岩。			
砂岩Ⅲ類[SA3；●]	黄褐色砂岩。			

第Ⅳ章　第Ⅰ文化層の発掘調査

第Ⅰ文化層は，ＸⅠ層を主体に分布する遺物・遺構を主として取り扱う。土壌堆積が薄く上下移動も見られるため自然層位では完全には区分できないが，遺物では器種・石材ごとに検討を行った結果，頁岩Ⅳ類を素材とする小型剥片石器類や縦長剥片を素材とする石器群が当文化層に該当する。

遺構はＸⅠ層下部で検出されたものをここで取り上げる。

第１節　遺構

ＸⅠ層下部では礫群３基，礫集中部１基を検出した。礫群は礫が散在した状態で検出され掘り込みを伴うものは確認されていないが，礫には被熱によるとみられる赤化や破砕が見られるものが多い。礫集中部は石材や遺物分布との関連から石器製作等に関連する可能性のあるものを取り扱う。

１号礫群

A,B-3区ＸⅠ層下部で検出された。構成礫は約40cm×30cmの範囲に集中し，周囲の礫を含めると約130cm×75cmの範囲に分布する。礫の集中部付近には掘り込み等は確認できなかった。礫は砂岩の亜角礫が多く使用されていた。

２号礫群

B-2区ＸⅠ層下部で検出された。拳大ほどの砂岩礫21個が約160cm×150cmの範囲に散在した状態で検出された。礫は亜角礫が多く，被熱と考えられる赤化が確認できた。

３号礫群

B-2区ＸⅠ層下部で検出された。人頭大から拳大ほどの安山岩礫４個が約250cm×150cmの範囲に散在した状態で検出された。礫は亜角礫が多く，被熱によるとみられる赤化や破砕が確認できた。礫数は少ないものの，検出状況が２号礫群とほぼ同様であることから，遺構と認定した。

１号礫集中部

B-3区ＸⅠ層下部で検出された。拳大ほどの礫10個が散在した状態で検出された。掘り込み等は確認できていない。礫の多くは亜角礫で構成されていた。

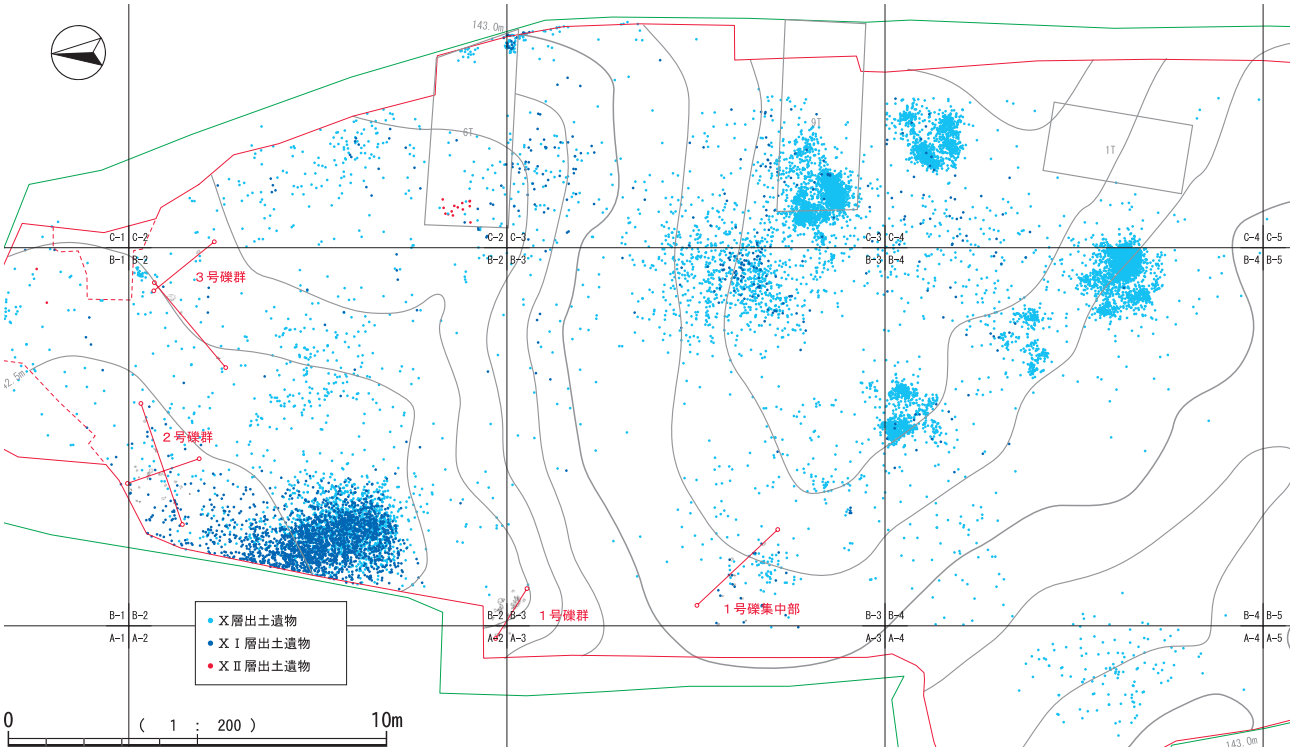
第２節　遺物

第Ⅰ文化層では，大型の縦長剥片を中心とする石器群を一括した。石材は白色緻密なシルト質頁岩(頁岩Ⅳ類)と，ホルンフェルスを主体とする。ホルンフェルスは灰褐色を呈しわずかに風化するものと，非常に風化が進み，表面が脆く剥落するものが主体を占め，これに搬入品と考えられるものが客体的に組成される。出土層位はおおむねＸⅠ層からのものが多いが，若干の浮き上がりがあるものと考えられる。

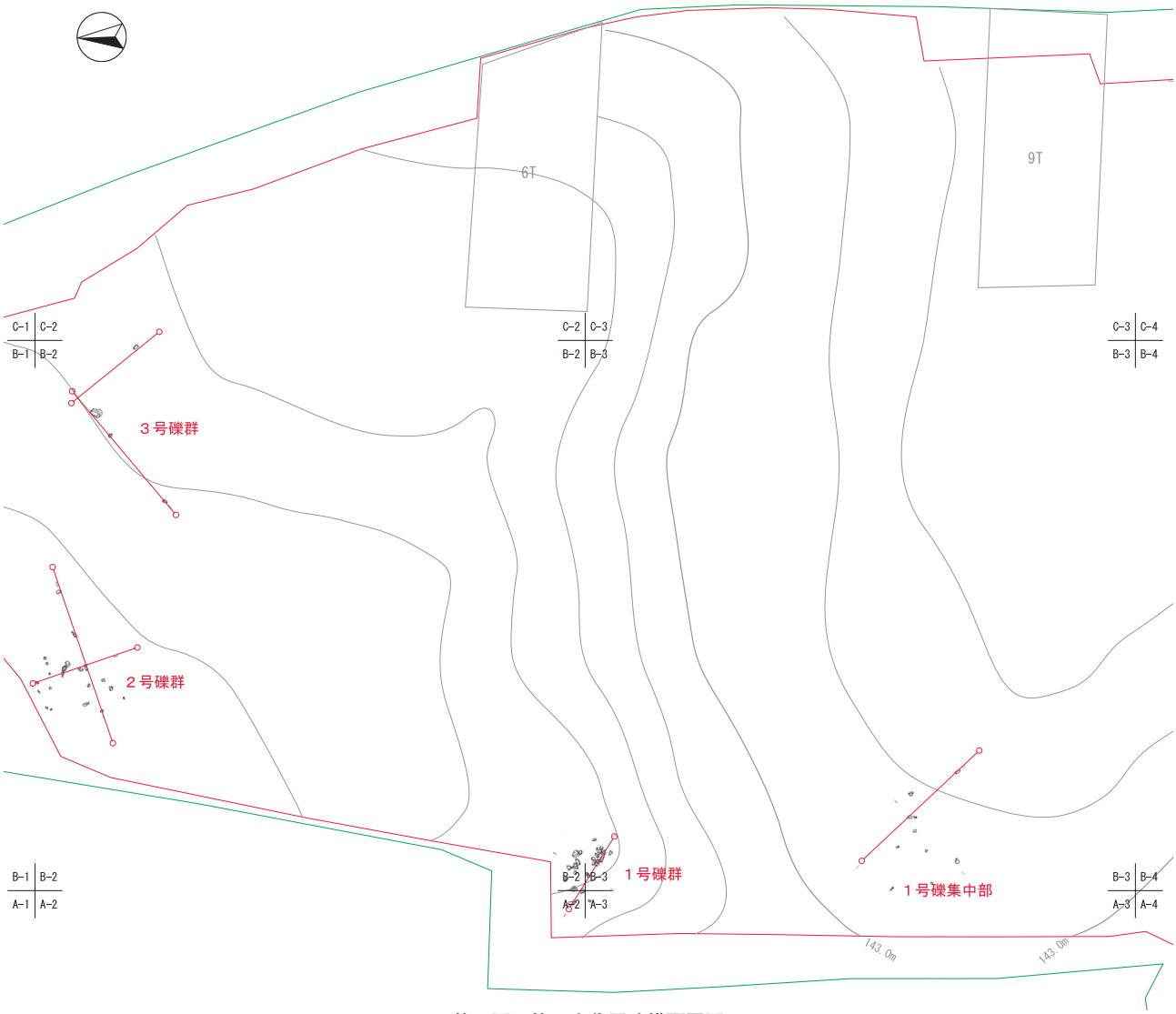
１～７，接合資料No１,接合資料No2は頁岩Ⅳ類を素材とするものである。台形石器や削器，縦長剥片のほか，彫器の可能性のある資料を中心とする。

１は台形石器である。小型の不定形剥片を素材とし，頭部側と尾部側から二次加工を加えて製品としている。石材はやや珪質分を帯びる母岩で，類似する資料は他に見られず搬入品の可能性が高い。

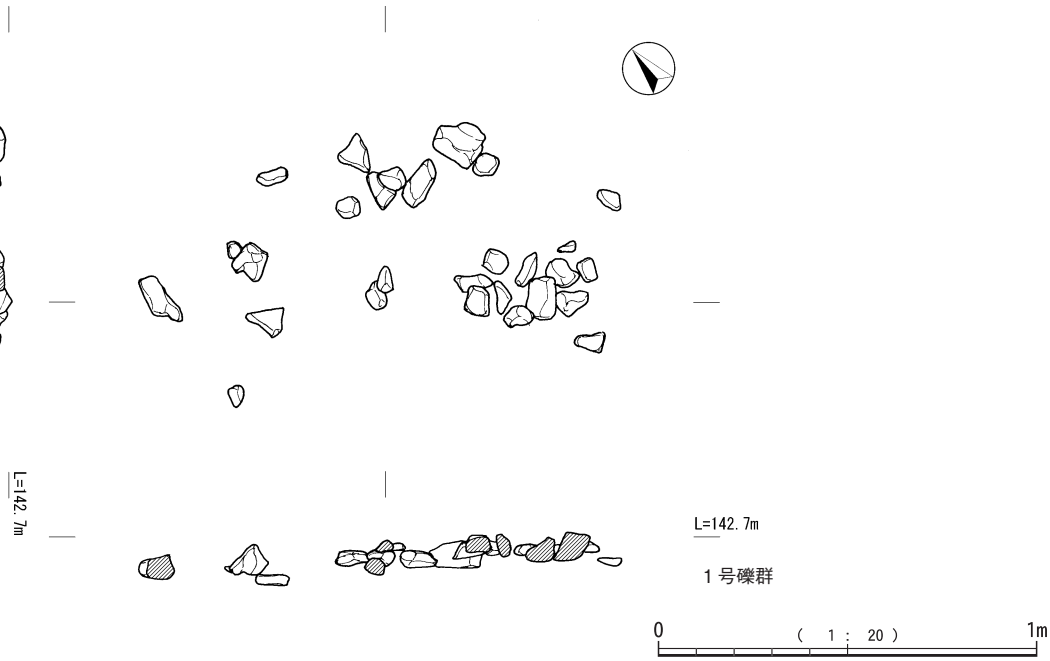
２,３は削器である。いずれも大型の不定形剥片を素材としており，周縁に二次加工を加え製品としている。



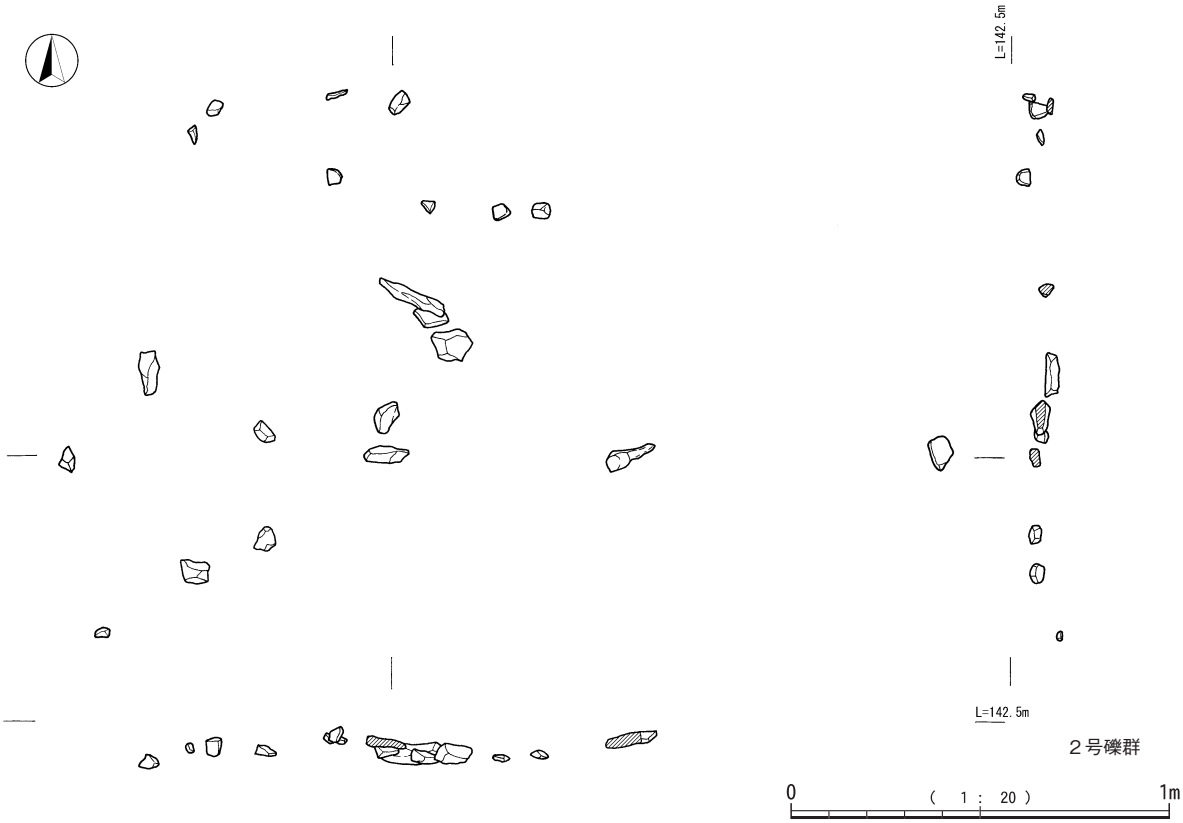
第８図　第Ⅰ文化層全体状況図

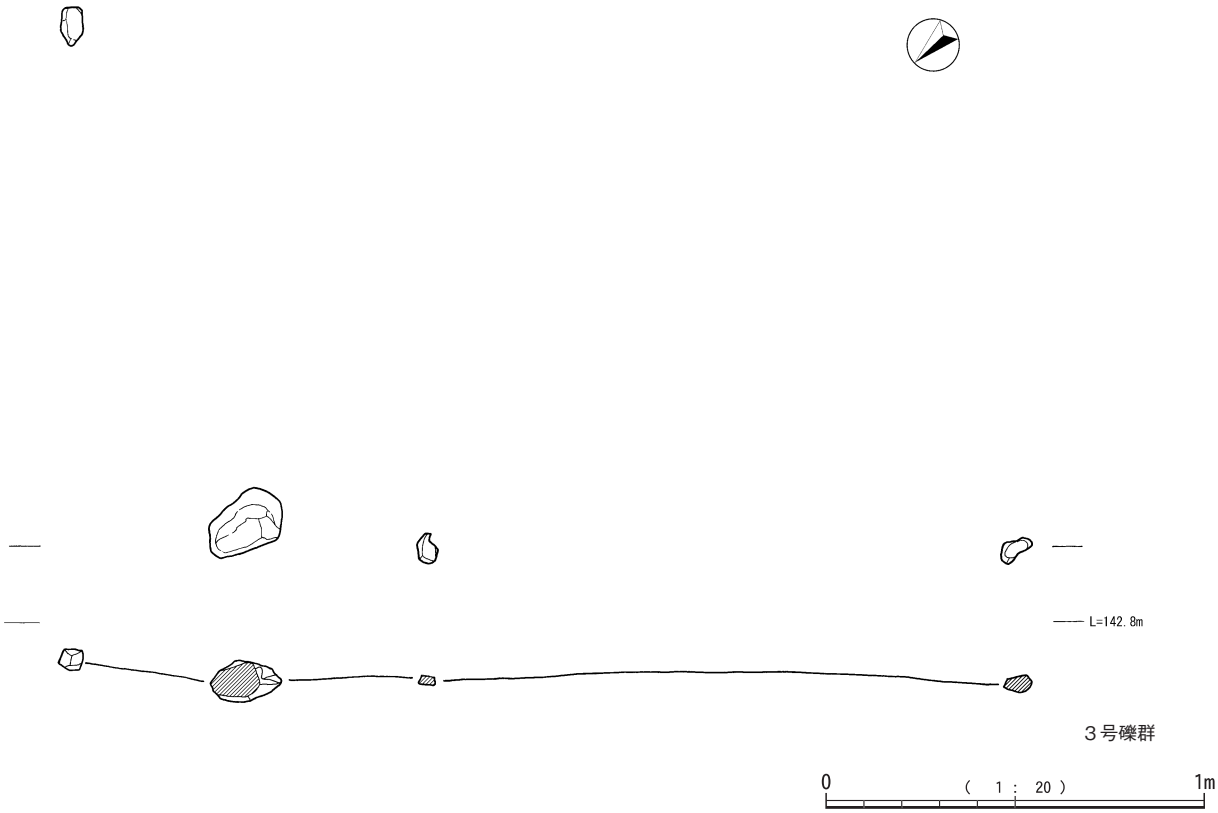


第９図　第Ⅰ文化層遺構配置図

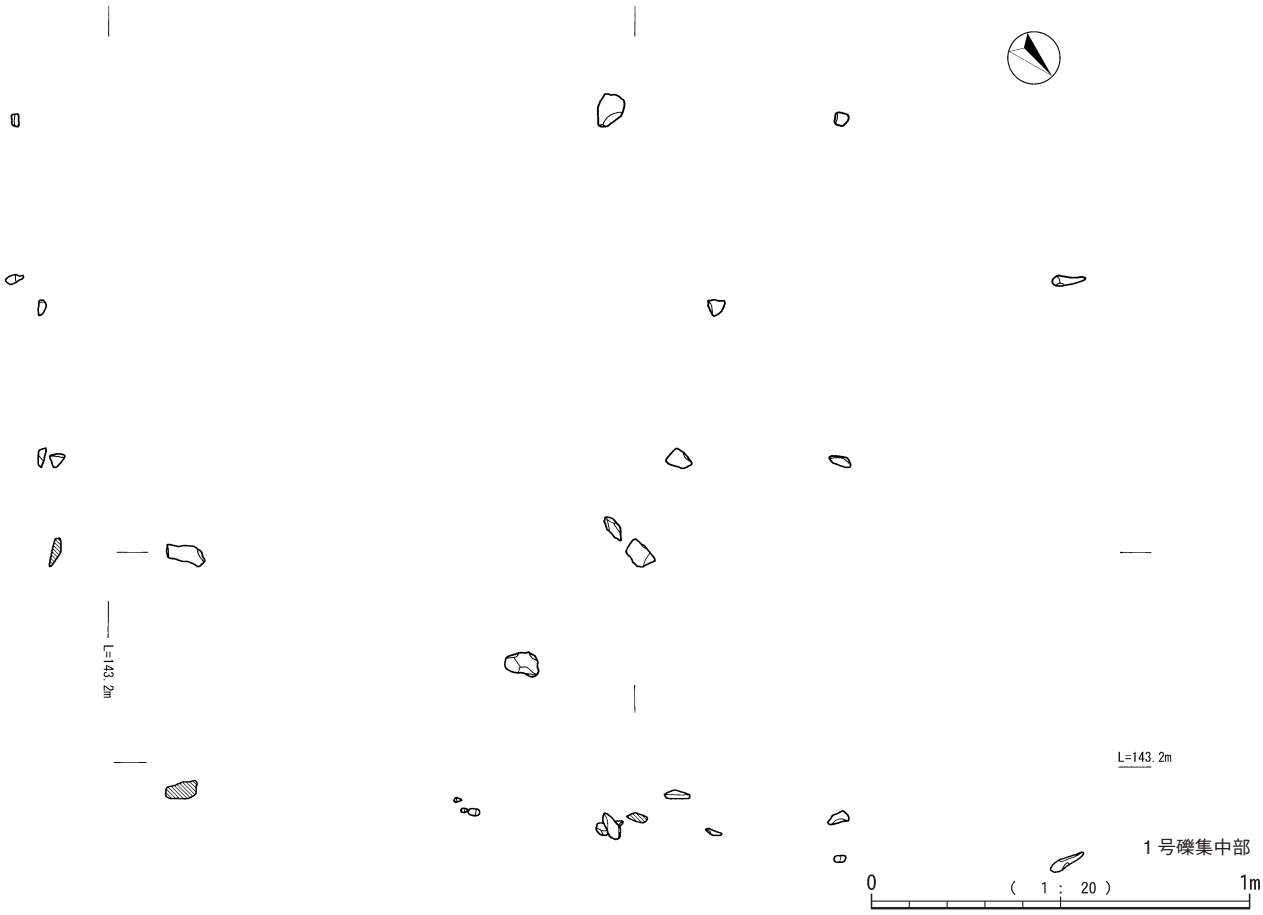


第10図　第Ⅰ文化層遺構実測図（１）

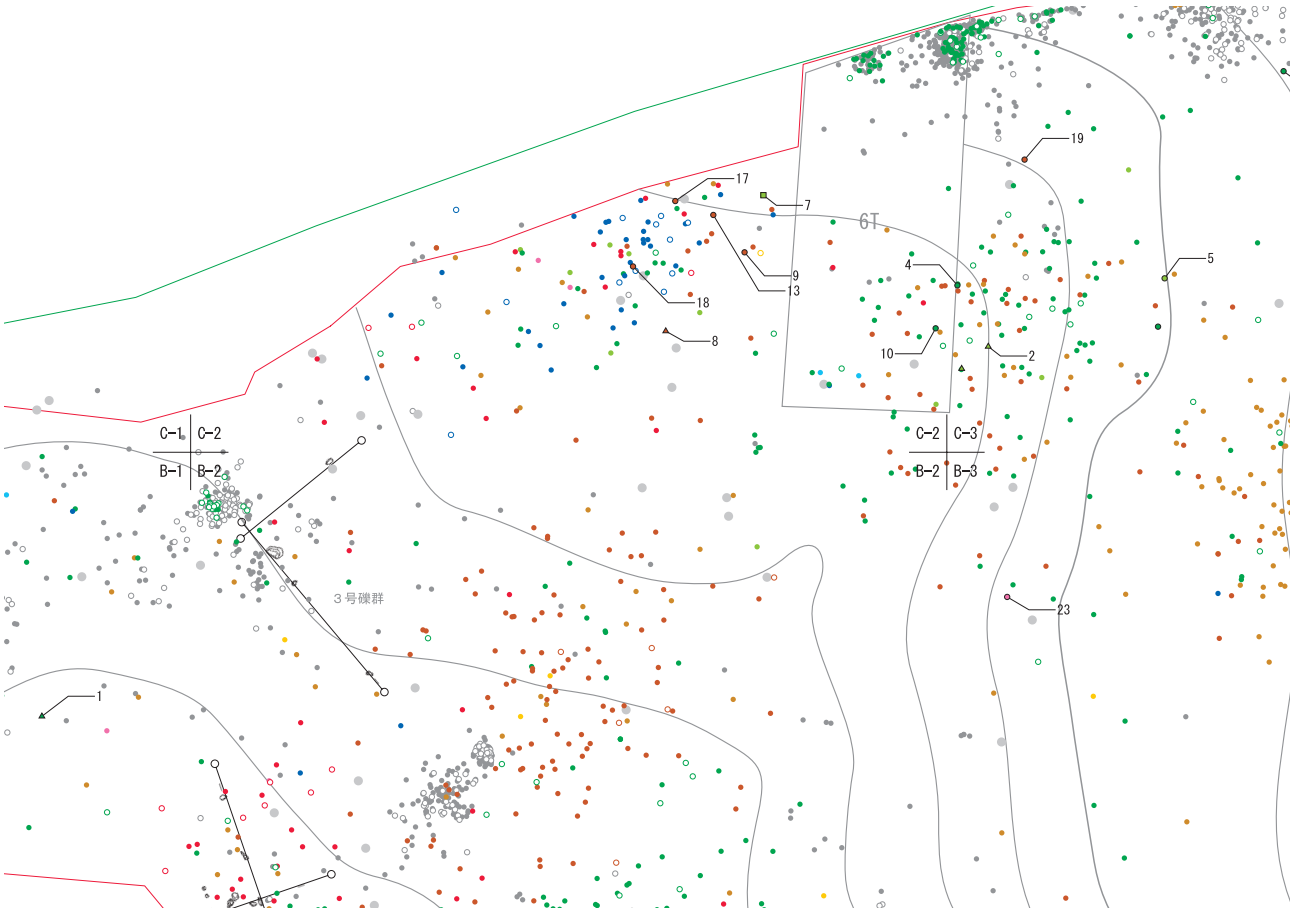




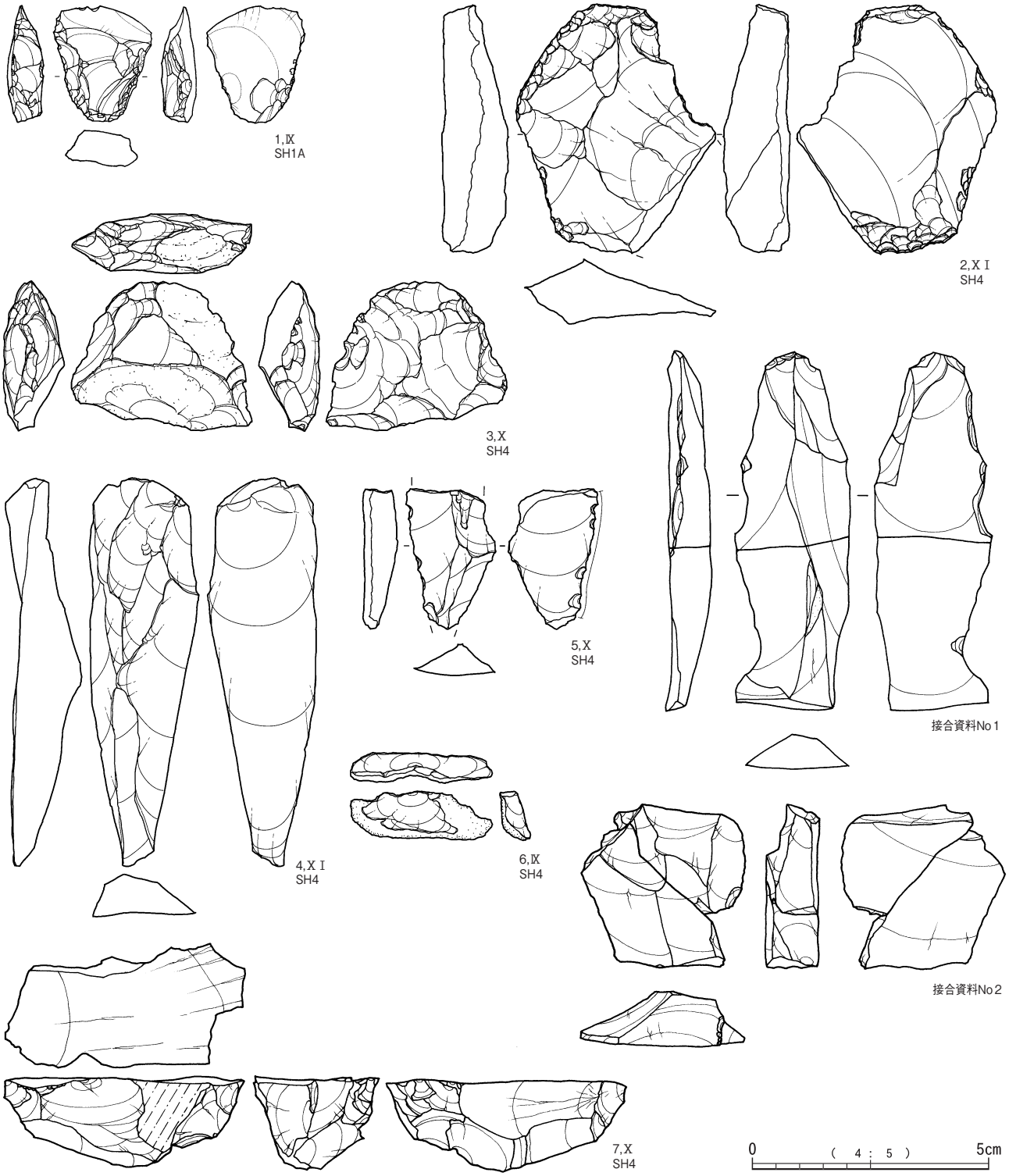
第11図　第Ⅰ文化層遺構実測図（２）



第12図　第Ⅰ文化層遺構実測図（3）



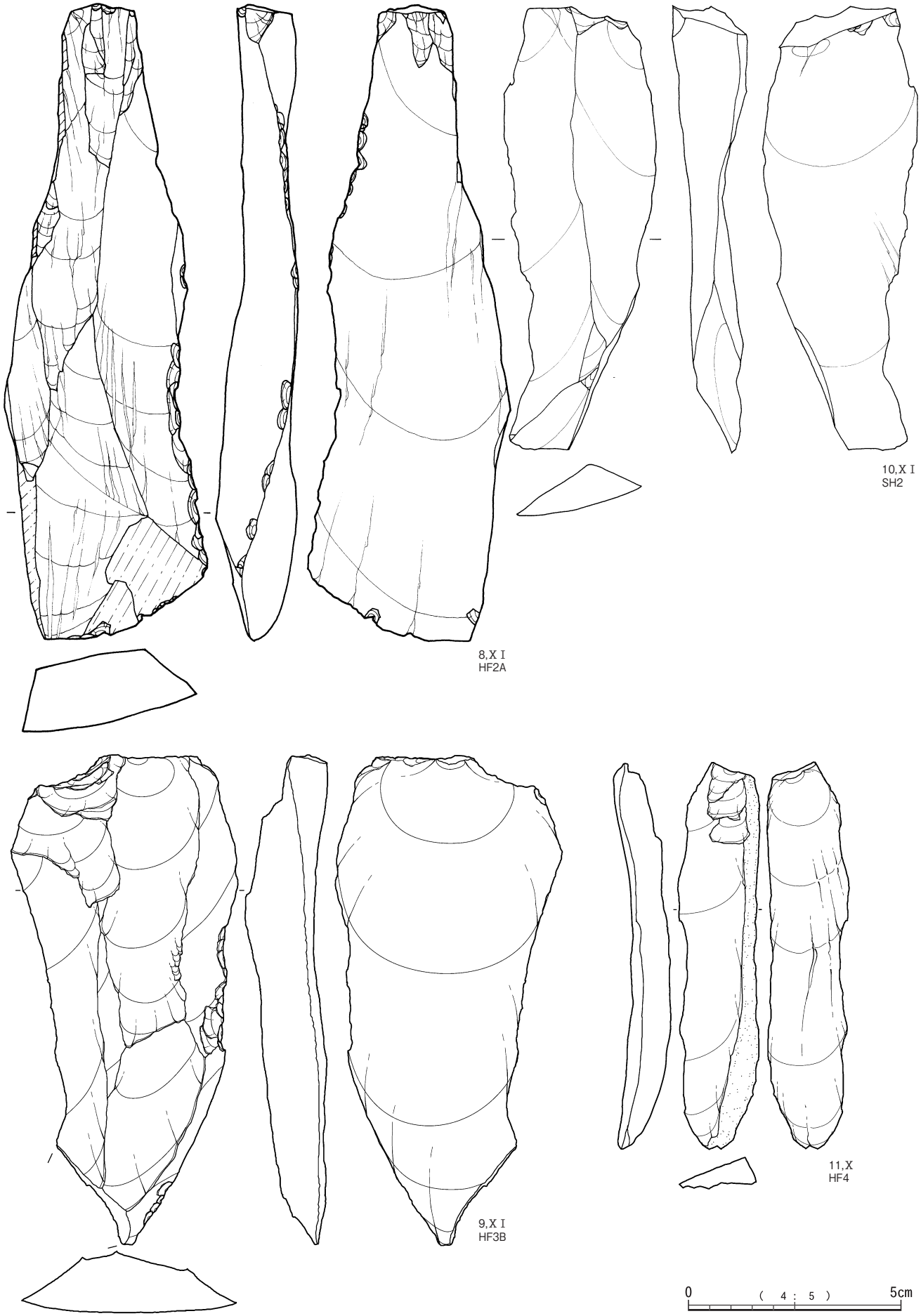
第13図　第Ⅰ文化層出土石器分布図（1）



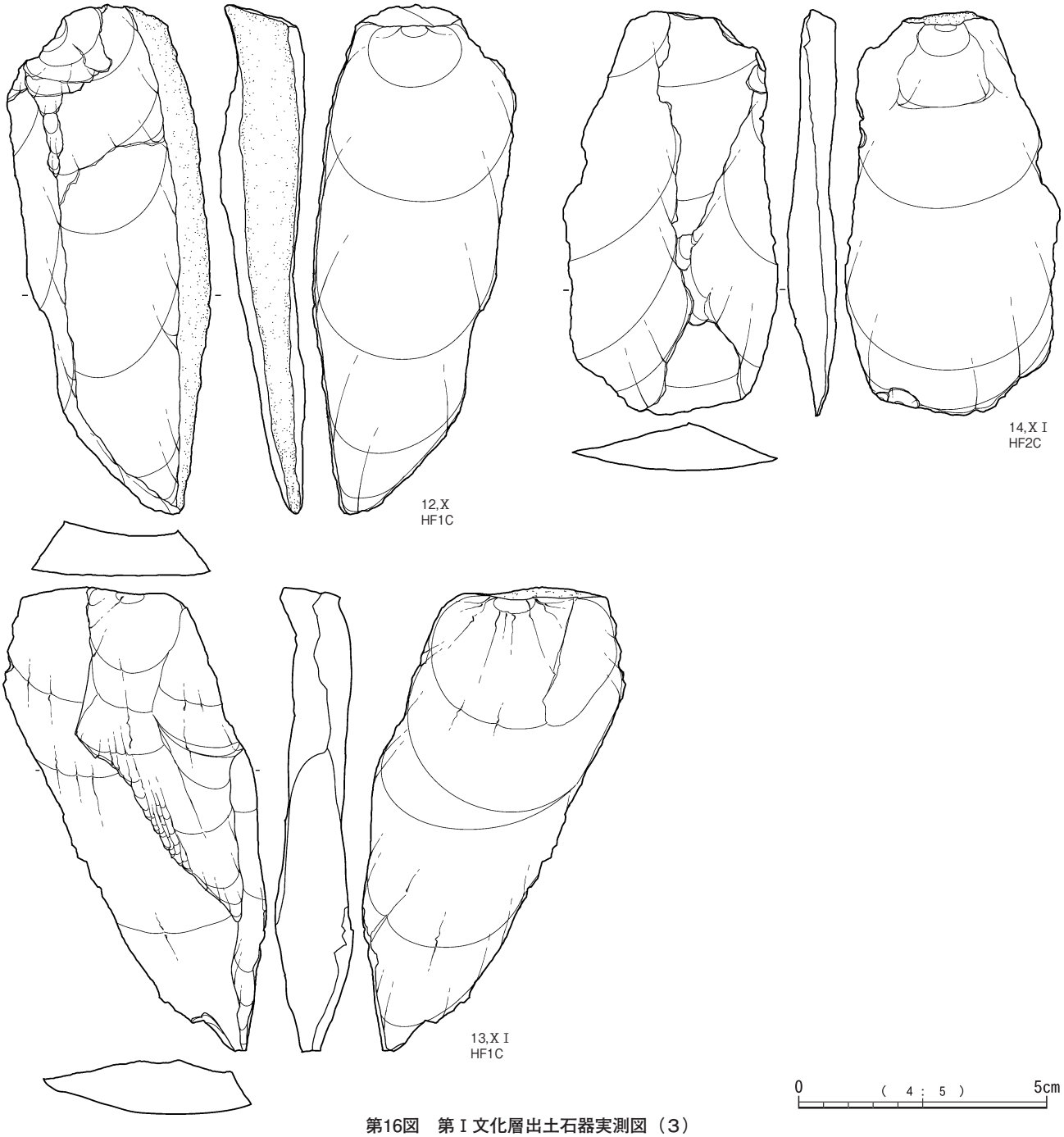
第14図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（１）

第４表　第Ⅰ文化層出土石器観察表（１）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	ブロック	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
14	1	42042	16.508	8.033	142.641	B-1	Ⅸ	-	-	台形石器	-	SH1A	-	白色風化良質	24.1	20.3	7.9	3.56	-
	2	57793	21.398	20.548	142.740	C-3	ⅩⅠ	-	-	削器	-	SH4	-	白色風化良質	51.1	41.1	14.4	24.6	-
	3	61020	23.997	27.017	143.310	C-3	Ⅹ	-	-	削器	-	SH4	-	白色風化良質	30.6	37.1	12.9	12.29	-
	4	60695	22.207	20.140	142.826	C-3	ⅩⅠ	-	-	縦長剥片	-	SH4	-	白色風化良質	79.4	22.6	16.4	17.3	-
	5	41565	22.300	22.880	143.248	C-3	Ⅹ	-	-	微細剥離痕剥片	縦長剥片素材	SH4	-	白色風化良質	28.9	18.6	7.7	3.04	-
	6	60639	25.039	24.453	143.294	C-3	Ⅸ	-	-	調整剥片	-	SH4	-	白色風化良質	10.1	29.2	6.7	1.03	-
	7	43064	23.399	17.575	142.821	C-2	Ⅹ	-	-	石核	-	SH4	-	白色風化良質	18.8	49.3	26.4	23.75	-
	接No1	22943	21.847	16.733	143.044	C-2	Ⅹ	-	-	微細剥離痕剥片	縦長剥片素材	SH4	-	白色風化良質	62.0	19.2	8.5	8.07	-
		59084	21.661	22.793	143.120	C-3	Ⅹ	-	-										
	接No2	43696	20.988	21.256	142.972	C-3	Ⅹ			彫器?	-	SH4	-	白色風化良質	33.8	33.0	11.5	13.9	-
		45258	21.105	20.196	142.947	C-3	Ⅹ												



第15図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（2）



第16図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（3）

４は縦長剥片である。５も縦長剥片を素材とする微細剥離痕剥片である。尾部のみの欠損品であるが，左側縁に微細剥離痕が観察される。６は調整剥片である。

７は石核である。大型剥片の主要剥離面を打面として剥片剥離を行っている。

このほか，頁岩Ⅳ類を素材とする石器群では，接合資料が２点得られている。

接合資料No1は縦長剥片の接合資料で，左側縁に微細な剥離痕が観察される。接合資料No2は縦長剥片素材の接合資料で，縦長剥片を折断し，切断面から数枚の剥離が行われている。石材が軟らかいため微細剥離痕等の観察は困難であるが，彫器の可能性のある資料である。

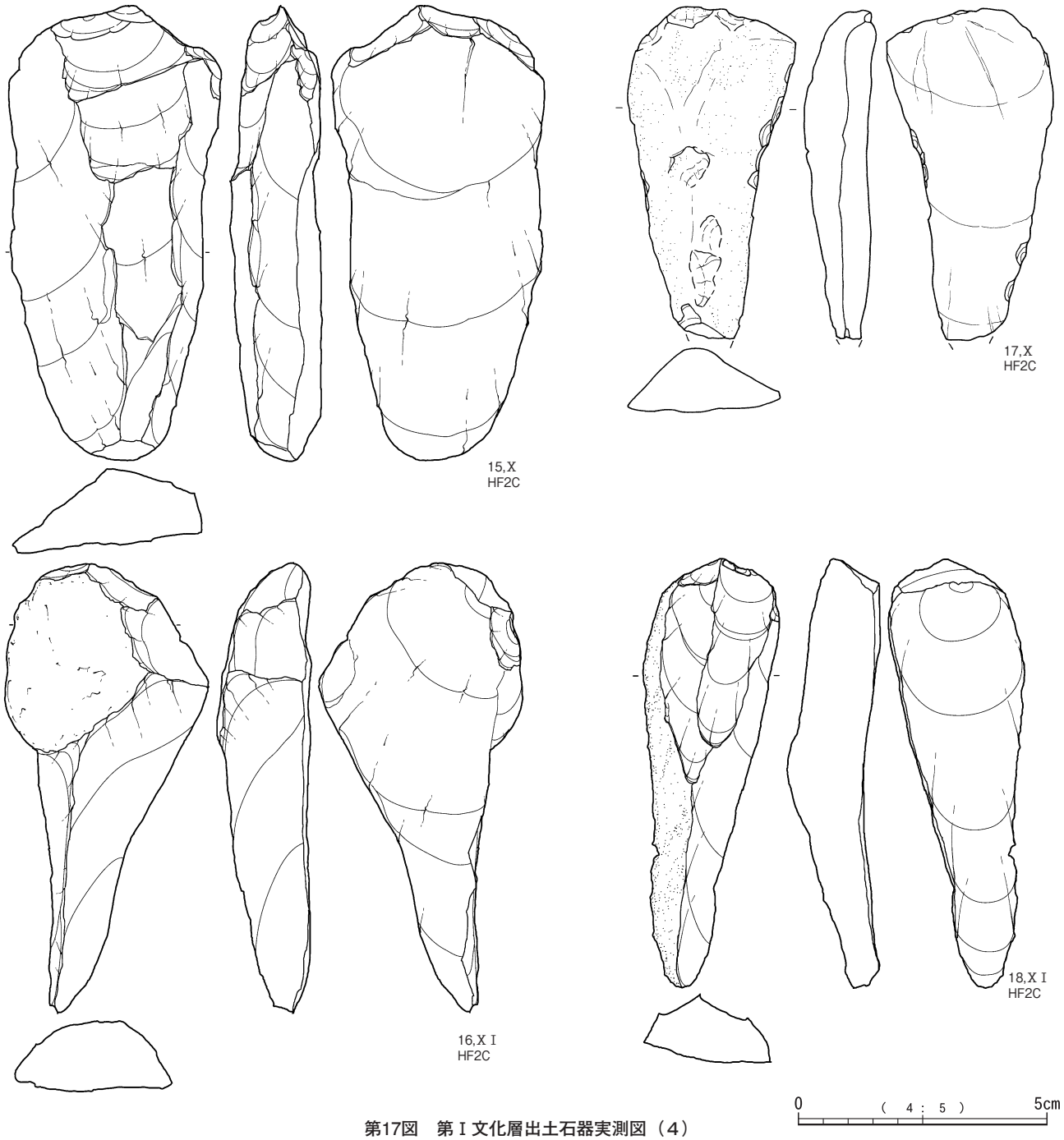
８～14はホルンフェルス等を素材とする大型の縦長剥片石器群である。８は大型の縦長剥片素材の削器である。灰褐色を基調としやや白色に風化する母岩を素材とし，右側縁に簡単な二次加工を施して刃部形成を行っている。

９は褐色に風化し節理が平行にわずかに入る良質な母岩を素材とする。右側縁中部に微細剥離痕が観察される。

10～14は縦長剥片である。10は黒色の頁岩を素材とする。11は比較的小型の資料で黒色の夾雑物を含む特徴的な個体を素材とする。12,13は灰褐色を基調としやや白色に風化する個体を素材とする。これらは同一母岩の可能性が高い。

15～19も白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする縦長剥片である。石材の質的制約によるものか，やや分厚い形状のものが目立つ。21,22も同一母岩と考えられる。

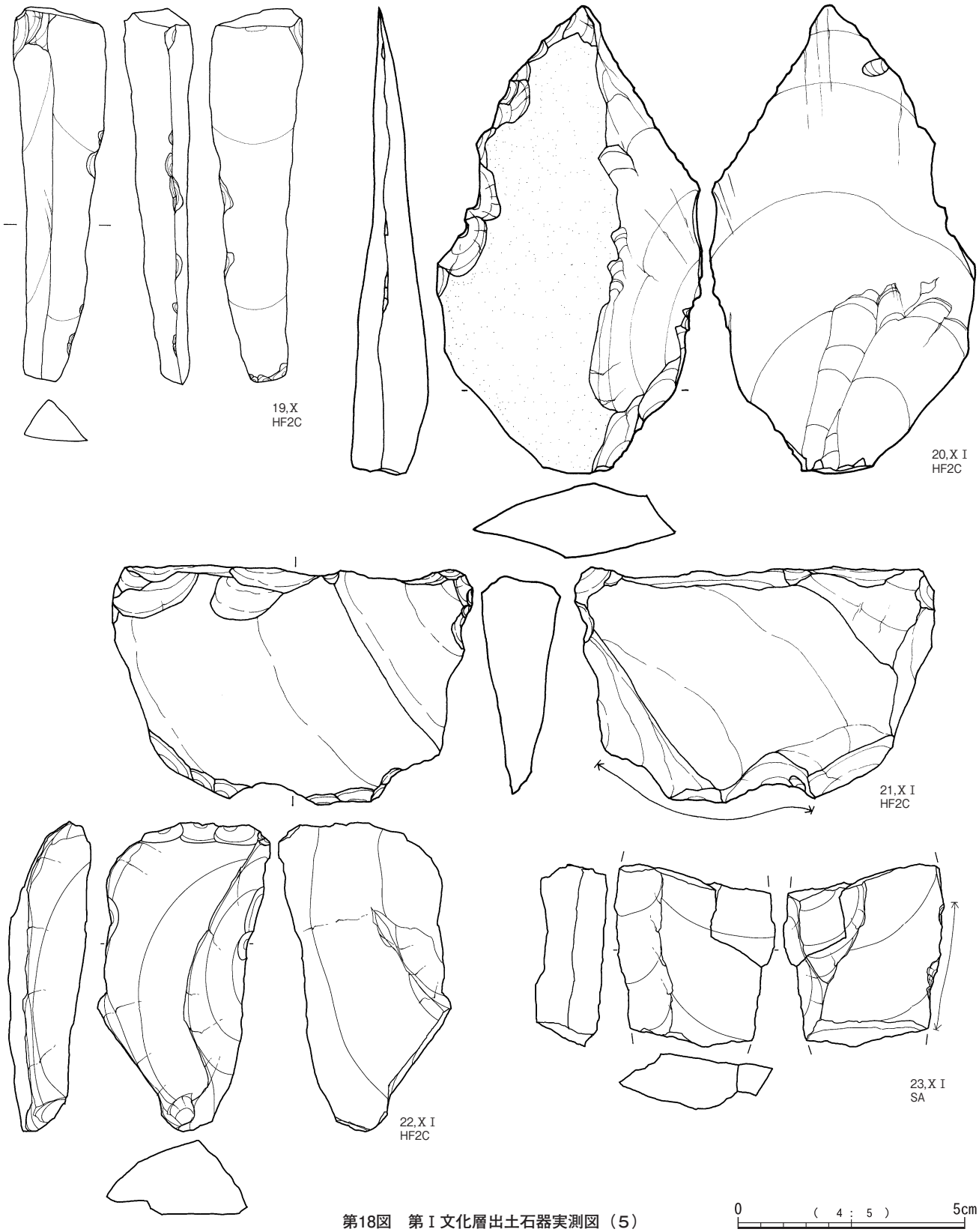
20はやや幅広の縦長の剥片を素材とする削器である。右側



第17図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（4）

第５表　第Ⅰ文化層出土石器観察表（2）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	ブロック	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
15	8	43067	21.602	16.283	142.729	C-2	XⅠ	-	-	削器	縦長剥片素材	HF2A	b	-	144.6	46.4	19.8	109.33	-
	9	43694	22.644	17.325	142.755	C-2	XⅠ	-	-	微細剥離痕剥片	縦長剥片素材	HF3B	-	褐色硬質	111.4	51.7	19.6	85.37	-
	10	29954	21.639	19.852	142.732	C-2	-	-	-	縦長剥片	-	SH2	-	黒色良質	150.3	35.5	17.8	45.09	-
	11	57761	18.725	39.420	143.124	B-4	X	-	-	縦長剥片	-	HF4	-	灰褐色小黒斑	88	18.8	13.8	16.66	-
16	12	58631	22.895	26.764	142.624	C-3	X	-	-	縦長剥片	-	HF1C	-	無節理良質白色風化	99.4	39.9	17.6	65.15	-
	13	43245	23.138	16.912	142.744	C-2	XⅠ	-	-	縦長剥片	-	HF1C	-	無節理良質白色風化	90.4	51.4	16	52.53	-
	14	60635	18.546	25.605	142.963	B-3	XⅠ	-	-	縦長剥片	-	HF2C	-	-	78.7	41.9	10.2	28.85	-
17	15	60968	10.987	30.716	143.090	B-4	X	-	-	縦長剥片	-	HF2C	c	白色風化粗質	88.6	41.6	18.8	70.27	-
	16	60668	10.046	25.556	142.914	B-3	XⅠ	-	-	縦長剥片	-	HF2C	c	白色風化粗質	87.4	39.9	19.3	44.93	-
	17	42971	23.322	16.409	142.824	C-2	X	-	-	縦長剥片	-	HF2C	c	白色風化粗質	64.6	32.5	14.7	24.56	-
	18	43692	22.457	15.850	142.595	C-2	XⅠ	-	-	縦長剥片	-	HF2C	c	白色風化粗質	83.5	26.7	19	29.09	-
18	19	59271	23.870	21.028	142.945	C-3	-	-	-	縦長剥片	-	HF2C	c	白色風化粗質	83	20.6	15.4	21.12	-
	20	58250	23.548	26.828	142.645	C-3	XⅠ	-	-	削器	縦長剥片素材	HF2C	a	-	100	56.8	17.2	69.29	-
	21	60673	11.346	25.873	143.049	B-3	XⅠ	-	-	削器	-	HF2C	c	白色風化粗質	76.9	50.4	18.8	79.72	-
	22	60671	10.798	25.657	143.035	B-3	XⅠ	-	-	削器	-	HF2C	c	白色風化粗質	66.1	37	18.5	35.81	-
	23	60714	18.087	20.798	142.922	B-3	XⅠ	-	-	微細剥離痕剥片	-	SA	-	-	39.1	34.5	16.1	20.52	-
20	24	60676	12.169	26.759	143.089	B-3	XⅠ	-	-	削器	-	HF1	-	白色筋状節理	66.3	107.3	31	202.66	-

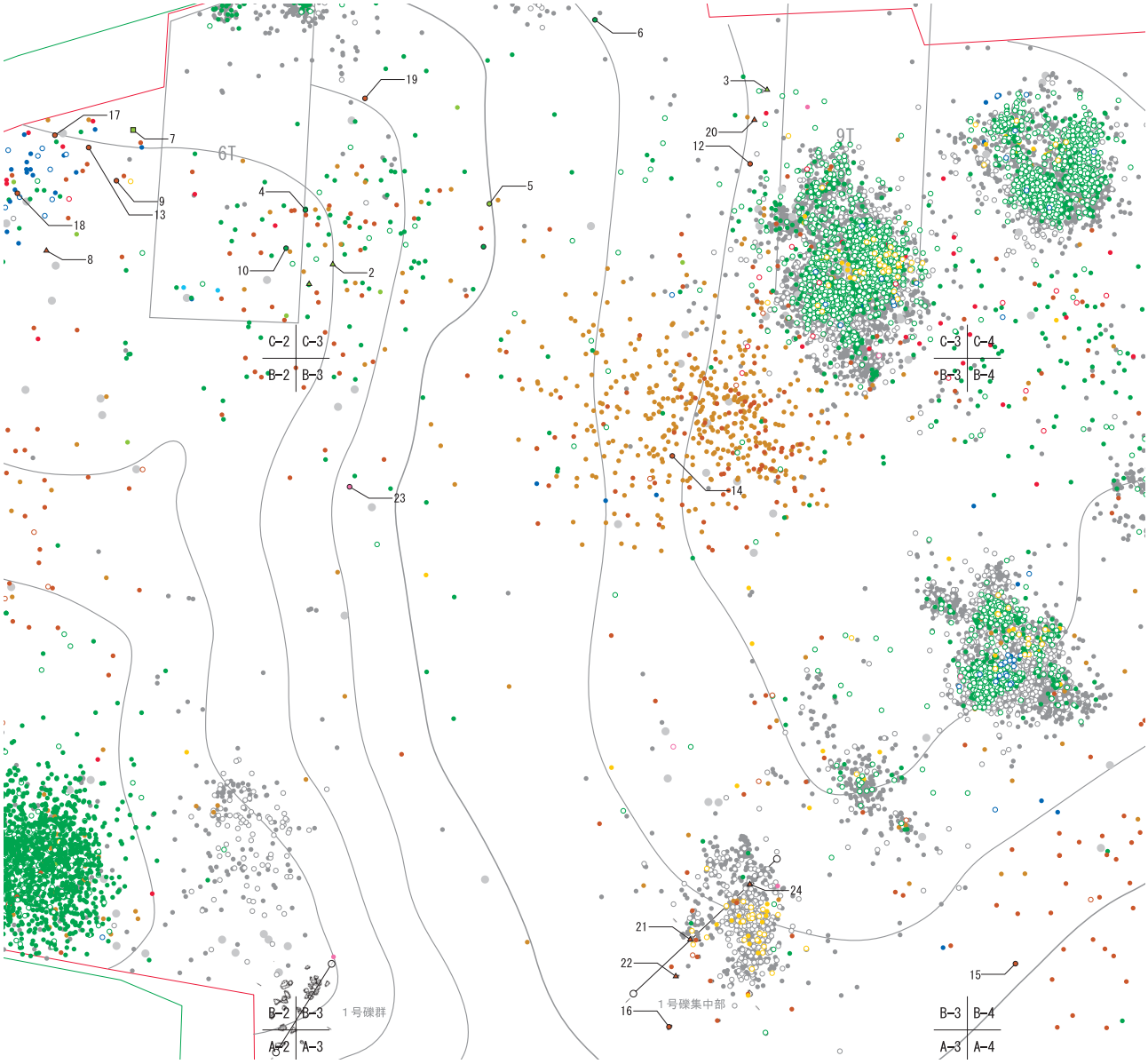


第18図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（5）

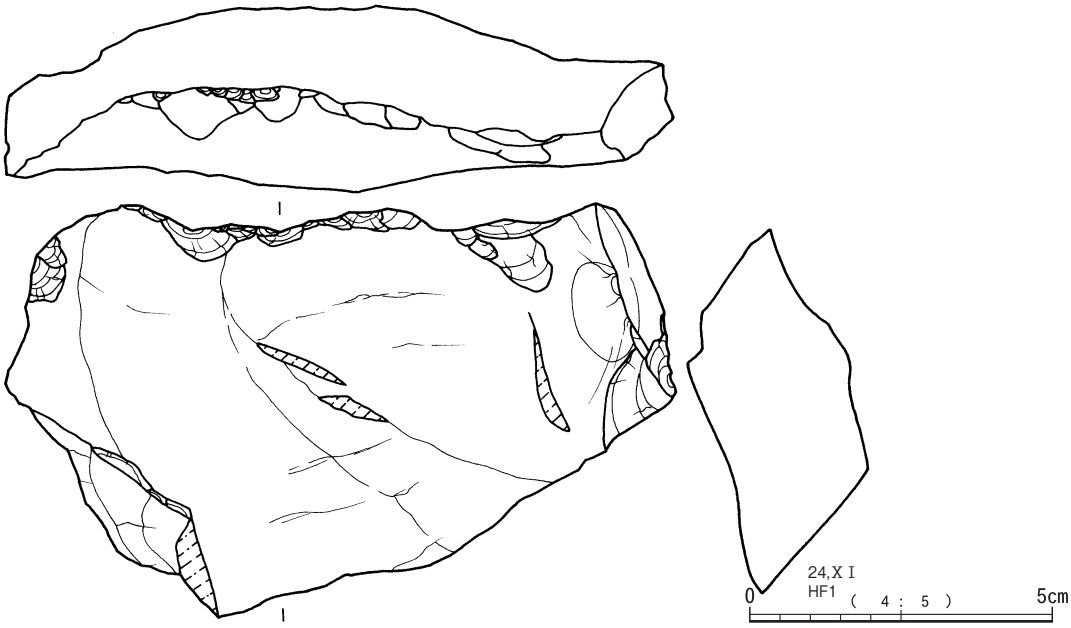
縁に主要剥離面側から簡単な二次加工を加え，刃部を形成している。素材は14と同一母岩の可能性が高い。

21,22,24は削器である。21,22は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材としており，幅広の不定形剥片の縁辺に二次加工を施して刃部を形成している。24は白色の節理が発達するホルンフェルスを素材とする。背面側から主要剥離面の右側面の一部に二次加工を加えている。

23は砂岩の剥片を素材とする微細剥離痕剥片である。右側縁に微細な剥離が観察される。縦長剥片素材の可能性があるが破断しており詳細は不明である。



第19図　第Ⅰ文化層出土石器分布図（2）



第20図　第Ⅰ文化層出土石器実測図（6）

第Ⅴ章　第Ⅱ文化層の発掘調査

第Ⅱ文化層では，Ⅹ層下部～ⅩⅠ層検出の遺構とⅩ層主体の石器群を取り扱う。土壌堆積が薄いために上下移動を考慮する必要があるが，石材毎の器種組成，接合状況，所属層位等を検討して石器群を抽出した。

遺構はⅩ層下部～ⅩⅠ層で検出されたものを取り上げる。

第１節　遺構

第Ⅱ文化層では，礫群２基，礫集中部５基が検出された。

礫集中部については，第Ⅰ文化層と同様，石器製作跡等の可能性があるものを取り扱う。また，ⅩⅠ層～Ⅹ層検出遺構については検出層位により時期差を内包する可能性もあるので，ここでは検出層位毎に区分して掲載する。

（１）ⅩⅠ層検出遺構

礫群２基，礫集中部１基を検出した。

４号礫群

B-2区，ⅩⅠ層で検出された。調査区境で検出されたため全体像は不明であるが，礫は約35cm×35cmの範囲に集中し，全体としては約80cm×65cmの範囲に分布していた。中央の礫集中部には，深さ約５cmほどの若干の窪みが認められたが，明瞭な掘り込みは確認できなかった。砂岩の亜角礫が多く使用されていた。

５号礫群

B-2区，ⅩⅠ層で検出された。調査区境で検出されたため全体像は不明であるが，構成礫は約30cm×25cmの範囲に集中し，全体として約130cm×100cmの範囲に広がっていた。礫集中部付近には掘り込みは確認されなかった。礫の多くは亜角礫で構成され，石材には砂岩が多用されていた。

２号礫集中部

B-2区，ⅩⅠ層で検出された。拳大のシルト質頁岩の礫14個が約150cm×120cmの範囲に散在した状態で検出された。

礫の多くは亜角礫で構成される。周辺には炭化物などの出土は確認できなかった。面的に検出されており，この付近に生活面が存在するものと考えられる。

（２）Ⅹ層検出遺構

礫集中部４基を検出した。いずれも被熱破砕礫等は確認されず，シルト質頁岩やその他の頁岩等の礫等が集中する状態で検出された。

３号礫集中部

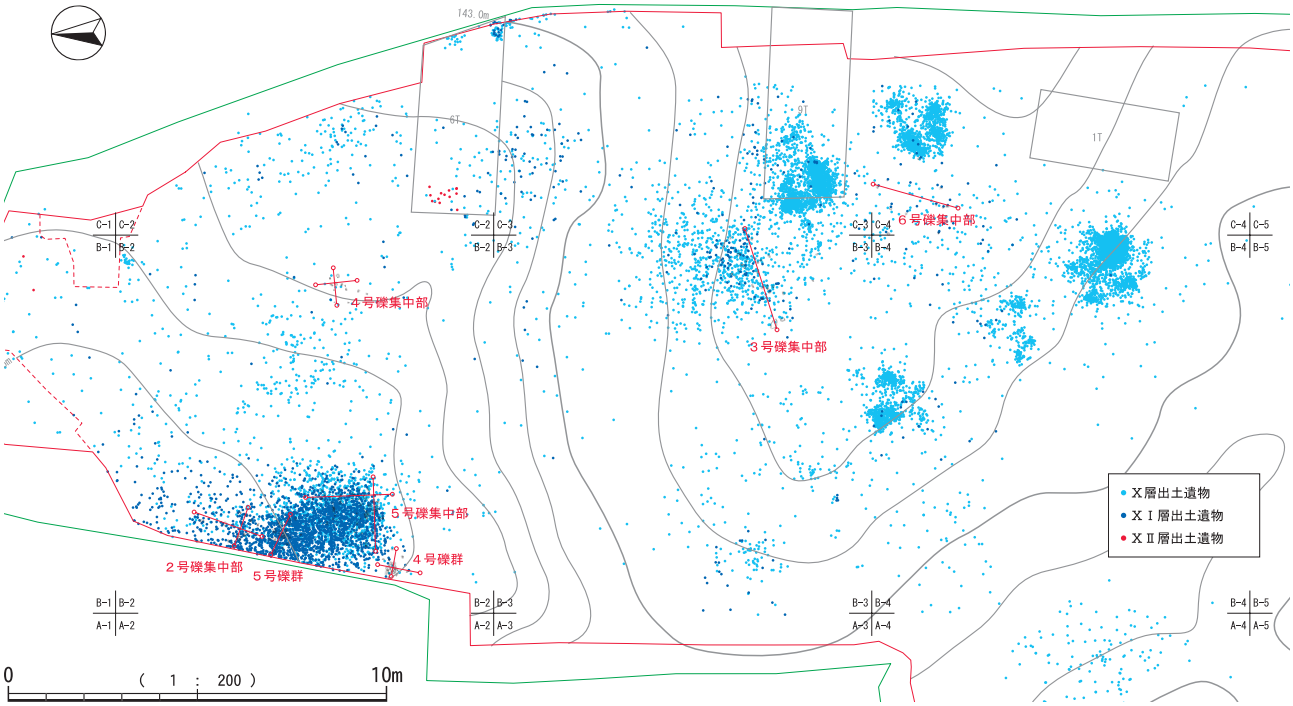
B,C-3区Ⅹ層で検出された。約270cm×255cmの範囲に礫が散在する状態で検出された。礫の多くは亜角礫であった。

４号礫集中部

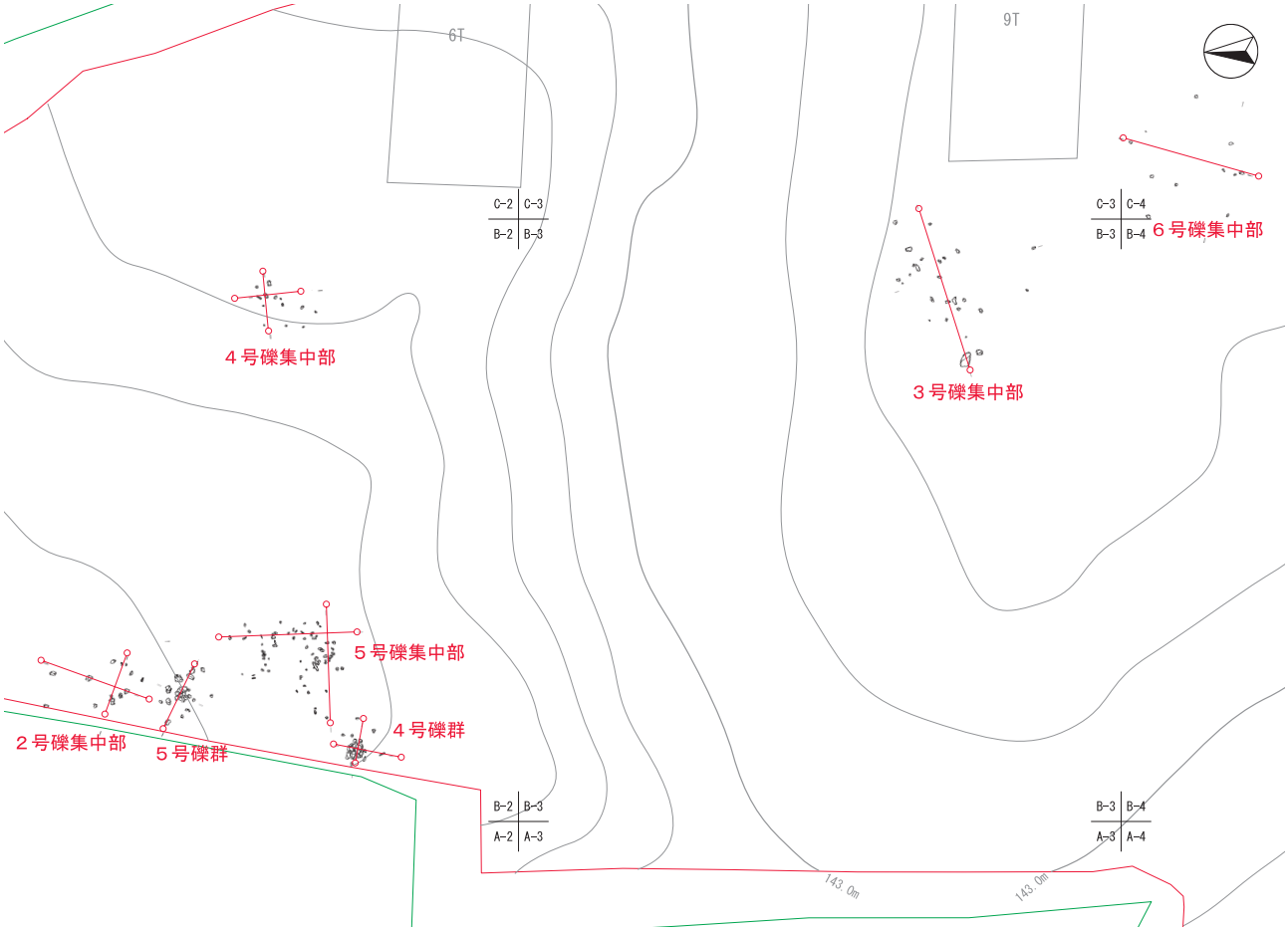
B-2区Ⅹ層下部で検出された。3cm～7cm大のシルト質頁岩の剥片等が約85cm×80cmの範囲に散在した状態で検出された。礫の多くは亜角礫で構成され，周辺には炭化物などの出土は確認できなかった。

５号礫集中部

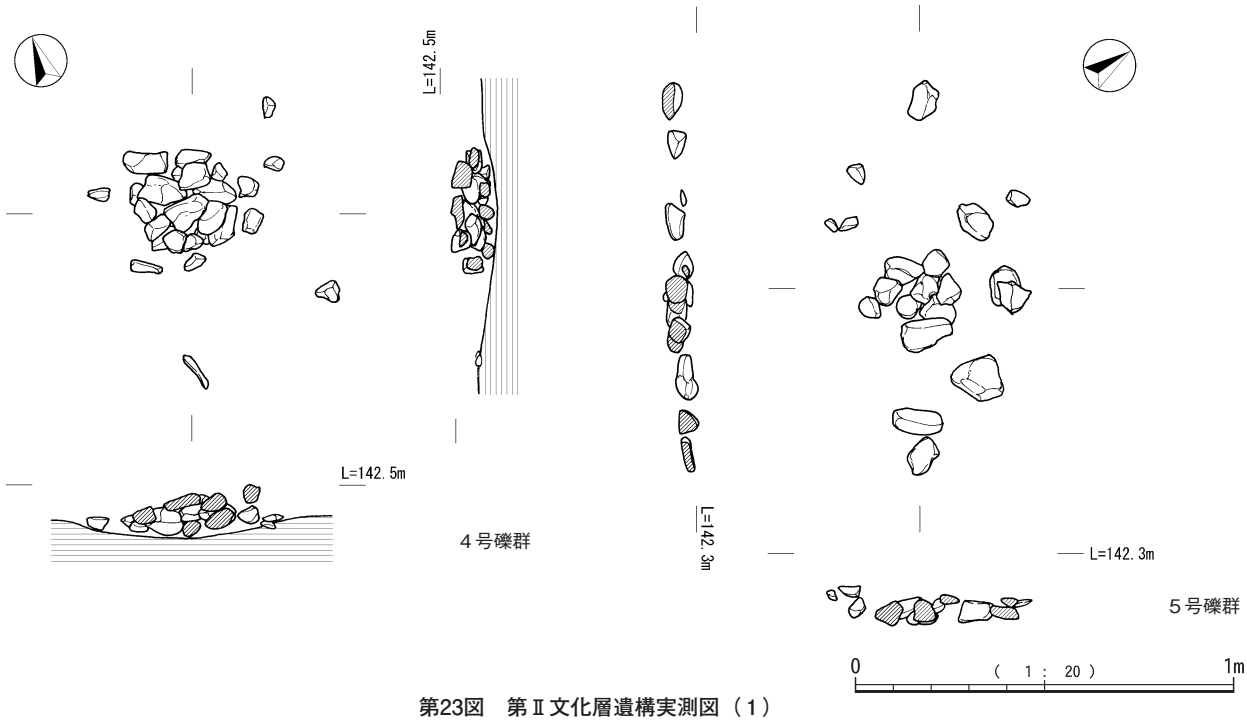
B-2区，Ⅹ層で検出された。第３エリアに形成された遺物集中部の直下に相当し，約65cm×50cmの範囲に頁岩を素材



第21図　第Ⅱ文化層全体状況図



第22図　第Ⅱ文化層遺構配置図



第23図　第Ⅱ文化層遺構実測図（１）

とする石核や剥片，砂岩を素材とする叩石などが混在して検出される集中部があり，周囲の礫等を含めると約280cm×220cmの範囲に分布する。炭化物等の痕跡は認められなかったものの，ほぼ面的に検出されており，この付近に生活面が存在することが予測される。

６号礫集中部

C-4区Ｘ層下部で検出された。図化はしていないが拳大ほどの礫が10個程度散在しており，礫群の可能性のあるものとして取り扱う。構成礫は亜角礫が多い。

第24図　第Ⅱ文化層遺構実測図（２）

第25図　第Ⅱ文化層遺構実測図（3）

第２節　遺物

Ｘ層を主体とする石器群を一括した。遺物分布は散漫ながらも集中部を形成する地点が数か所あるが明確な遺物集中部を形成することは少なく，上下層との区分が困難な石器群も含まれるので，ここでは便宜的な単位として，エリアを設定した。石材はホルンフェルス，頁岩，黒曜石を主体とする。

第１エリア（第27図～第28図；第６表）

B-2区の中央部付近に位置し，ホルンフェルスを中心とする緩慢な集中部を形成する。角錐状石器が３点組成され，複数のホルンフェルス母岩による剥片が含まれることから，これを素材とする石器製作が行われている可能性が高い。

また分布位置は４号礫集中部に隣接しており，両者の関係が想定される。

25は角錐状石器である。褐色～茶色を呈する珪質頁岩を素材とするもので，両面に加工が施され断面菱形を呈する。特に裏面にみられる加工は剥離が大きく，石核を転用して製品としている可能性もある。裏面右側縁先端部付近に細かい二次加工が看取され，削器的な使用が想定される。26は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする角錐状石器である。一見剥片尖頭器状に見えるが，やや大きめの整形剥離が全周しており裏面加工も施されていることから角錐状石器的な石器であると判断される。31,32と同一石材である。27は灰褐色のホルンフェルスを素材とする角錐状石器である。下半分が欠損しており全体形は不明であるが，主軸長8cm程度の製品が想定される。

28は削器である。27と同一の石材を使用し，右側縁に簡単な二次加工を加えて製品としている。

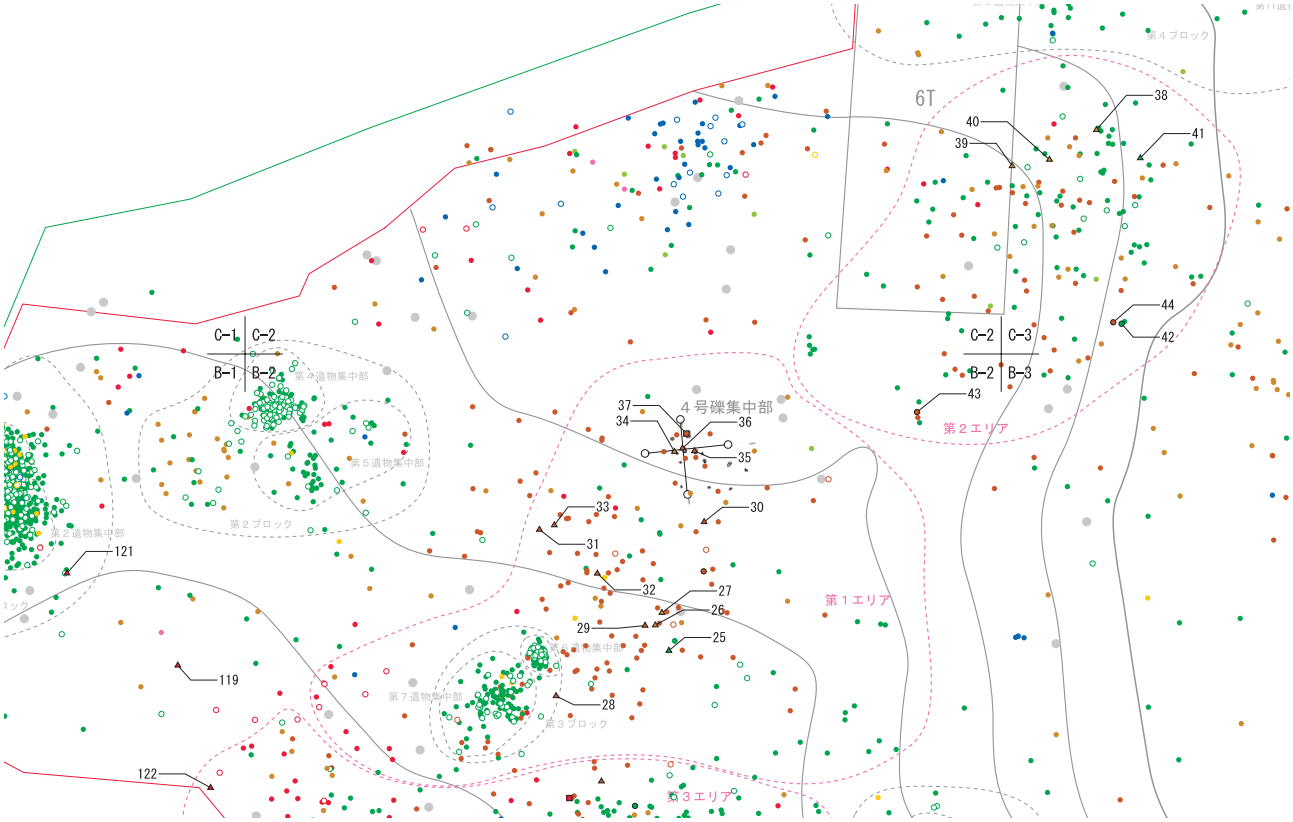
29～33は二次加工剥片である。白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とするものであるが，29と30，31～33が各々同一母岩とみられる。29は薄手の剥片を素材とし，左側縁に簡単な二次加工が看取できる。30は厚手の不定形剥片の一縁辺に二次加工が施されている。削器的な機能が想定される。31と32は風化のため判然としないが素材剥片を折断しており台形石器的な製作技術が想定できる。33は厚手の素材剥片に簡単な整形剥離が施されている。角錐状石器の未製品の可能性がある。

34～37は４号礫集中部に含まれる石器である。34は角錐状石器で33と同一母岩と見られる。薄手の横長剥片を素材とし，基部付近を中心に二次加工を加え製品としている。35～37は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする。いずれも同一母岩の可能性が高いもので，４号礫集中部はこの石材を素材とする石器製作址を含む可能性が高い。35,36は二次加工剥片，37は石核である。

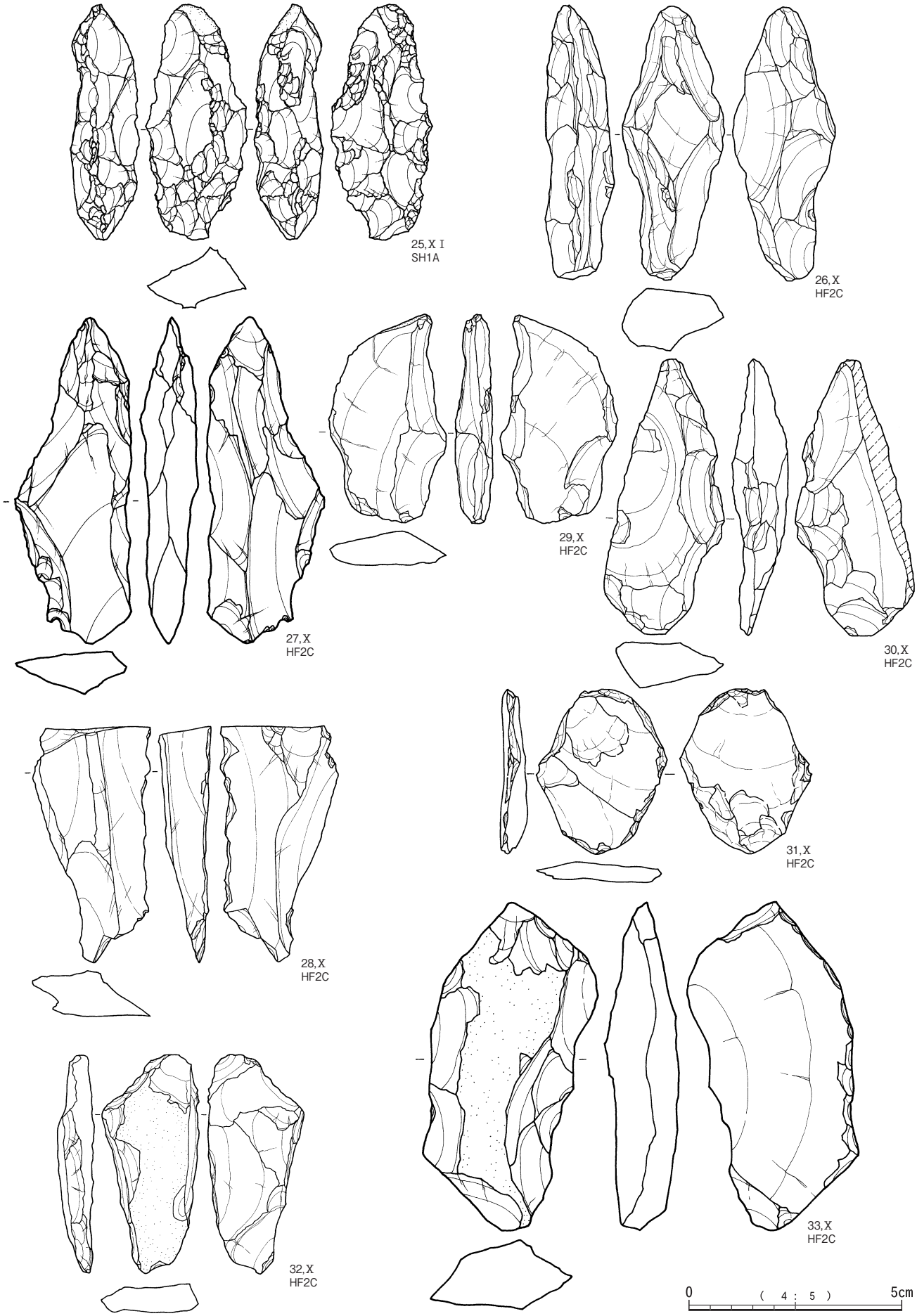
第２エリア（第29図；第７表）

C-3区の北西隅に緩やかな集中部が形成され，数点の角錐状石器が近接して出土する区域があり，第２エリアとして設定した。ただし，このエリアは第Ⅰ文化層に区分した石器群が平面的に重複しており，石材毎の出土状況を考慮して設定を行った。石材はホルンフェルスが多く，隣接する３号礫集中部との関連も想定される。

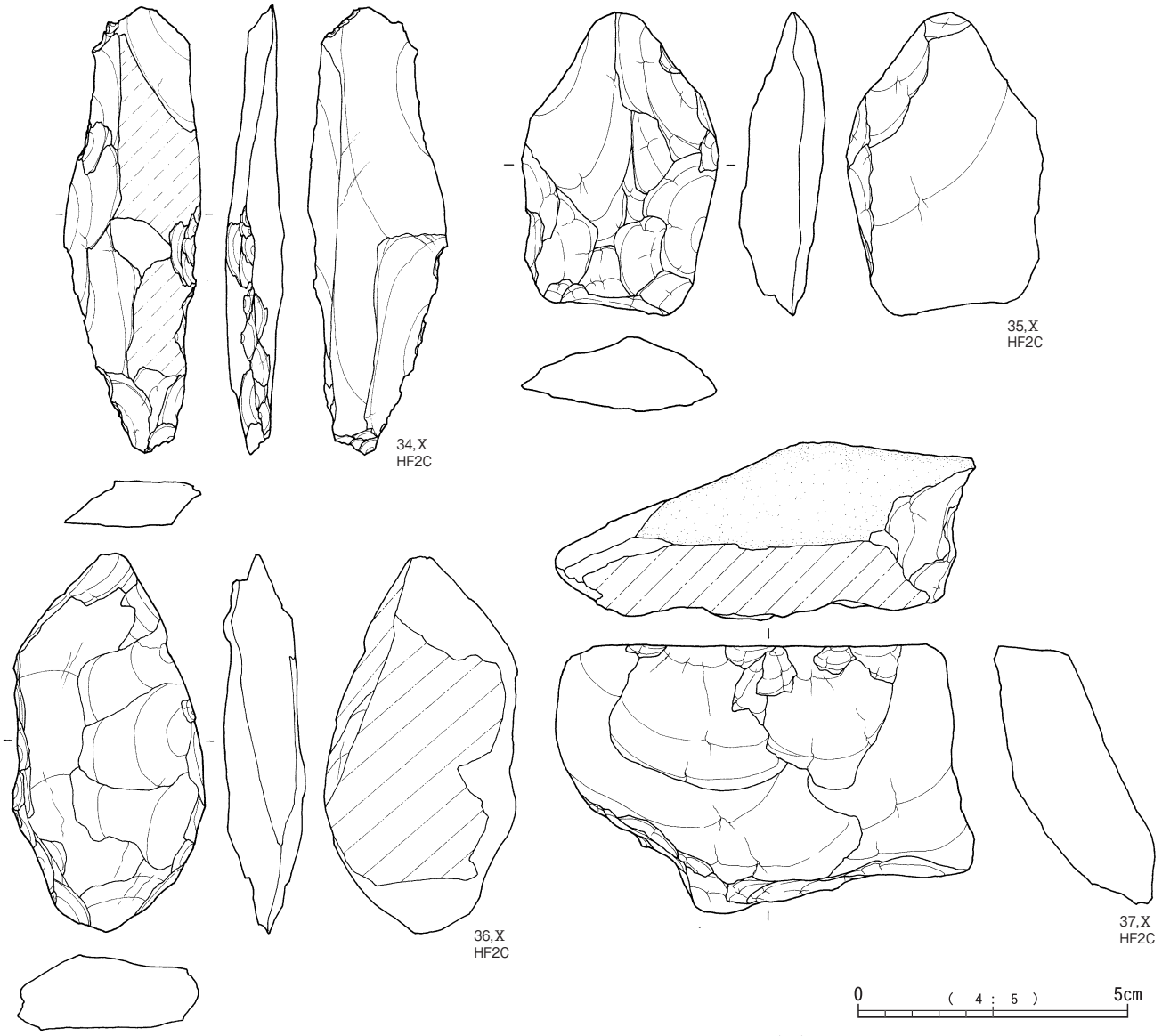
38,39は角錐状石器である。褐色に風化する比較的良質のホルンフェルスを素材としており，主軸長は概ね3～4cmほどの製品である。38は幅広の不定形剥片を素材とするもので主要剥離面側から二次加工を施している。先端部は欠損の



第26図　第Ⅱ文化層第１エリア～第２エリア出土石器分布図



第27図　第Ⅱ文化層第１エリア出土石器実測図（１）



第28図　第Ⅱ文化層第１エリア出土石器実測図（２）

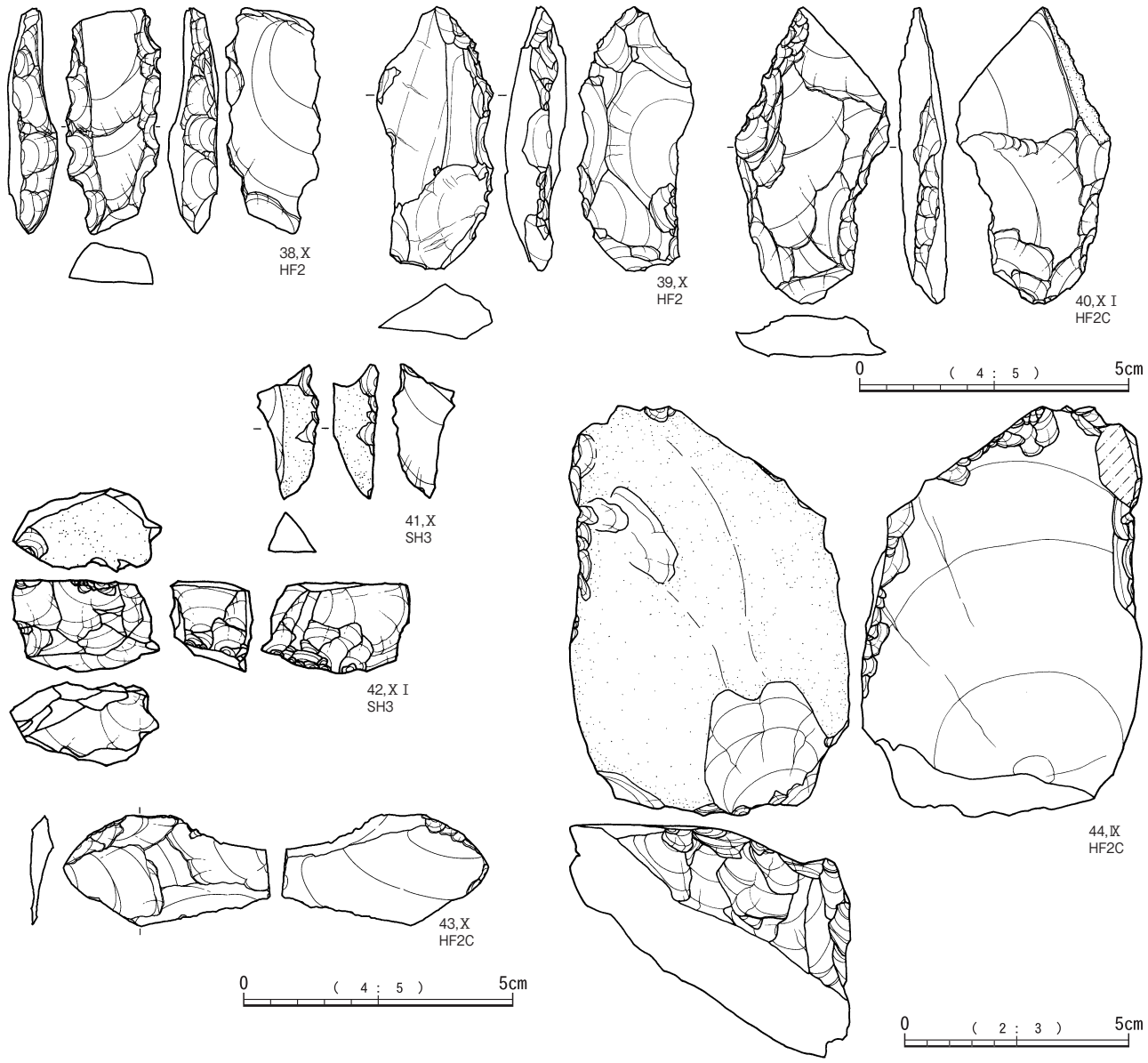
可能性もあるが素材面をそのまま残している可能性の方が高い。39は不定形剥片の形状をそのまま利用して右側縁を中心に二次加工を加え製品としている。40も先端部が欠損しているが角錐状石器と考えられる資料である。薄く扁平な剥片を素材とし，主要剥離面側から二次加工を加えて製品としている。褐色に風化する点を除けば38,39等と同様の石材を利用している。第１エリア第27図27と同一母岩である。

41,42は灰褐色の母岩を素材とするものである。41は二次加工剥片である。両者とも同一の接合資料に属する。43は調整剥片である。40等と同一母岩である。

44は打面再生剥片である。少なくとも径20cm程度はあろうかと思われるホルンフェルス亜円礫を素材とし自然面を打面として先行作業面が形成されている。本資料はその作業面を打面として旧打面を割り飛ばしたものである。石材的には40等と同種であるが若干風化が進んでおり，第Ⅰ文化層に帰属する可能性もある。

第６表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（１）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
27	25	43882	16.077	15.605	142.507	B-2	ⅩⅠ	A01	-	角錐状石器	-	SH1A	d	-	53.7	23.3	16.6	15.62	-
	26	24965	16.414	15.425	142.609	B-2	X	A01	-	角錐状石器	-	HF2C	c	-	62.3	23.6	16.4	22.09	-
	27	23746	16.578	15.513	142.750	B-2	X	A01	-	角錐状石器	-	HF2C	a	-	74.2	27	14	21.81	-
	28	22681	15.478	14.113	142.689	B-2	X	A01	-	削器	-	HF2C	a	-	53.7	26.9	12.6	14.4	-
	29	22908	16.409	15.290	142.807	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	a	-	47.4	26.9	9.1	10.77	-
	30	29888	17.779	16.071	142.637	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	-	-	62.8	27.2	13.4	17.71	-
	31	26246	17.678	13.893	142.698	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	c	-	37.6	30.1	6.7	6.03	-
	32	24967	17.098	14.659	142.705	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	c	-	49.9	22	8.9	9.2	-
	33	26245	17.737	14.090	142.685	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	c	-	74.8	39.2	17.8	45.82	-
28	34	4号機集中部_012	18.708	15.679	-	B-2	X	A01	-	角錐状石器	-	HF2C	b	-	83.4	25.8	11.1	20.1	-
	35	4号機集中部_005	18.717	15.943	-	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	c	-	56.2	36.7	16.1	28.52	-
	36	4号機集中部_003	18.752	15.785	-	B-2	X	A01	-	二次加工剥片	-	HF2C	c	-	71	35.5	15.4	37.49	-
	37	4号機集中部_004	18.948	15.837	-	B-2	X	A01	-	石核	-	HF2C	c	-	50.1	77.5	33.2	106.45	-



第29図　第Ⅱ文化層第２エリア出土石器実測図

第３エリア（第31図～第38図；第８表～第11表）

B-2区の調査区境近くに検出されており，５号礫集中部等の上位にあたる。若干傾斜面にさしかかる地点にやや緩慢ながら濃密な集中部が形成されている。

石器群は，ホルンフェルス系石材を利用するものと，頁岩Ⅱ類を素材とするものの二者に大別できる。

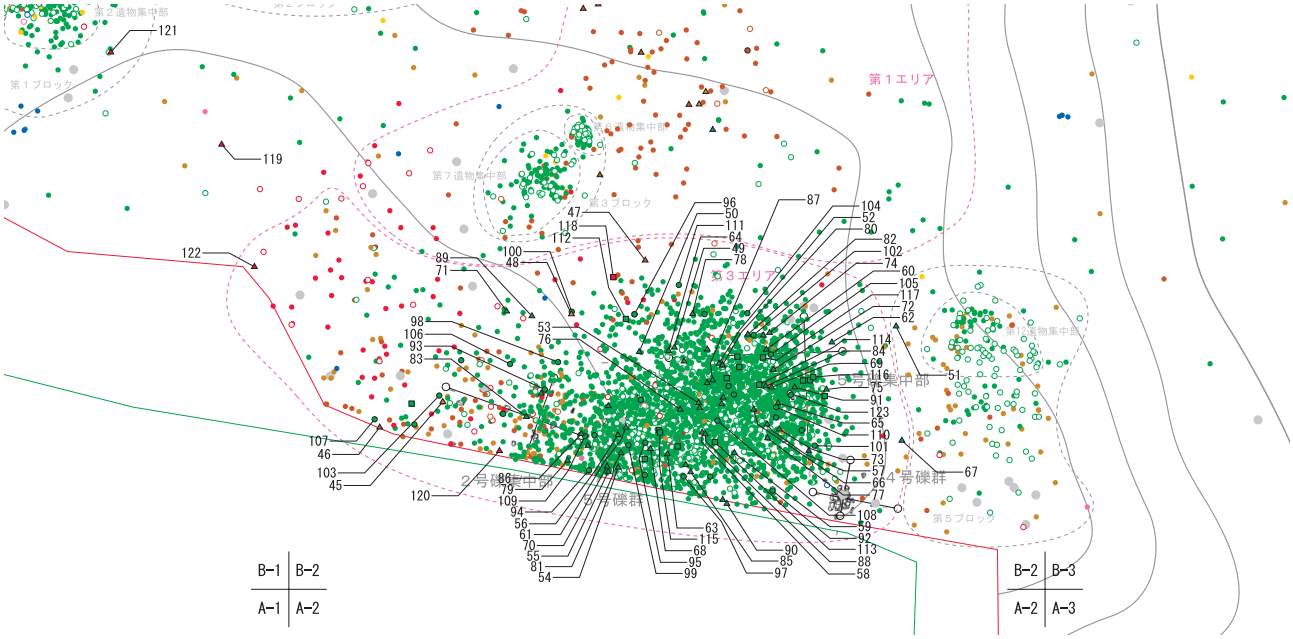
ホルンフェルス系石材では合計４点の資料を抽出した。45は角錐状石器である。白色に風化するホルンフェルスを素材とする。横剥ぎの剥片を素材とし，主要剥離面側からの調整加工により素材の打点側を除去して製品としている。

46～48は二次加工剥片である。46はホルンフェルスⅡ類を素材とするもので，中央付近で破断している。左側縁にはやや大きめの調整剥離痕が看取され，角錐状石器の未製品の可能性が疑われる資料である。47も若干風化が進むが，基本的には46と同種の石材である。先端部は欠損している。扁平な剥片を素材とし，周縁に簡単な二次加工を施して製品としている。48は白色に風化するホルンフェルスである。風化が進行しているため十分に観察できないが，小型の横長剥片の末端側に主要剥離面側から二次加工が施されている。

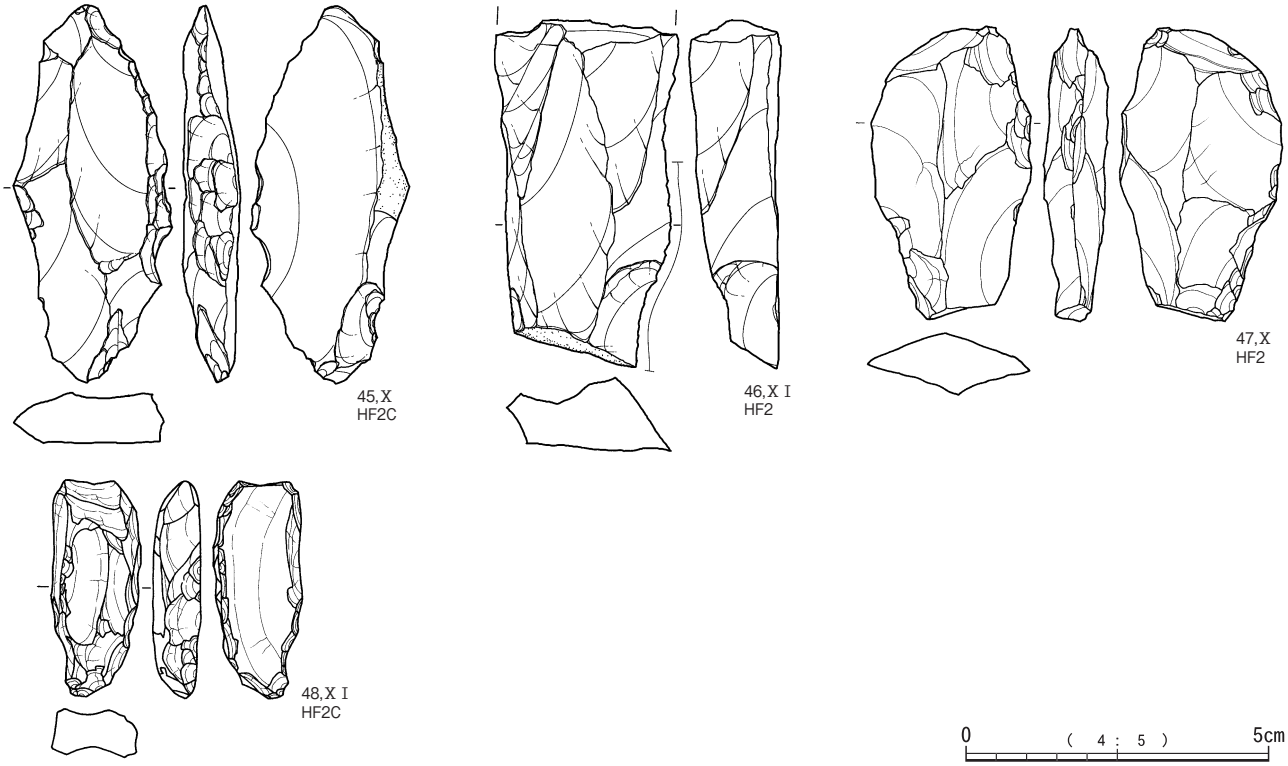
頁岩系石材は5～8個程度の母岩に区分でき，主に主軸長3～5cm程度の角錐状石器を中心に，削器，微細剥離痕剥片等を中心とする組成を示す。

第７表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（２）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
29	38	58255	22.965	21.259	142.988	C-3	X	A02	-	角錐状石器	-	HF2	-	-	40.8	17.2	9.6	6.44	-
	39	59093	22.486	20.144	142.956	C-3	X	A02	-	角錐状石器	-	HF2	-	-	47.6	21.1	11.6	10.02	-
	40	60692	22.571	20.638	142.874	C-3	XⅠ	A02	-	角錐状石器	-	HF2C	a	-	53.3	27.9	9.3	12.97	-
	41	59089	22.591	21.839	142.935	C-3	X	A02	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	19.3	9.1	6.9	0.78	SG142
	42	55123	20.400	21.592	142.860	C-3	XⅠ	A02	-	剥片	-	SH3	-	-	16.7	26.9	15.8	7.16	SG142
	43	42076	19.232	18.886	143.018	B-2	X	A02	-	調整剥片	-	HF2C	a	-	37.2	20.1	6.1	3.45	-
	44	21419	20.419	21.481	143.488	C-3	Ⅸ	A02	-	打面再生剥片	-	HF2C	a	-	50.4	60.6	91.3	180.44	-



第30図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器分布図



第31図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（１）

49～69は角錐状石器である。接合資料No.5_E1E2を含め，破片資料まで合わせると19点以上が含まれる。主軸長は最小のものが約35mm,最大のものが約50mmで概ね45mm前後のものが多い。第３エリアのほとんどは同種の石材で構成されており，接合資料も豊富に含まれることからブロック内で角錐状石器の製作と消費が行われている可能性が高い。

49～51は小型の角錐状石器である。いずれも幅広の不定形剥片を素材としている。49は基部が一部欠損しているが，主要剥離面側にも二次加工が若干施されている。

52～54も基本的には小型角錐状石器の範疇に入る石器である。52は分厚い横広の剥片を素材としており，素材の末端側に二次加工を施している。二次加工は左側縁を中心に施され

第８表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（３）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
31	45	38449	12.478	12.035	142.584	B-2	X	A03	-	角錐状石器	-	HF2C	a	-	60.4	25.6	9.9	14.39	-
	46	51187	12.142	11.201	142.334	B-2	XⅠ	A03	-	二次加工剥片	-	HF2	a	-	55.5	29.4	15.5	27.22	-
	47	22684	14.350	14.713	142.678	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	HF2	a	-	47	26.2	11	12.59	-
	48	43242	13.639	13.737	142.468	B-2	XⅠ	A03	-	二次加工剥片	-	HF2C	-	-	34.8	14.5	8.2	5.25	-

ており，右側縁には簡単な整形剥離しか施されていない。

53も同じく厚手の横広剥片を素材とするものである。裏面にも左側縁を中心に調整剥離痕が観察される。正面左側先端部付近には微細剥離痕が多く観察できる。54は前二者と比べるとやや薄手の剥片を素材とする。先端部を尖らせようとする意識はあまり看取できないが，主に素材の末端側に二次加工を加えている。55も分厚い横広剥片を素材とするもので，先端部付近を中心に細かな二次加工を施して製品としている。先端部には微細剥離痕も観察され，また稜線の一部には摩滅が見られる。55は53と同一母岩の可能性が高い。56も横広の剥片を素材とするものである。二次加工は先端部付近に集中しており，特に正面左側縁先端部付近に細かな剥離痕が観察される。59,60も基本的には横広の剥片を素材とするものである。基部付近にはやや大きめの剥離が施されており，当初の主軸長は残存部より1cm程度長かった可能性が高い。59は正面右側縁に，60は正面左側縁を中心に二次加工が施されているが，素材剥片から見ればいずれも末端側からの加工となる。また60は正面左側縁先端部付近に微細剥離痕が多く観察される。

61は先端部が欠損しているが，やや大きめの製品である。推定される主軸長は5cm程度となり，サイズ的には中型の部類に属する。横長の剥片を素材としており，二次加工は主に素材の打点側に施されている。

62～71は分厚い素材を利用する比較的大きめの製品である。62は分厚い横広の不定形剥片を素材とし，主に素材剥片の打点側から二次加工を施し製品としている。二次加工は正面左側縁に丁寧に施されており，左側縁は急斜度を呈する。右側縁には簡単な整形剥離が施されるのみである。61,62は分厚い剥片を素材とするもので，両側縁から二次加工を施して一方の端部を尖らせるように整形している。いずれも下端付近は一部が欠損しているが，基本的には素材形状に近く欠損部位はそう大きくはない。61は正面上端部に断続的ながら微細剥離痕が観察される。ただしこの資料は正面右側縁下端部にもわずかに微細剥離痕が観察され，天地逆の可能性もある。また62についても微細剥離痕等は観察されないが，同様に天地逆の可能性がある。

63も分厚い素材を利用するものである。ただし，整形剥離は一枚一枚が比較的大柄で，正面左側縁のみに観察される。左側縁に連続的に微細剥離痕が観察されるため角錐状石器と認定したが，石核を転用した製品である可能性が高い。石材は，59,60と同一母岩である。

64～69,接合資料No５_E1E2は接合した製品を一括掲載した。64,65は図化後接合した資料である。主軸長5cm程度の角錐状石器で縦長の剥片を素材とし，正面右側縁に連続的な二次加工を加えて製品としている。64は先端部の破断資料で先端部右側縁には微細剥離痕が観察され，稜線の一部に摩滅痕が観察される。66,67も図化後接合した資料である。横広の不定形剥片を素材とし，正面右側縁を中心に二次加工を施している。正面右側縁上半には凸部に微細剥離痕が観察されるため，両側縁から二次加工を施し先鋭化した方が基部の可能性が高い。68,69も図化後接合した。大型の分厚い不定形剥片を素材としており，石材は53,55等と同一母岩である。二次加工は先端部付近を中心に施され，それ以外の部分にはやや大きめの整形剥離の後は周縁に簡単な整形加工が加えられるのみである。なお，本資料の微細剥離痕は正面左側縁先端部付近に観察される。

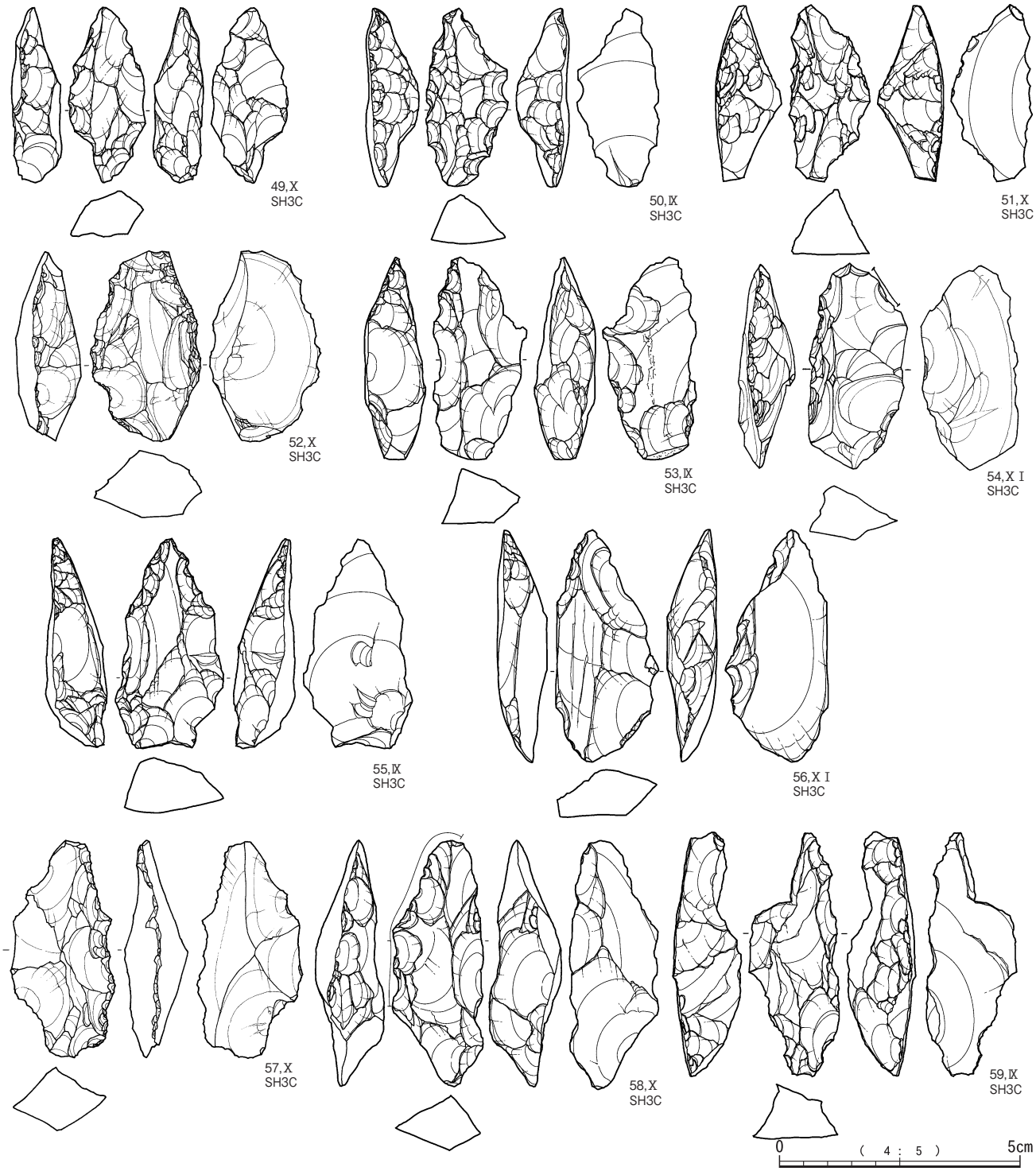
接合資料No５_E1E2は，横広の大型剥片を素材とするものである。素材剥片の打点側から二次加工を進め製品としている。稜上調整が施されているのが本資料の特徴である。二次加工は基部付近に集中し，先末端側にはあまり施されていない。微細剥離痕はほとんど観察されない。

70～77は二次加工剥片である。角錐状石器の未製品及び関連資料である可能性が高いものを中心に抽出した。

70,71は先端部のみの欠損品である。これらは同一母岩である。70は右側縁に集中的な加工が施されている。71は横広の剥片を素材とし，素材の打点側に二次加工を加えている。右側縁には連続的な整形剥離が施され，正面左側縁先端部付近に細かな二次加工と微細剥離痕が観察される。72はやや幅

第９表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（４）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
32	49	42358	13.198	15.098	142.659	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	35.3	15.7	10.7	4.37	-
	50	36047	13.139	14.633	142.772	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	35.9	16.7	11.3	4.94	接合資料No7_F1
	51	42697	13.478	18.030	142.744	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	35.6	16.5	14	6.1	接合資料No8_D1
	52	43604	12.985	15.687	142.546	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	38.5	22.5	13.8	10.84	接合資料No12_M1
	53	42257	12.466	15.417	142.672	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	40.9	19	13	7.37	接合資料No3_C1
	54	44051	11.610	14.354	142.493	B-2	ⅩⅠ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	43.3	20.5	20.4	7.31	接合資料No20_C1
	55	37016	11.556	14.225	142.734	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	42.1	22.1	13	10.16	-
	56	43953	12.042	14.351	142.484	B-2	ⅩⅠ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	46.8	20.9	10.6	9.24	-
	57	43924	12.182	16.324	142.537	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	43.5	21.4	13.4	7.89	接合資料No24_C1
	58	43216	12.075	15.466	142.574	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	50.1	18.1	14.6	9.84	-
	59	36028	11.803	15.892	142.850	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	49	18.3	14.5	9.37	接合資料No22_B1
33	60	46070	13.171	16.314	142.496	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	42.7	22.1	15.1	14.72	接合資料No21_C1
	61	43266	12.141	14.456	142.561	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	45.7	25.6	17.8	15.76	接合資料No10_G1
	62	43668	13.266	17.181	142.557	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	48.8	25.1	18.3	17.35	接合資料No4_E1
	63	31225	11.788	15.006	142.923	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	49.7	24	18.5	13.54	接合資料No9_D1
	64	41719	13.154	15.022	142.729	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	26.8	18.9	10	3.35	接合資料No21_A2
	65	46734	12.462	16.470	142.533	B-2	ⅩⅠ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	33.4	20.6	11.8	6.55	接合資料No21_A1
	66	42417	12.377	16.146	142.657	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	44.2	26.1	13	14.5	接合資料No6_C1
	67	41979	11.967	18.106	142.724	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	18	15	11	1.84	接合資料No6_C2
	68	42318	11.857	14.782	142.608	B-2	Ⅸ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	29.4	19.7	13.3	4.92	接合資料No3_B2
	69	43919	12.671	16.385	142.545	B-2	Ⅹ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	42.1	26.1	20.3	16.17	接合資料No3_B1
	接No5 E1E2	43442	11.900	13.954	142.533	B-2	ⅩⅠ	A03	-	角錐状石器	-	SH3C	-	-	71.1	22.2	15.4	18.32	接合資料No5_E1
		42331	12.591	13.337	142.542	B-2	Ⅹ	A03	-										接合資料No5_E2



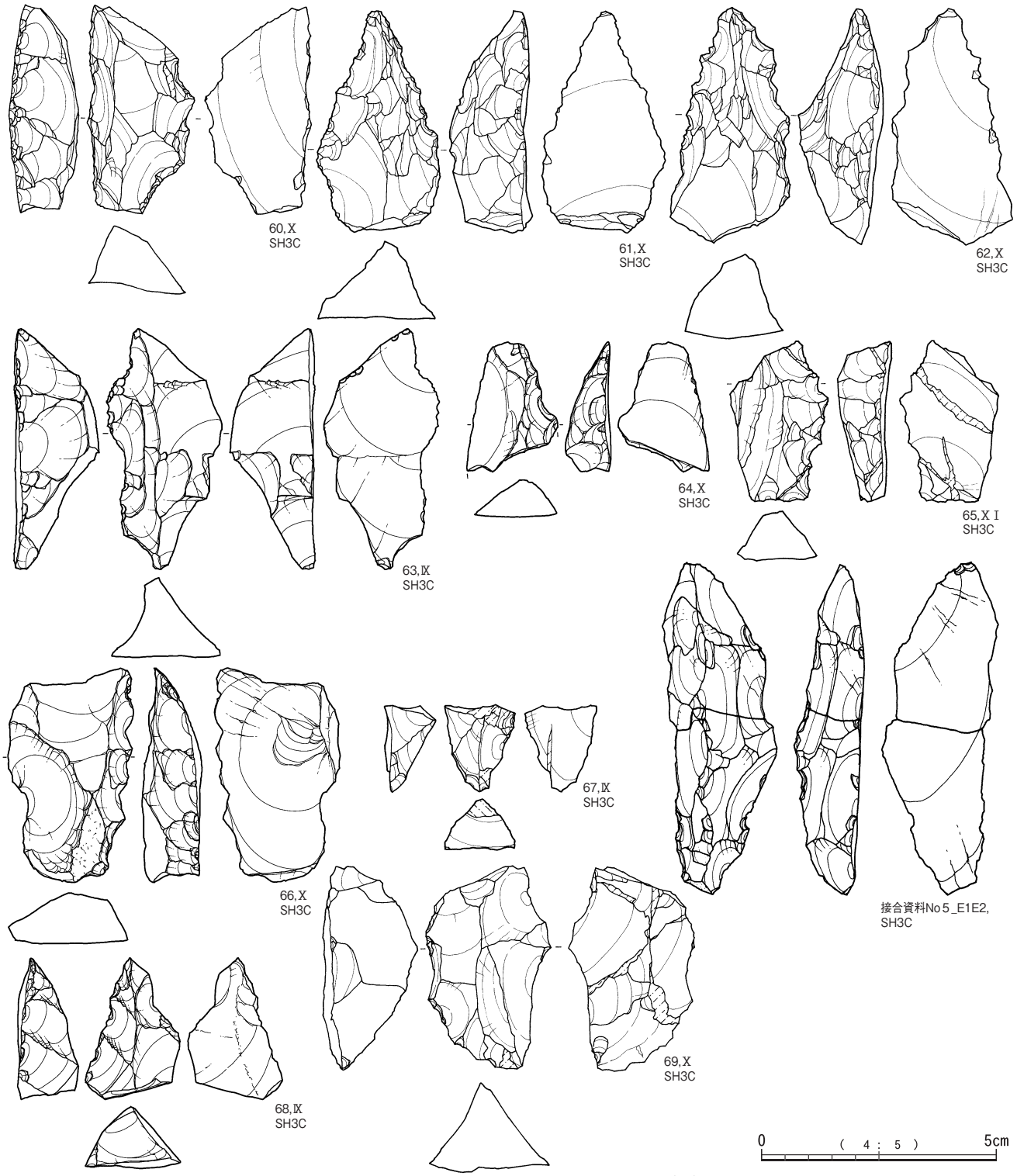
第32図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（２）

広の剥片を素材とする。右側縁に二次加工が施されている。73は角錐状石器の先端部と考えられる資料である。右側縁に細かな剥離痕が観察される。74は角錐状石器の関連資料である。石核の転用品の可能性もあるが正面左側縁には連続的に細かな二次加工が施されているため，関連資料として取り扱う。右側面からの加撃により打割された資料である。

75～77は角錐状石器の関連資料の可能性がある一群である。いずれも側縁に二次加工が施されており，一部には微細剥離痕も観察される。

78～83は削器である。いずれも不定形剥片を素材とし，縁辺の一部に二次加工を施して刃部を形成している。

78は横広の不定形剥片を素材とし，右側縁に簡単な二次加工を施している。80は素材剥片の両側縁から二次加工を施し，端部を尖頭状に加工して製品としている。側縁は鋸歯状を呈するが，特に先端部付近には微細剥離痕が観察され，抉入石器的な使用法も想定される。79～83は素材剥片の一部に二次加工を施して刃部形成している。84は素材の下端部に急斜度の剥離を施しており，掻器とみられる。85は二次加工剥片である。角錐状石器の関連資料の可能性もあるが，細かな調整剥離は観察されず石核の可能性もある。



第33図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（３）

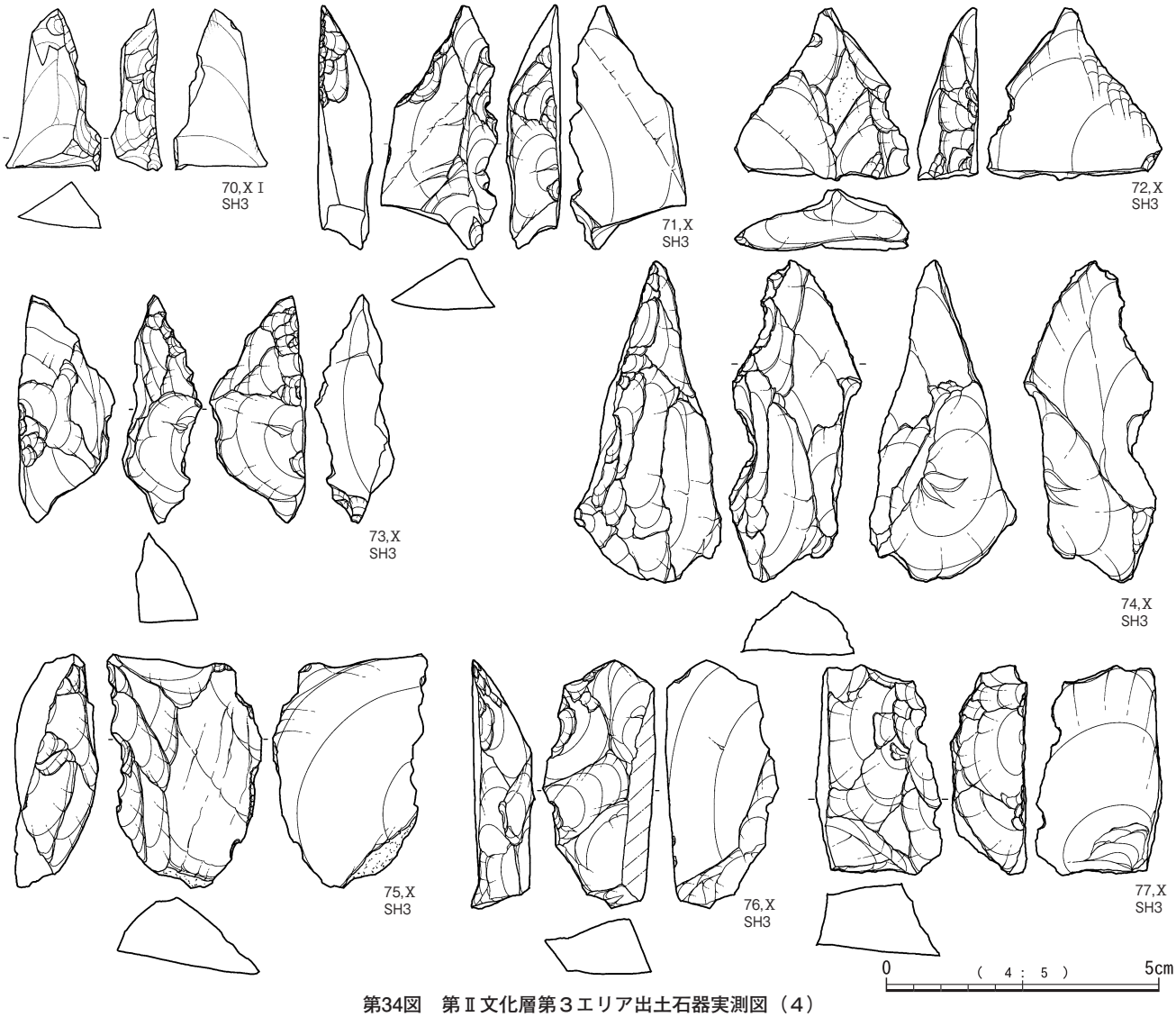
86～91は抉入石器である。いずれも不定形剥片を素材とするもので，多様な形状の素材を選択している。抉り部の直径は一定ではないが，86,87が10mm程度，88～90が6mm程度，91が4mm程度である。

92～99は微細剥離痕剥片である。素材剥片の鋭利な縁辺の一部に連続的な微細剥離が観察される。

100～111は調整剥片である。特に，100～109は角錐状石器の関連資料である可能性が高い。

112～117は石核である。112～115は交互剥離状に剥離が進められたもので，ほぼ極限に近い状態まで剥離が進行している。角錐状石器の関連資料の可能性もあるが最後まで比較的大きな剥離が行われており，石核として取り扱っておく。116,117は平坦な先行剥離面を打面として剥離が進められている石核である。主軸長3～4cm程度の幅広の剥片が剥離されている。

118～122は黒曜石Ⅱ類を素材とするものでⅩ層に主体を持つため，ここで取り扱う。118は石核で，小型の亜円礫を分割し，分割面から剥離を行っている。119～122は小型の台形



第34図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（４）

石器である。118と同一母岩の可能性が高い。いずれも小型の剥片を素材とするもので，縁辺に急斜度の二次加工を施して製品としている。

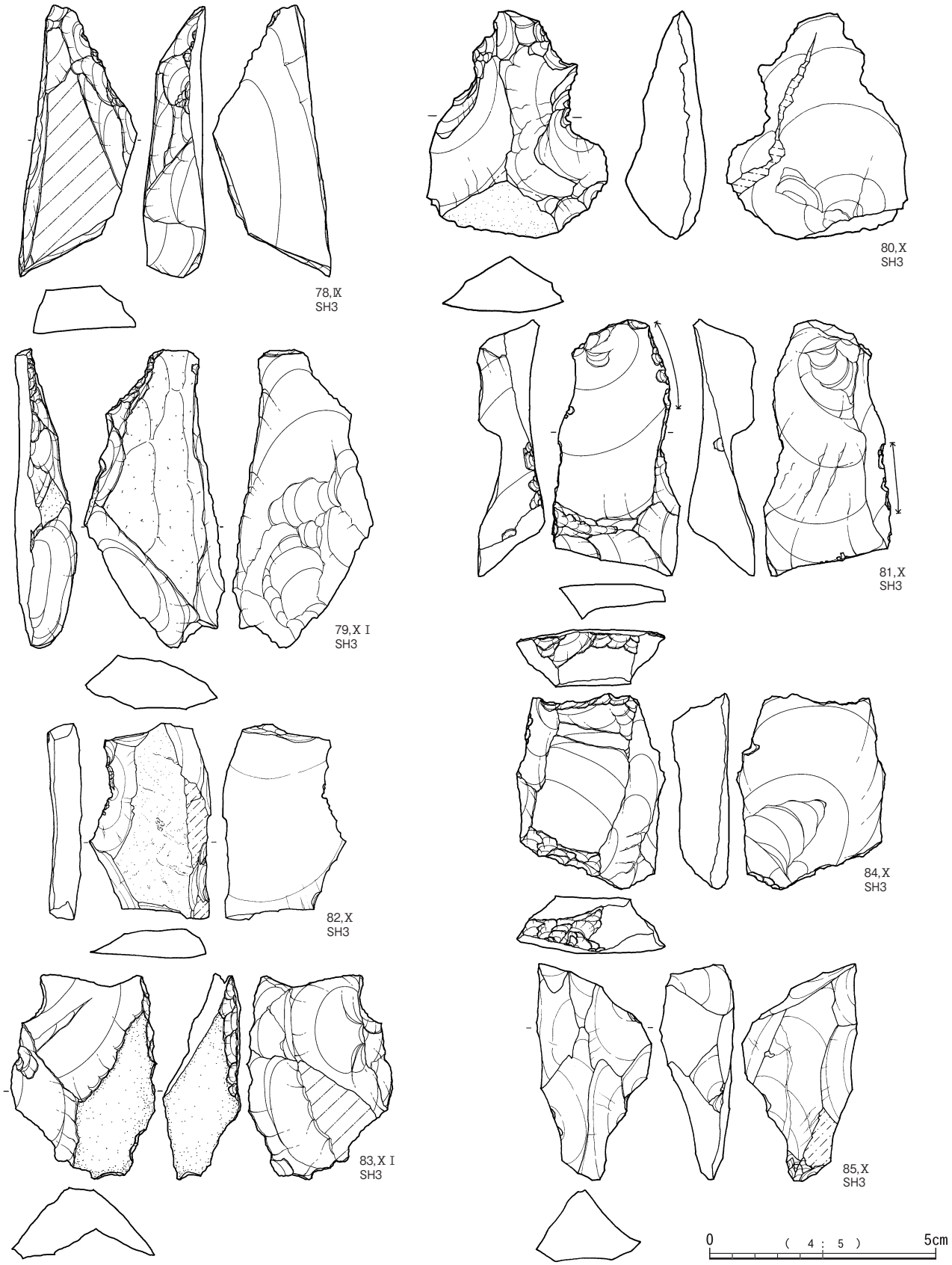
123は叩石である。角棒状の砂岩礫を使用し，先端部に敲打痕が観察される。

第４エリア（第39図；第11表）

A-4区に緩慢な集中部が形成されており，第４エリアとした。石核２点を含むほか，周辺で微細剥離痕剥片が出土している。この他に，剥片１点を抽出した。第３エリアと接合関係を持つ資料がある。

第10表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（５）

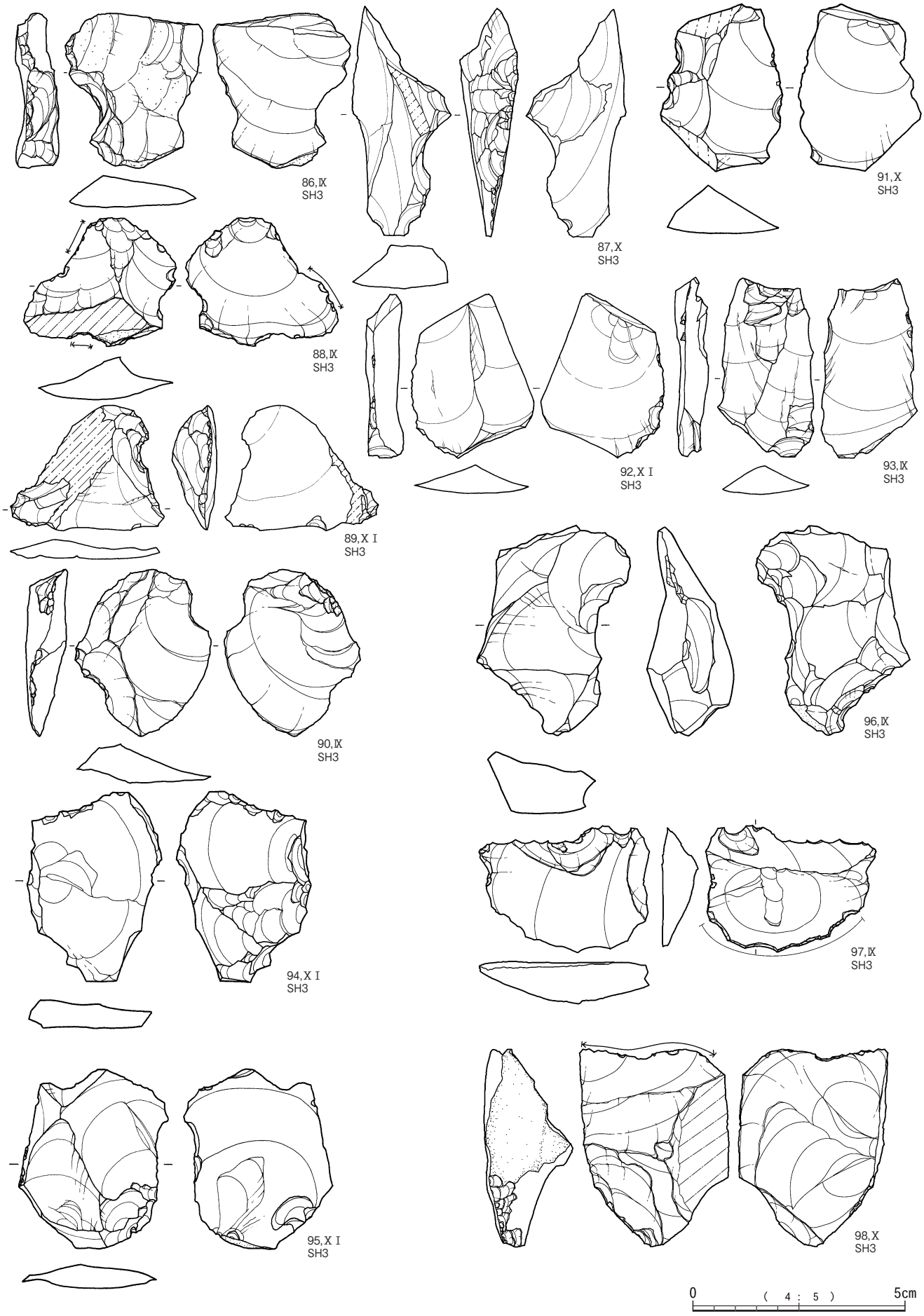
挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
34	70	47338	11.625	14.208	142.424	B-2	XⅠ	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	28.6	16.7	9.5	3.08	-
	71	42334	13.676	12.880	142.560	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	43.3	20.9	10.2	7.34	接合資料No25_A1
	72	42691	12.905	16.408	142.630	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	30.6	31.2	11.4	6.54	接合資料No10_Q2
	73	42420	12.117	16.484	142.643	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	40.6	14.3	17.9	6.77	-
	74	42652	13.393	16.356	142.652	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	57.1	23.7	27.2	19.21	接合資料No11_T1
	75	42771	12.643	17.109	142.615	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	41.6	27.6	15.6	14.11	接合資料No13_G1
	76	42369	12.378	15.174	142.646	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	44.2	20.2	11.9	9.83	接合資料No8_C1
	77	38507	11.999	16.330	142.737	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	37.3	22.5	14.4	12.75	接合資料No8_L1
35	78	42231	13.642	15.339	142.713	B-2	Ⅸ	A03	-	削器	-	SH3	-	-	58.1	25.4	14	18.79	SG051_A2
	79	43718	11.703	13.685	142.398	B-2	XⅠ	A03	-	削器	-	SH3	-	-	63.8	30.1	14	19.59	SG216_A2
	80	43931	12.963	15.734	142.509	B-2	-	A03	-	削器	-	SH3	-	-	48.3	39.7	17.8	26.8	接合資料No11_I1
	81	38473	11.802	14.392	142.674	B-2	X	A03	-	削器	-	SH3	-	-	54.7	27.6	15.3	18.51	接合資料No6_F1
	82	43007	13.371	16.069	142.614	B-2	X	A03	-	削器	-	SH3	-	-	41.9	26.6	7.9	9.13	接合資料No12_C2
	83	43646	12.281	13.140	142.363	B-2	XⅠ	A03	-	削器	-	SH3	-	-	43.8	31.4	17.5	15.31	接合資料No15_V1
	84	38512	12.685	16.307	142.749	B-2	X	A03	-	掻器	-	SH3	-	-	42	32	13	19.68	接合資料No27_A1
	85	38498	11.551	15.313	142.703	B-2	X	A03	-	二次加工剥片	-	SH3	-	-	46.6	24.8	16.7	14.12	接合資料No23_B1
36	86	42017	12.056	13.869	142.598	B-2	Ⅸ	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	35.5	31.5	10.5	9.5	-
	87	42878	12.765	15.604	142.606	B-2	X	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	52.1	22.9	13.9	9.74	-
	88	33058	12.053	15.506	142.937	B-2	Ⅸ	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	29.4	35	12.3	8	SG168_B5
	89	42826	13.613	13.214	142.487	B-2	XⅠ	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	28.6	35.1	10.8	7.02	-
	90	41988	11.132	15.792	142.689	B-2	Ⅸ	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	38.3	31.2	10.2	8.67	接合資料No26_B1
	91	46067	12.672	16.690	142.497	B-2	-	A03	-	抉入石器	-	SH3	-	-	38.4	29	12.2	12	接合資料No7_H1



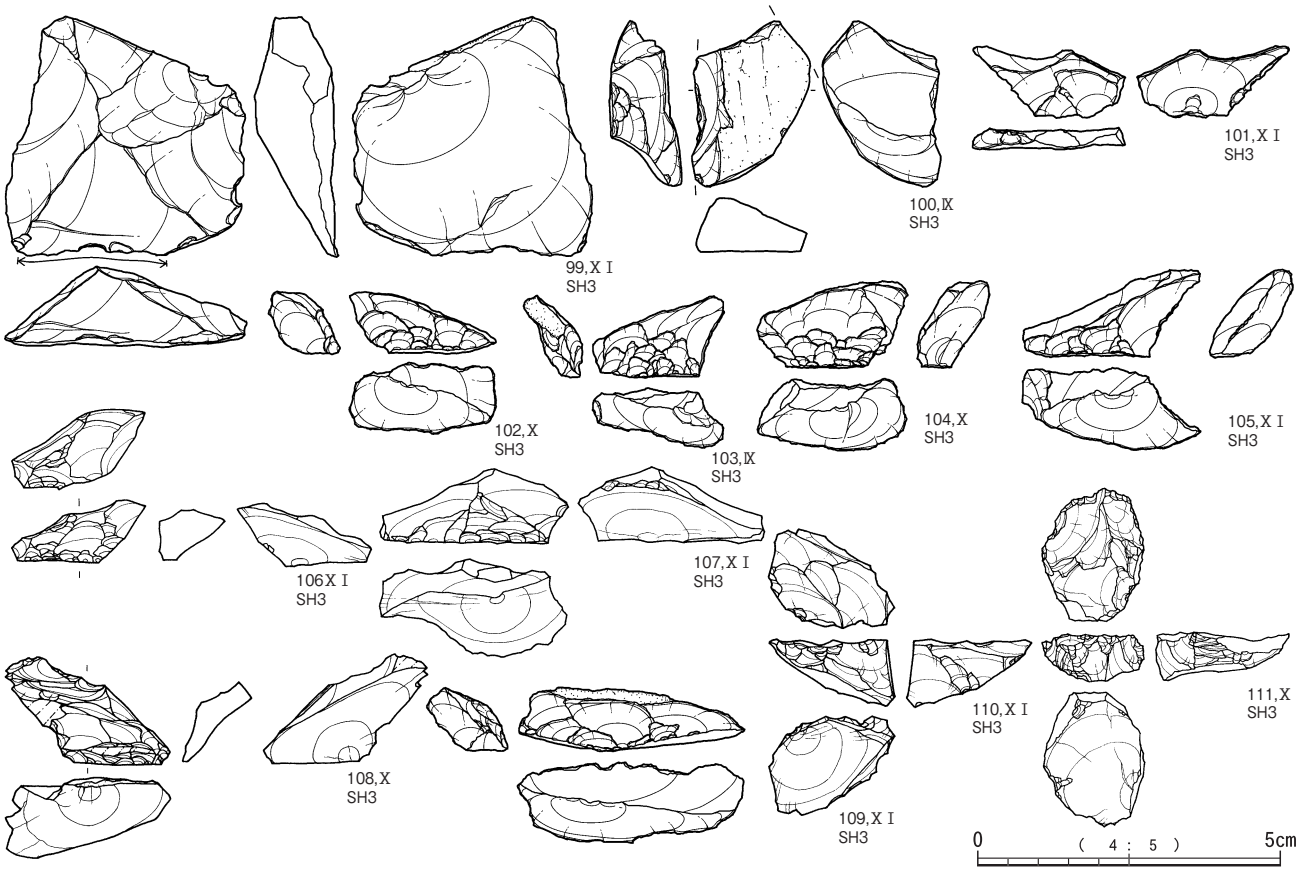
第35図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（５）

124は大型の石核である。この資料は白色に風化する特徴的な母岩を素材としている。周辺で同一母岩の剥片等も出土しているが，製品がなく剥離目的等は不明である。125も石核で，平坦な先行剥離面を打面として剥離を行っている。

126は微細剥離痕剥片である。良質の頁岩を素材とするもので，縁辺の一部に微細剥離が観察される。127は剥片である。白色に風化する良質なホルンフェルスを素材としており，縦長を意識した剥離が行われている。



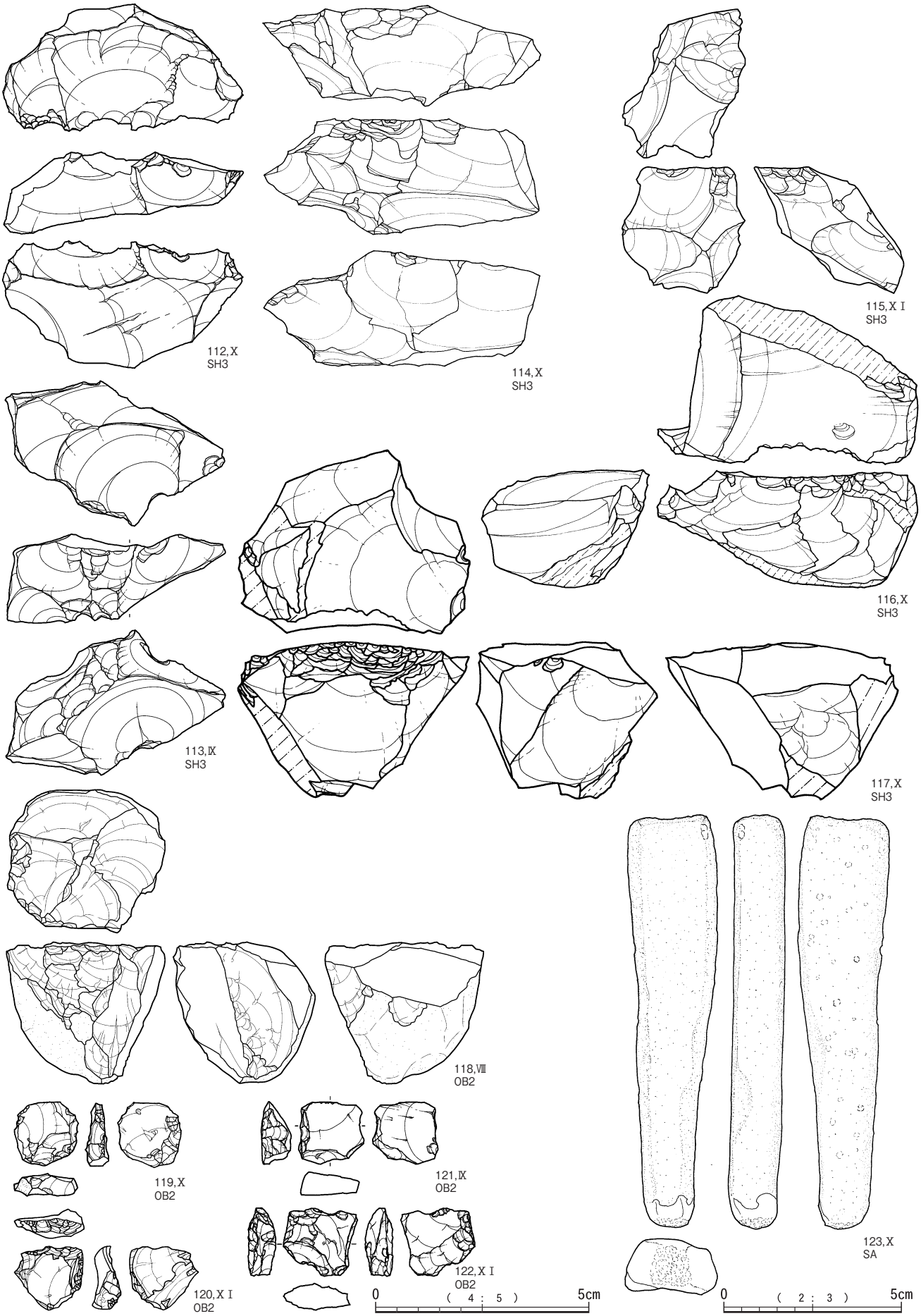
第36図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（６）



第37図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（7）

第11表　第Ⅱ文化層出土石器観察表（6）

挿図No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	グリッド	層位	エリア	集中部	分類L2	分類L3	石材L1	石材L2	石材L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
36	92	43524	11.306	16.396	142.534	B-2	XⅠ	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	37.5	28.3	9.2	7.59	接合資料No14_J3
	93	42108	12.642	13.384	142.598	B-2	Ⅸ	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	40.9	22.1	8.2	6.83	接合資料No11_P1
	94	46961	11.575	13.969	142.387	B-2	-	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	31.9	44.8	8.6	10.5	接合資料No11_D3
	95	44060	11.938	14.714	142.482	B-2	-	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	39.9	35.8	9	9.23	接合資料No5_H2
	96	42224	13.637	14.570	142.702	B-2	-	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	49	35.8	15.4	22.5	接合資料No12_J1
	97	41994	11.492	15.221	142.618	B-2	Ⅸ	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	39	29.1	10.3	8.73	接合資料No3_A1
	98	42185	13.005	13.560	142.566	B-2	X	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	45.2	34.3	21.2	24.49	接合資料No28_B1
37	99	45901	11.906	14.489	142.450	B-2	XⅠ	A03	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	38.4	38.5	13.6	15.28	接合資料No5_H5
	100	42031	13.671	13.741	142.688	B-2	Ⅸ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	26.6	19.1	12.2	4.72	接合資料No10_K1
	101	44021	11.900	16.952	142.503	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	11.6	24.5	3.9	0.72	-
	102	42654	13.363	16.146	142.664	B-2	X	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	10.1	23.5	12	1.7	接合資料No26_A1
	103	37026	12.562	11.989	142.665	B-2	Ⅸ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	13.2	21.2	10.1	1.23	-
	104	42647	13.651	16.063	142.670	B-2	X	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	14.1	24.1	12.1	2.76	-
	105	44107	13.104	16.374	142.546	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	15.6	28.4	13.8	2.38	-
	106	51183	12.979	12.925	142.257	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	10.2	21.5	13.4	1.57	-
	107	43241	12.248	11.134	142.564	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	12.1	30.3	16.3	4.11	-
	108	43578	12.230	15.667	142.548	B-2	X	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	17.5	26.5	13.5	2.4	-
	109	42623	12.026	13.917	142.532	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	10.4	36.2	13.5	3.95	-
	110	47438	12.410	16.444	142.454	B-2	XⅠ	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	10.9	20.3	16.6	2.72	-
	111	43003	14.024	15.157	142.609	B-2	X	A03	-	調整剥片	-	SH3	-	-	21.4	16.5	22.1	2.35	-
38	112	42556	13.575	14.456	142.648	B-2	X	A03	-	石核	-	SH3	-	-	54.5	29	19.5	21.72	接合資料No6_I1
	113	41991	11.946	15.634	142.670	B-2	Ⅸ	A03	-	石核	-	SH3	-	-	49.8	33.1	21.1	22.62	接合資料No10_U1
	114	43229	12.706	16.219	142.590	B-2	X	A03	-	石核	-	SH3	-	-	27.2	64	23.8	35.85	接合資料No14_T1
	115	47013	12.074	14.908	142.509	B-2	XⅠ	A03	-	石核	-	SH3	-	-	28.7	28.1	34.9	19.81	接合資料No30_D1
	116	43896	12.806	16.935	142.564	B-2	X	A03	-	石核	-	SH3	-	-	26.7	59.2	39.6	54.18	接合資料No15_P1
	117	43907	13.066	16.271	142.573	B-2	X	A03	-	石核	-	SH3	-	-	35.4	52.6	43.2	78.61	接合資料No7_I1
	118	19631	14.128	14.290	143.201	B-2	Ⅷ	A03	-	石核	-	OB2	-	-	32.3	36	33.6	39.58	-
	119	42811	15.882	9.111	142.470	B-1	X	A03	-	台形石器	-	OB2	-	-	15	14.6	5.6	1.1	-
	120	46074	11.831	12.785	142.324	B-2	XⅠ	A03	-	台形石器	-	OB2	-	-	14.5	15.8	7	1.11	-
	121	42167	17.101	7.645	142.674	B-1	Ⅸ	A03	-	台形石器	-	OB2	-	-	14.2	15	7.3	1.32	-
	122	43428	14.265	9.544	142.548	B-1	XⅠ	A03	-	台形石器	-	OB2	-	-	15.6	17	6.8	1.41	-
	123	43911	12.593	16.624	142.580	B-2	-	A03	-	叩石	-	SA	-	-	155	34	21.4	151.77	-
39	124	60943	7.099	36.175	142.908	A-4	X	A04	-	石核	-	SH3	-	-	55.9	85.9	79.5	440	-
	125	60939	7.973	36.586	142.945	A-4	X	A04	-	石核	-	SH3	-	-	28.7	53.3	35.4	46.59	-
	126	60830	10.275	39.010	142.917	B-4	X	A04	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	57.1	30.5	15.5	16.71	接合資料No29_B1
	127	60940	7.860	36.594	142.913	A-4	X	A04	-	剥片	-	HF1B	-	白色風化良質	59.7	36.4	10.1	17.5	-
	128	60679	9.991	27.720	143.104	A-3	XⅠ	外	-	二次加工剥片	-	HF3	-	-	48.4	23.1	9.2	9.36	-
	129	57764	17.761	44.329	143.183	B-5	X	外	-	削器	-	SH3	-	-	45.9	33.3	16.4	14.85	-
	130	54306	21.572	28.478	143.270	C-3	X	外	-	微細剥離痕剥片	-	SH3	-	-	42.3	36.5	8.5	10.35	SG207_A21

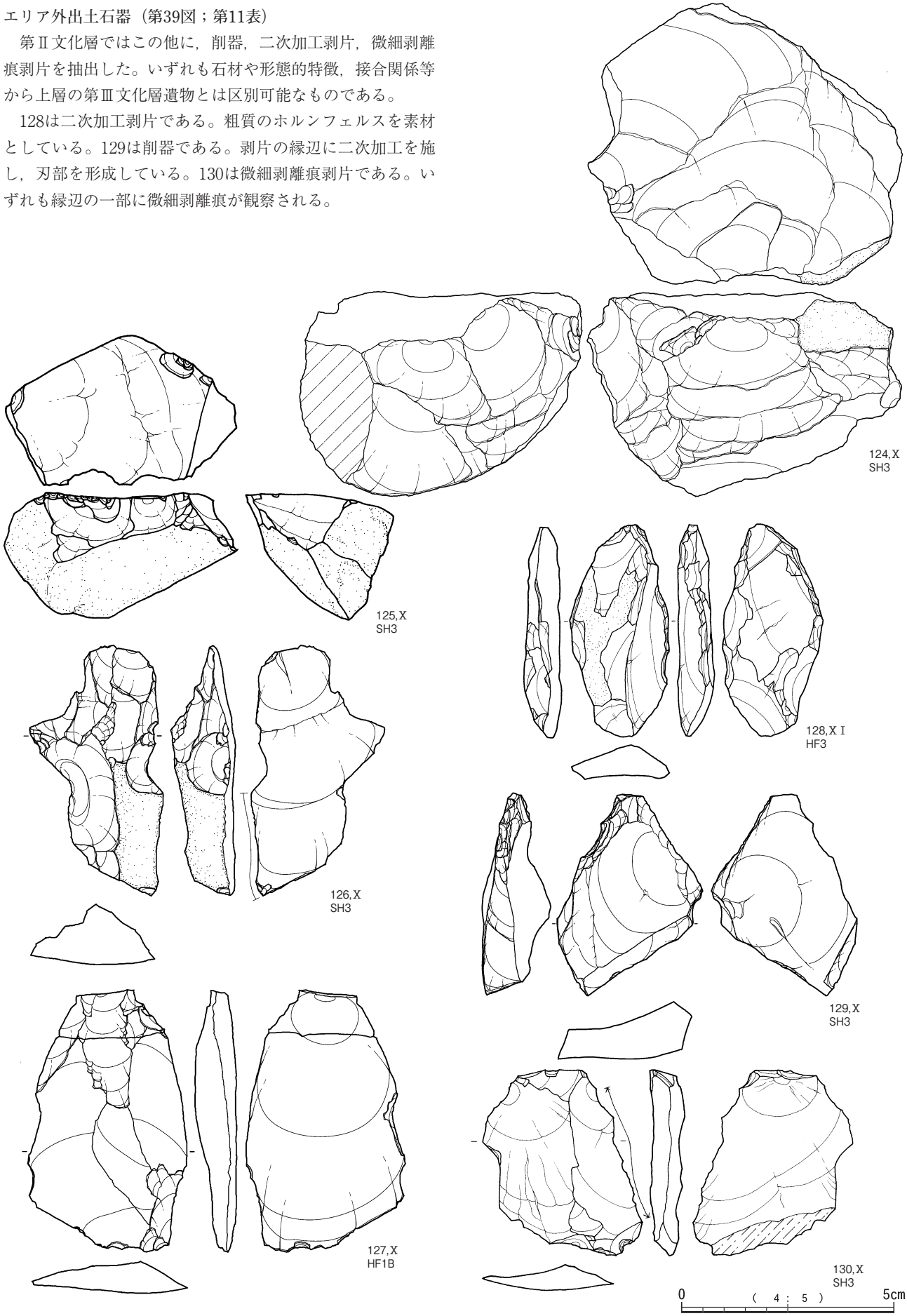


第38図　第Ⅱ文化層第３エリア出土石器実測図（８）

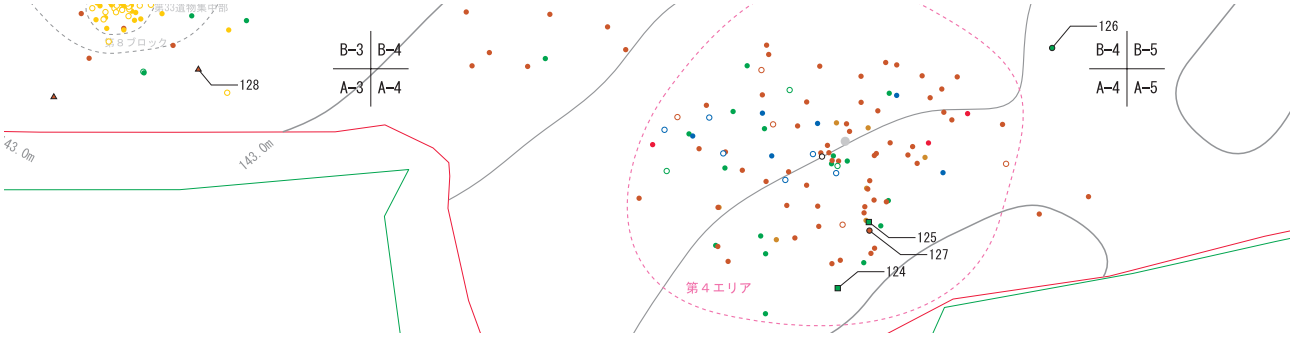
エリア外出土石器（第39図；第11表）

第Ⅱ文化層ではこの他に，削器，二次加工剥片，微細剥離痕剥片を抽出した。いずれも石材や形態的特徴，接合関係等から上層の第Ⅲ文化層遺物とは区別可能なものである。

128は二次加工剥片である。粗質のホルンフェルスを素材としている。129は削器である。剥片の縁辺に二次加工を施し，刃部を形成している。130は微細剥離痕剥片である。いずれも縁辺の一部に微細剥離痕が観察される。



第39図　第Ⅱ文化層第４エリア及びエリア外出土石器実測図



第40図　第Ⅱ文化層第４エリア出土石器分布図

第３節　接合資料

第Ⅱ文化層では，頁岩Ⅲ類を中心に接合を試みた結果，合計87個体の接合資料が得られた。接合作業では第Ⅲ文化層の資料とも比較を行ったが，頁岩Ⅲ類に区分した中でも第Ⅲ文化層で多用される石材とは肉眼的な特徴が異なる資料が多く，念のため接合を試みたがほとんど接合しなかった。

接合資料は，角錐状石器の関連資料が多いが，この他に石核接合資料も数点含まれる。

第３エリアの頁岩Ⅲ類のみに限定すれば，接合可能な剥片石核等の総点数は2769点で，接合総点数は736点である。接合可能な剥片に占める接合総点数の比率（接合率）は26.6%である。全体の接合状況を第41図に示す。

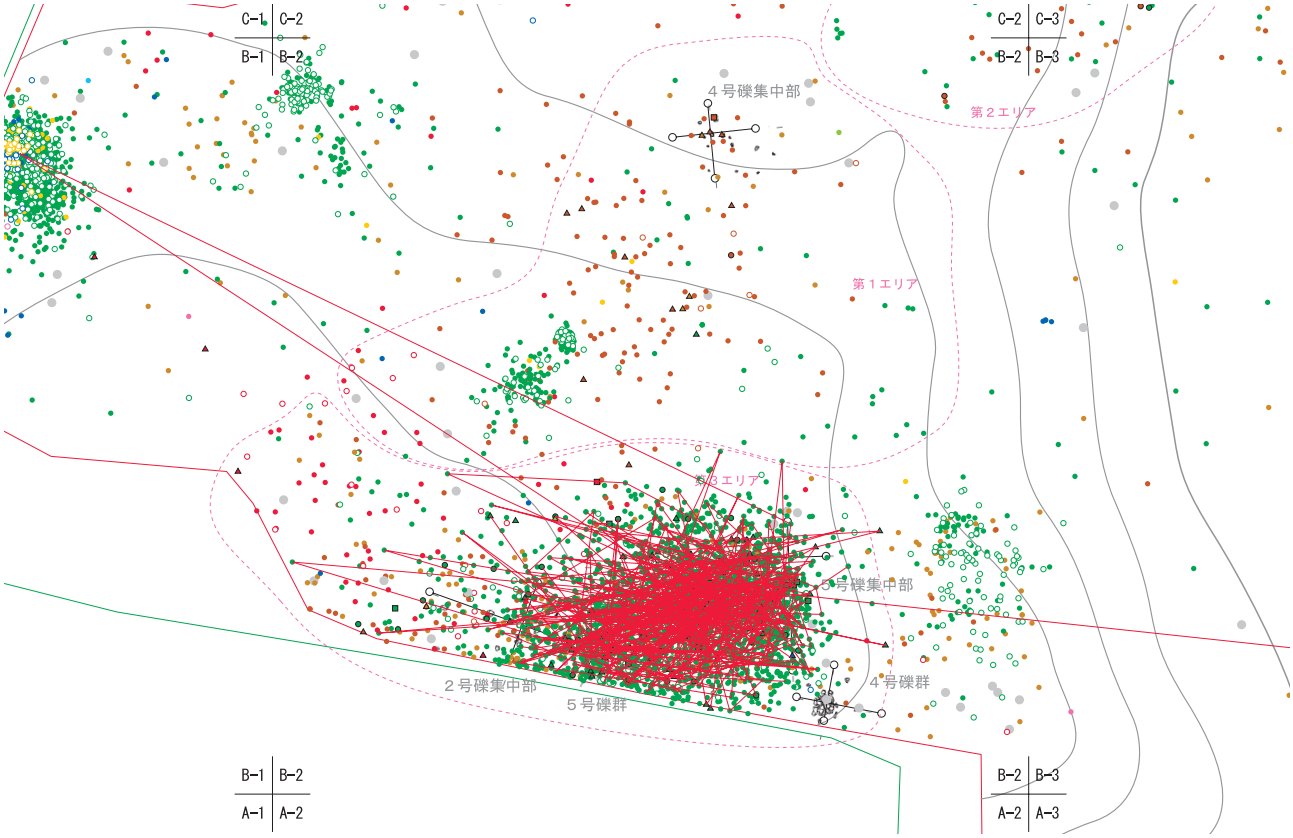
本節ではこれらの接合資料のうち，石器製作技術が理解可能な資料を中心に，29個体を掲載する。資料の記載にあたっては，剥離順等を記号化し，実測図，分布図，観察表等に示した。詳細な記載方法等については，第Ⅲ章第３節を参照されたい。

接合資料No３（第42図～第43図）

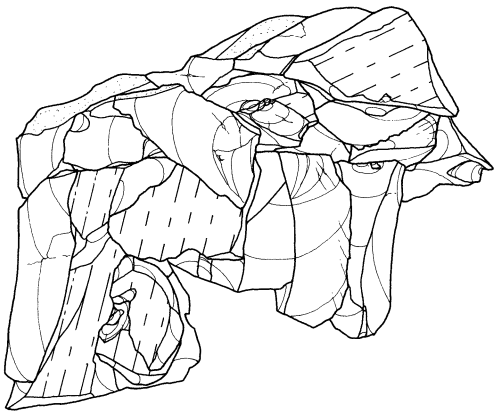
角錐状石器を含む接合資料である。厚さ5cm程の板状に分割された礫を素材とし，大型の幅広剥片を剥離して素材剥片とする。製品はこの幅広剥片を縦に使用し，素材の頭部を基部側に配置して，両側縁から二次加工を施している。二次加工の程度は左右の側縁で異なり，主に正面右側縁の方が変形度が大きい。製品は折損しているが完形状態では主軸長7～8cm程度と比較的大型である。

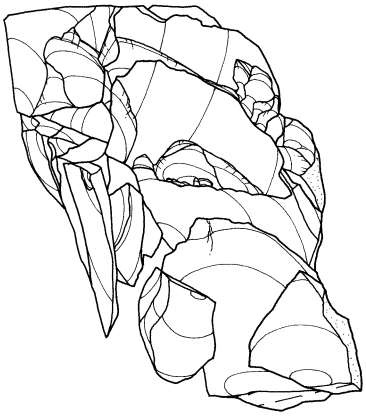
接合資料No４（第44図～第46図）

拳大の角礫を素材として幅広の不定形剥片を剥離し，これを素材として角錐状石器を製作している。素材剥片は幅5cm程度のものが多く，このうち比較的厚手のブロックAB,ブロックDEでは主に素材剥片の端部側から二次加工が施されている。二次加工は製品からみればどちらかの側縁に偏る場合が多く，ブロックAB,ブロックDEの場合，素材の端部側からの変形度が大きい。頭部側の二次加工はブロックABが



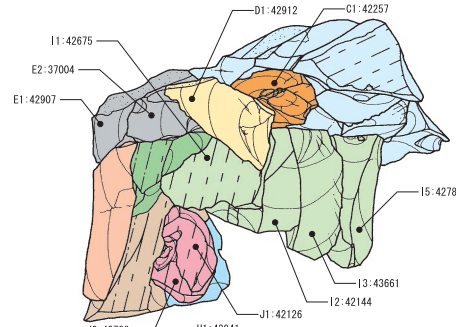
第41図　第Ⅱ文化層石器接合状況図

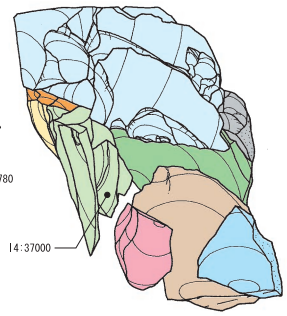


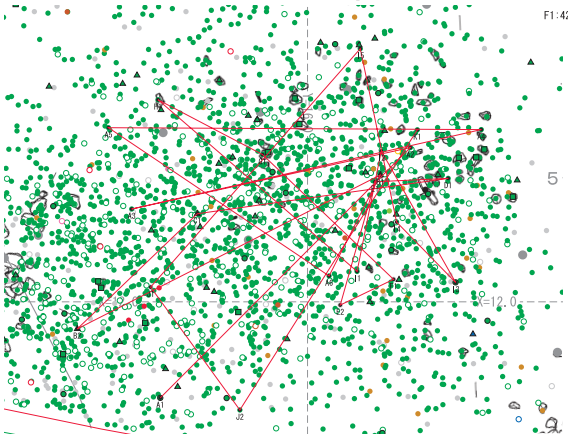


ブロックA

0 (2 : 3) 5cm

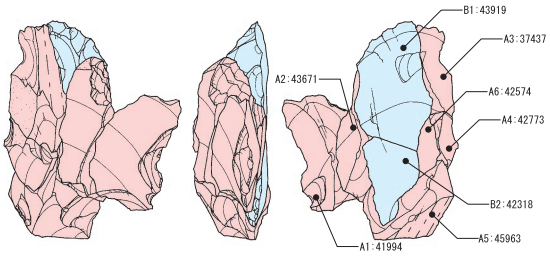


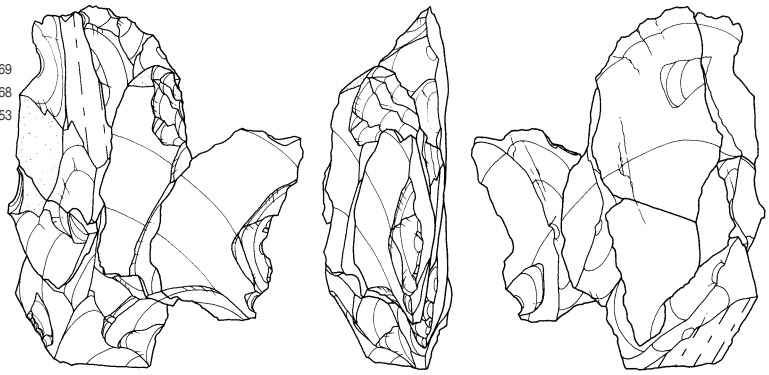




剥離順：[A1→A2→A3→A4→A5→A6→(B1＋B2)]→C1→D1→E1→E2→F1→G1
→H1→I1→I2→(I3＋I4)→I5→[(J1→J2)…(K1)]

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
3	A1	41,994	11.492	15.221	142.618	Ⅸ	微細剥離痕剥片	8.7	第36図97
3	A2	43,671	12.816	16.544	142.587	Ⅹ	剥片	11.8	-
3	A3	37,437	12.491	15.070	142.739	Ⅹ	剥片	8.4	-
3	A4	42,773	12.911	16.919	142.638	Ⅹ	剥片	3.7	-
3	A5	45,963	12.921	14.947	142.459	ⅩⅠ	剥片	16.1	-
3	A6	42,574	12.137	16.114	142.628	Ⅹ	剥片	3.9	-
3	B1	43,919	12.671	16.385	142.545	Ⅹ	角錐状石器	16.2	第33図69
3	B2	42,318	11.857	14.782	142.608	Ⅸ	角錐状石器	4.9	第33図68
3	C1	42,257	12.466	15.417	142.672	Ⅸ	角錐状石器	7.4	第32図53
3	D1	42,912	12.653	16.744	142.603	Ⅹ	剥片	4.3	-
3	E1	42,907	12.635	16.357	142.596	Ⅹ	剥片	33.5	-
3	E2	37,004	11.983	16.173	142.803	Ⅸ	剥片	14.5	-
3	F1	42,149	12.119	16.455	142.715	Ⅸ	剥片	4.4	-
3	G1	46,071	12.779	15.762	142.491	Ⅹ	剥片	26.0	-
3	H1	43,941	13.069	15.209	142.500	Ⅹ	剥片	23.1	-
3	I1	42,675	12.161	16.262	142.613	Ⅹ	剥片	4.8	-
3	I2	42,144	12.798	16.390	142.714	Ⅸ	剥片	5.4	-
3	I3	43,661	12.103	16.783	142.543	Ⅹ	剥片	3.2	-
3	I4	37,000	12.422	16.471	142.798	Ⅸ	剥片	1.7	-
3	I5	42,780	13.339	16.279	142.649	Ⅹ	剥片	3.6	-
3	J1	42,126	12.078	15.170	142.679	Ⅸ	剥片	1.2	-
3	J2	43,738	11.428	15.642	142.526	ⅩⅠ	剥片	2.4	-
3	K1	43,746	12.910	16.581	142.562	Ⅹ	剥片	4.5	-



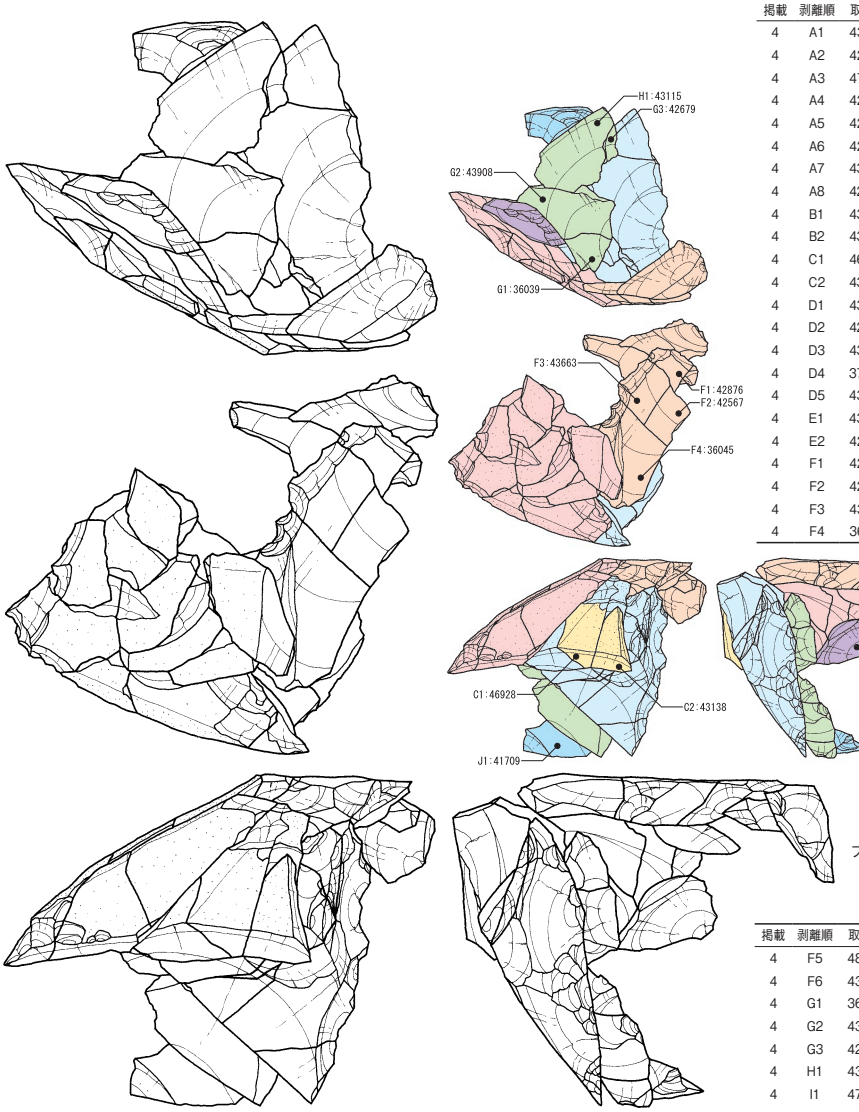


ブロックAB

0 (2 : 3) 5cm

第42図　接合資料No３（１）

第43図　接合資料No３（２）

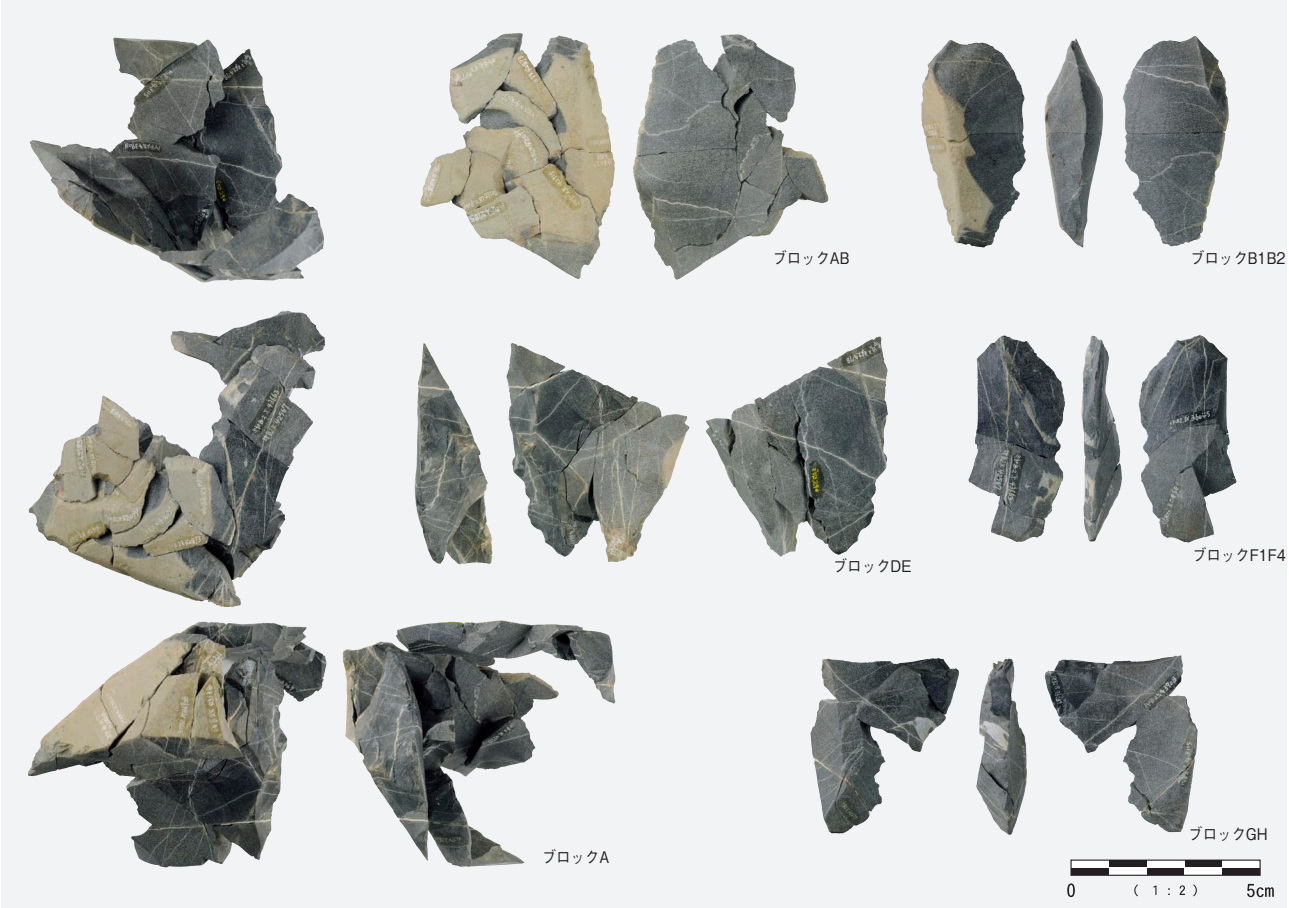


掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
4	A1	43,770	12.189	14.491	142.533	ＸⅠ	剥片	1.9	-
4	A2	42,018	12.026	13.539	142.606	Ⅸ	剥片	0.7	-
4	A3	47,546	13.039	15.556	142.437	ＸⅠ	剥片	1.2	-
4	A4	42,785	13.158	16.917	142.647	Ⅹ	剥片	1.4	-
4	A5	42,914	12.940	16.202	142.627	Ⅹ	剥片	7.1	-
4	A6	42,099	13.823	12.897	142.633	Ⅸ	剥片	2.7	-
4	A7	43,614	13.066	15.942	142.552	Ⅹ	剥片	3.6	-
4	A8	42,893	12.460	15.428	142.608	Ⅹ	剥片	1.2	-
4	B1	43,268	12.424	14.224	142.568	Ⅹ	角錐状石器	10.9	-
4	B2	43,935	12.536	15.744	142.518	Ⅹ	角錐状石器	10.3	-
4	C1	46,928	11.900	16.254	142.468	ＸⅠ	剥片	1.3	-
4	C2	43,138	12.617	16.554	142.600	Ⅹ	剥片	1.1	-
4	D1	43,283	12.988	14.917	142.562	Ⅹ	剥片	2.0	-
4	D2	42,221	13.506	14.340	142.662	Ⅹ	剥片	11.4	-
4	D3	43,909	12.623	16.682	142.569	Ⅹ	剥片	3.7	-
4	D4	37,008	11.569	14.968	142.758	Ⅸ	剥片	2.2	-
4	D5	43,869	12.244	15.380	142.530	ＸⅠ	剥片	0.7	-
4	E1	43,668	13.266	17.181	142.557	Ⅹ	角錐状石器	17.3	第33図62
4	E2	42,478	11.184	15.737	142.603	Ⅹ	角錐状石器	1.1	-
4	F1	42,876	12.876	15.441	142.618	Ⅹ	剥片	1.6	-
4	F2	42,567	11.785	16.143	142.618	Ⅹ	剥片	2.0	-
4	F3	43,663	12.281	16.575	142.544	Ⅹ	剥片	1.6	-
4	F4	36,045	13.535	14.555	142.787	Ⅸ	剥片	6.2	-

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
4	F5	48,369	11.931	14.364	142.346	ＸⅠ	剥片	3.7	-
4	F6	43,875	12.687	15.815	142.534	ＸⅠ	微細剥離痕剥片	2.2	-
4	G1	36,039	12.726	15.310	142.839	Ⅸ	剥片	1.1	-
4	G2	43,908	12.788	16.567	142.554	Ⅹ	剥片	4.8	-
4	G3	42,679	12.455	16.770	142.630	Ⅹ	剥片	0.9	-
4	H1	43,115	12.452	15.723	142.587	Ⅹ	角錐状石器	6.6	-
4	I1	47,577	12.253	16.076	142.437	ＸⅠ	剥片	4.1	-
4	J1	41,709	12.292	13.484	142.646	Ⅹ	剥片	3.1	-

第44図　接合資料No４（１）

第45図　接合資料No４（２）



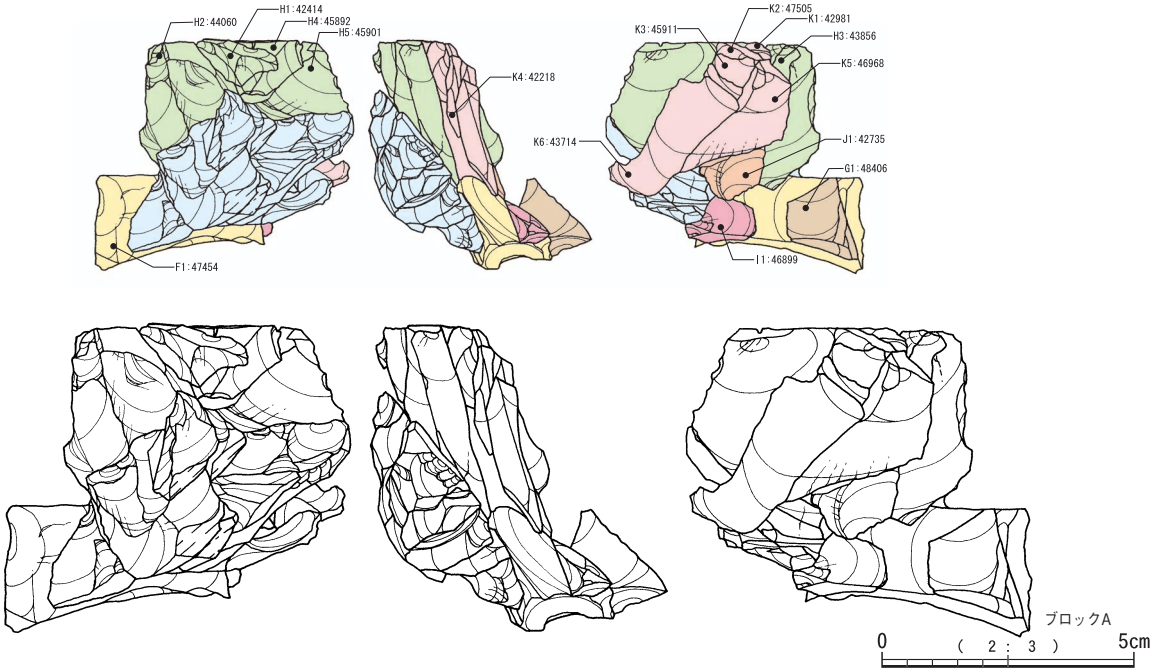
第46図　接合資料No４（３）

ほとんど行われておらず，ブロックDEも打点付近の素材面を簡単に除去する程度で素材の変形度は小さい。

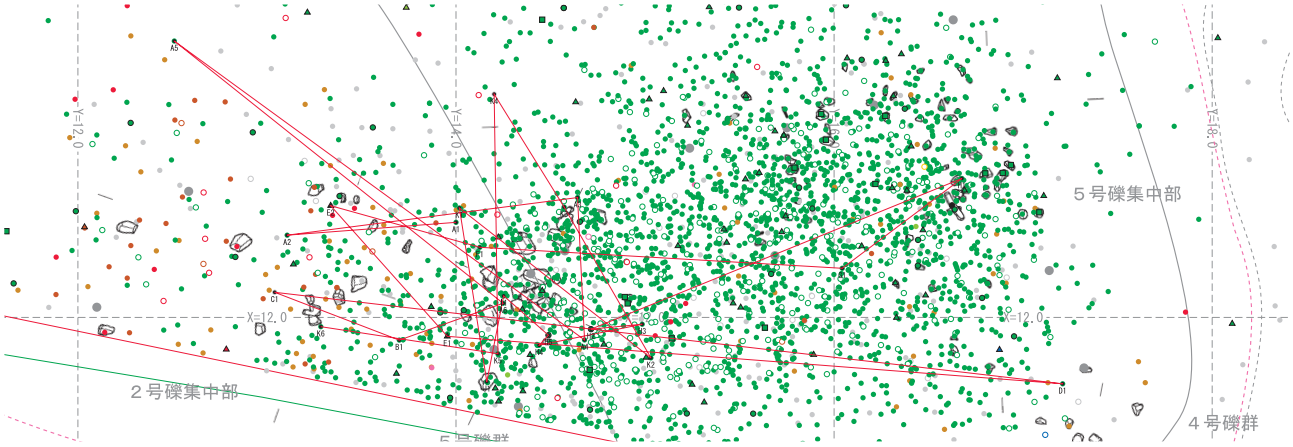
この他，ブロックF1F4,ブロックGHのように，比較的薄手の資料ながら二次加工が加えられている資料がある。特にブロックGHは正面右側縁を中心にある程度二次加工が進んでおりブロックAB,ブロックDE等との関連に注意を要する。

接合資料No５（第47図～第48図）

角錐状石器を含む接合資料である。石核形状は不明であるが，幅5cm程度の不定形剥片を素材として製品を作出している。二次加工段階の接合資料が比較的少ないため詳細は明らかではないが，角錐状石器は素材を横に使用し，両側縁から二次加工を加えている。主軸長は7cm程度の横広の剥片を素



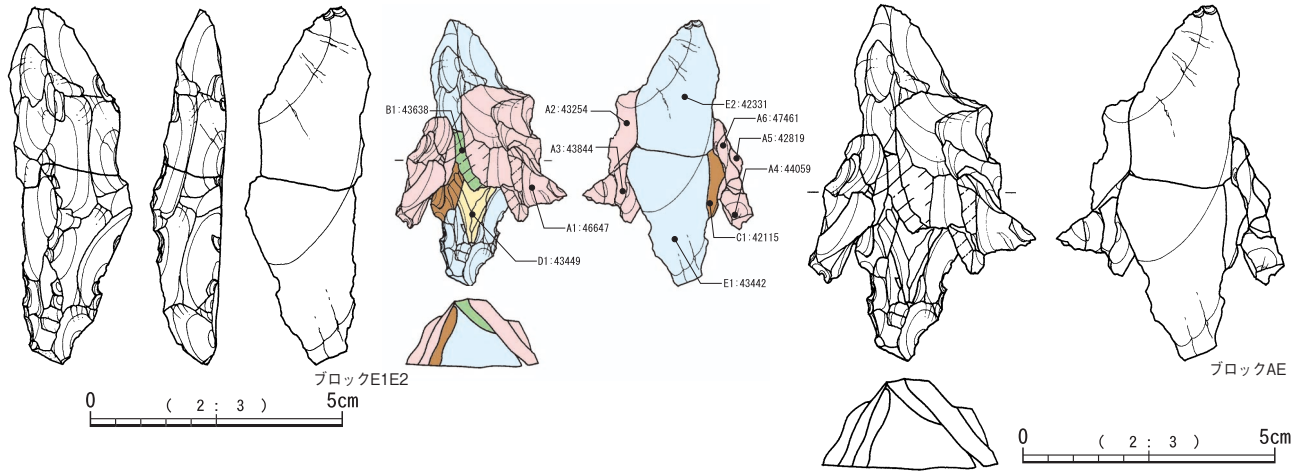
第47図　接合資料No５（１）



剥離順：{[(A1→A2→A3)…(A4→A5→A6)]→B1→C1→D1→(E1＋E2)}→F1→G1→H1→(H2＋H3)→H4→H5→(I1→J1)→K1→(K2＋K3＋K4)→(K5＋K6)

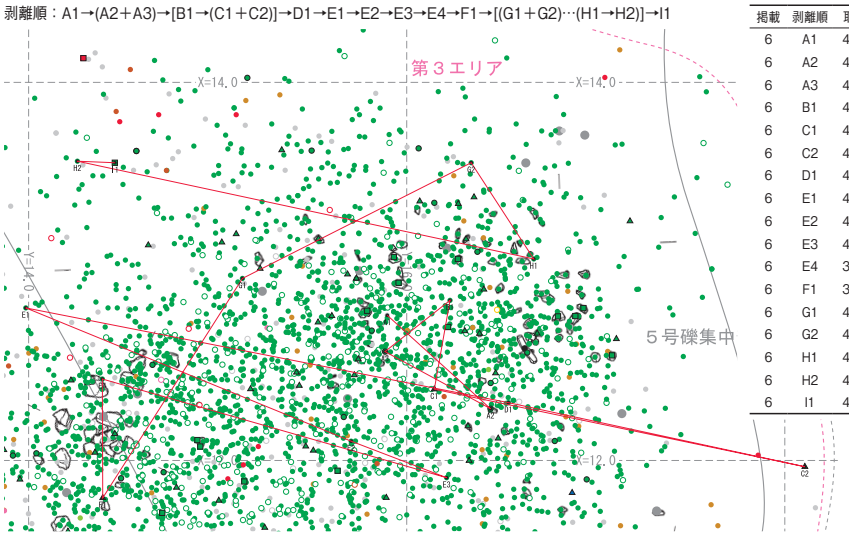
掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
5	A1	46,647	12.503	14.000	142.430	XⅠ	剥片	0.9	-
5	A2	43,254	12.435	13.107	142.420	XⅠ	剥片	5.2	-
5	A3	43,844	12.634	14.643	142.528	XⅠ	剥片	0.8	-
5	A4	44,059	11.881	14.680	142.485	XⅠ	剥片	0.9	-
5	A5	42,819	13.462	12.510	142.488	XⅠ	剥片	0.8	-
5	A6	47,461	12.075	14.249	142.383	XⅠ	剥片	1.6	-
5	B1	43,638	11.880	13.700	142.473	XⅠ	剥片	0.9	-
5	C1	42,115	12.133	13.041	142.539	Ⅸ	剥片	1.8	-
5	D1	43,449	11.649	17.209	142.542	XⅠ	剥片	0.5	-
5	E1	43,442	11.900	13.954	142.533	XⅠ	角錐状石器	10.3	-
5	E2	42,331	12.591	13.337	142.542	X	角錐状石器	8.0	-
5	F1	47,454	12.371	14.126	142.368	XⅠ	剥片	21.9	-
5	G1	48,406	12.260	16.043	142.394	XⅠ	剥片	3.8	-

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
5	H1	42,414	12.735	16.676	142.672	X	剥片	0.8	-
5	H2	44,060	11.938	14.714	142.482	XⅠ	剥片	9.2	-
5	H3	43,856	11.964	14.985	142.523	XⅠ	剥片	0.2	-
5	H4	45,892	11.853	14.440	142.450	XⅠ	剥片	0.9	-
5	H5	45,901	11.906	14.489	142.450	XⅠ	微細剥離痕剥片	15.3	第37図99
5	I1	46,899	12.114	14.252	142.434	XⅠ	剥片	0.9	-
5	J1	42,735	11.660	14.163	142.565	XⅠ	剥片	1.8	-
5	K1	42,981	12.579	14.018	142.586	X	剥片	1.0	-
5	K2	47,505	11.786	15.031	142.416	XⅠ	剥片	0.9	-
5	K3	45,911	12.584	14.572	142.467	XⅠ	剥片	0.1	-
5	K4	42,218	13.181	14.202	142.662	Ⅸ	剥片	0.3	-
5	K5	46,968	11.808	14.222	142.425	XⅠ	剥片	3.1	-
5	K6	43,714	11.951	13.285	142.357	XⅠ	剥片	3.0	-

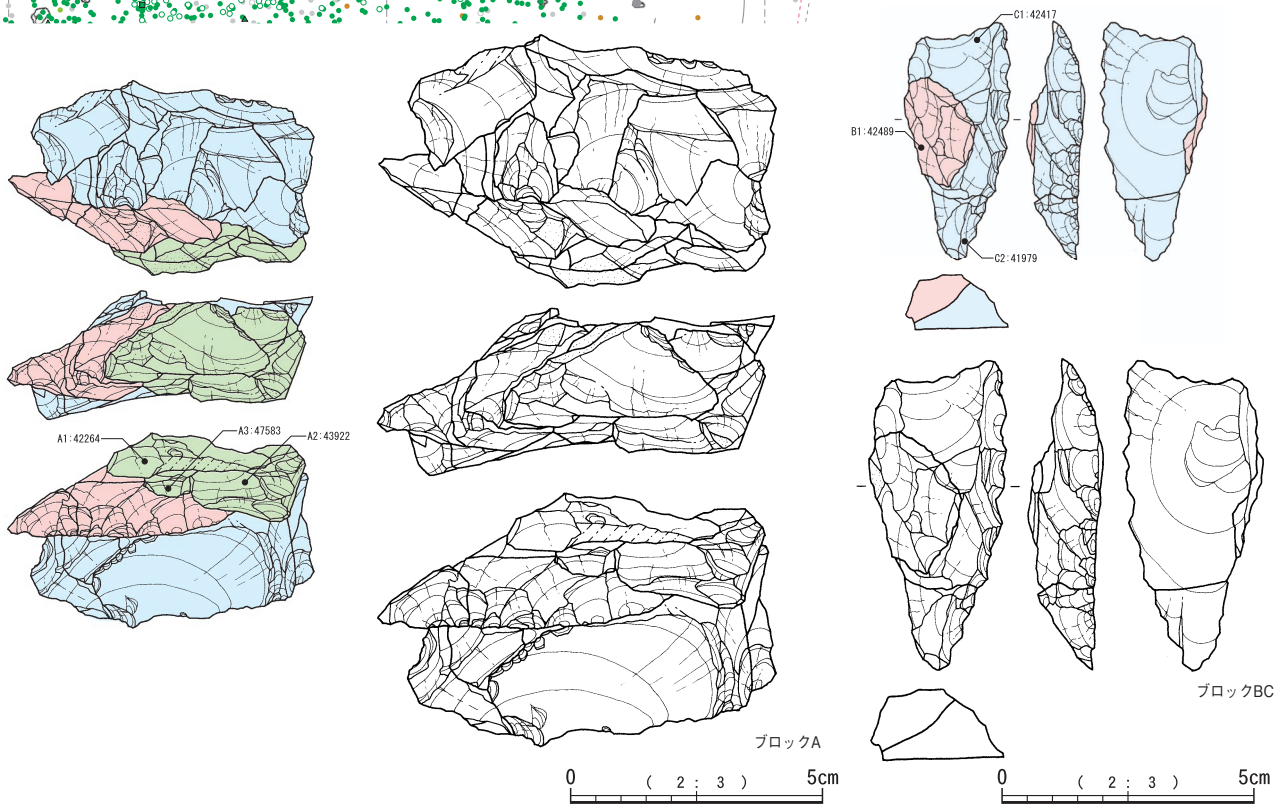


第48図　接合資料No５（２）

剥離順：A1→(A2＋A3)→[B1→(C1＋C2)]→D1→E1→E2→E3→E4→F1→[(G1＋G2)…(H1→H2)]→I1



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
6	A1	42,264	12.768	15.897	142.703	Ⅸ	剥片	4.3	-
6	A2	43,922	12.274	16.443	142.534	Ⅹ	微細剥離痕剥片	5.1	-
6	A3	47,583	12.576	15.885	142.441	ⅩⅠ	微細剥離痕剥片	3.0	-
6	B1	42,489	12.847	16.229	142.650	Ⅹ	剥片	4.2	-
6	C1	42,417	12.377	16.146	142.657	Ⅹ	角錐状石器	14.5	第33図66
6	C2	41,979	11.967	18.106	142.724	Ⅸ	角錐状石器	1.8	第33図67
6	D1	47,439	12.306	16.538	142.462	ⅩⅠ	剥片	8.0	-
6	E1	41,712	12.807	13.985	142.686	Ⅹ	剥片	0.7	-
6	E2	48,187	12.102	15.706	142.408	ⅩⅠ	剥片	0.7	-
6	E3	43,374	11.909	16.211	142.535	Ⅹ	剥片	0.2	-
6	E4	38,468	12.431	14.390	142.698	Ⅹ	剥片	3.1	-
6	F1	38,473	11.802	14.392	142.674	Ⅹ	削器	18.5	第35図81
6	G1	42,362	12.963	15.131	142.666	Ⅹ	剥片	3.1	-
6	G2	42,650	13.575	16.341	142.658	Ⅹ	剥片	2.2	-
6	H1	43,620	13.066	16.672	142.561	Ⅹ	剥片	2.1	-
6	H2	42,355	13.583	14.258	142.661	Ⅹ	剥片	2.8	-
6	I1	42,556	13.575	14.456	142.648	Ⅹ	石核	21.7	第38図112



第49図　接合資料No６（１）

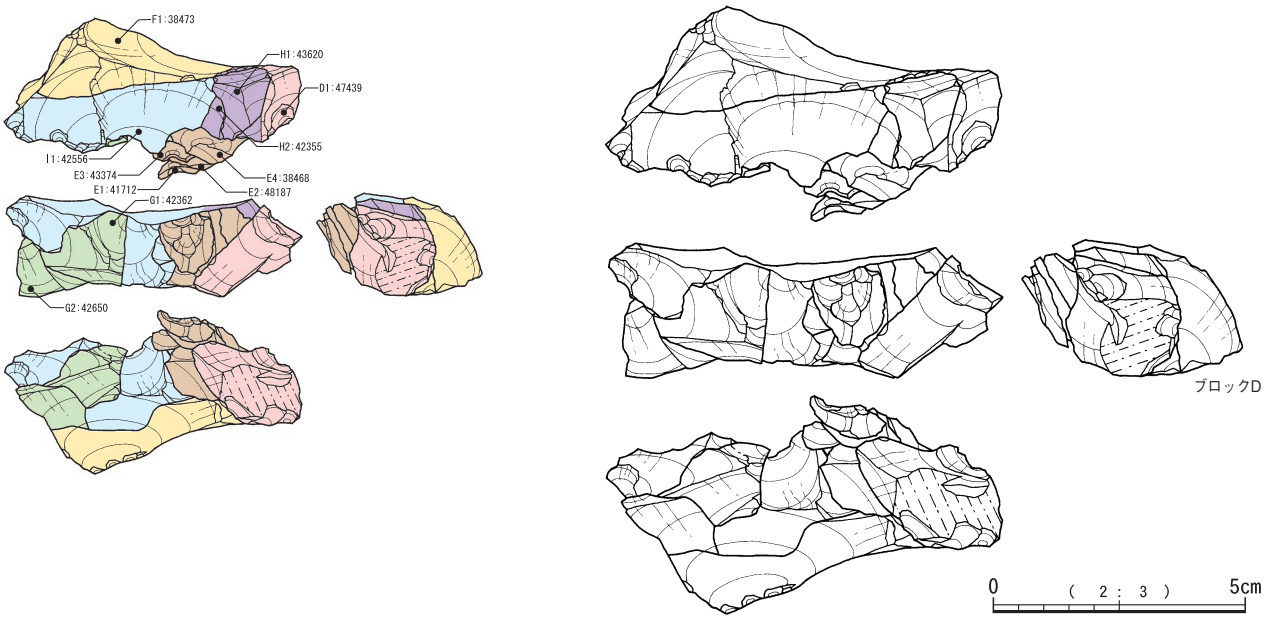
材とし，両側縁に調整剥片が接合する。二次加工段階の接合資料が比較的少ないため二次加工の詳細については不明である。この他，角錐状石器とは別に，微細剥離痕剥片等も接合している。微細剥離痕剥片は2点含まれ，いずれも主軸長4cm～5cm程度のやや薄手の素材を使用している。いずれも削器的な機能が想定される。

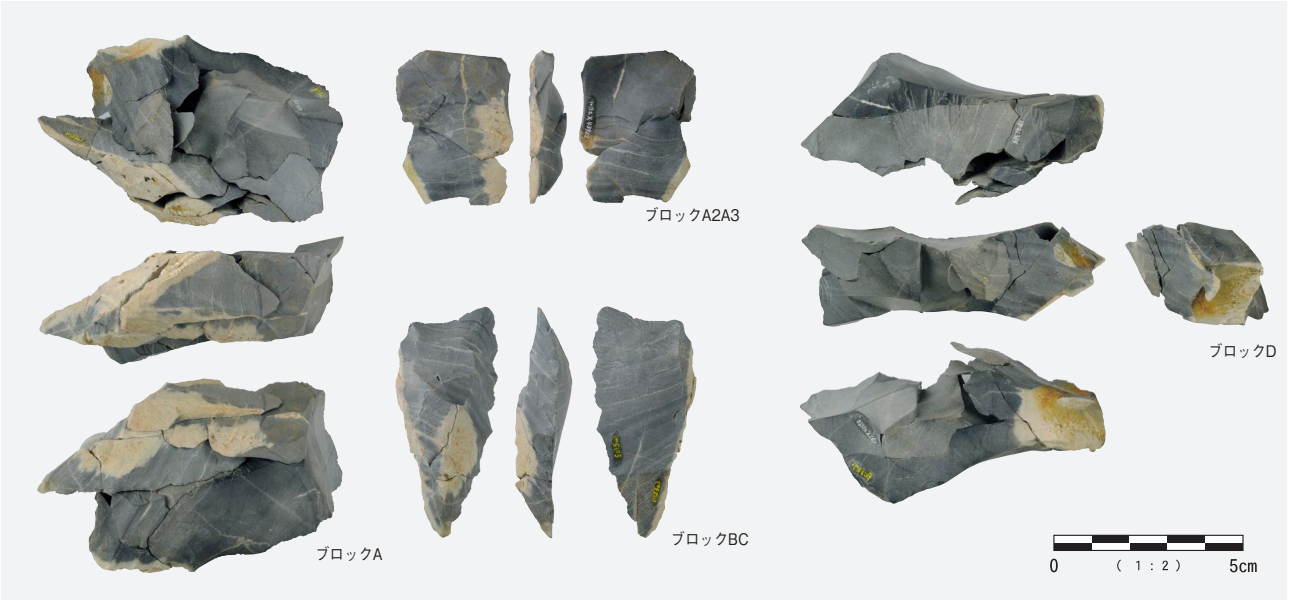
接合資料No６（第49図～第50図）

角錐状石器と微細剥離痕剥片を含む接合資料である。BCは角錐状石器で幅6cm程の石核から横広の素材剥片を剥離し，これに主に尾部側から二次加工を加えて製品としている。製品の基部側には素材の縁辺が残されており正面形は二等辺三角形状を呈するが，先端部の二次加工の特徴等から角錐状石器に区分した。素材剥片が剥離された石核は，その後も剥離が進行し，ほぼ極限に近い状態まで剥離が進行した後放棄されている。この段階で生産された剥片については用途不明である。

接合資料No７（第51図～第52図）

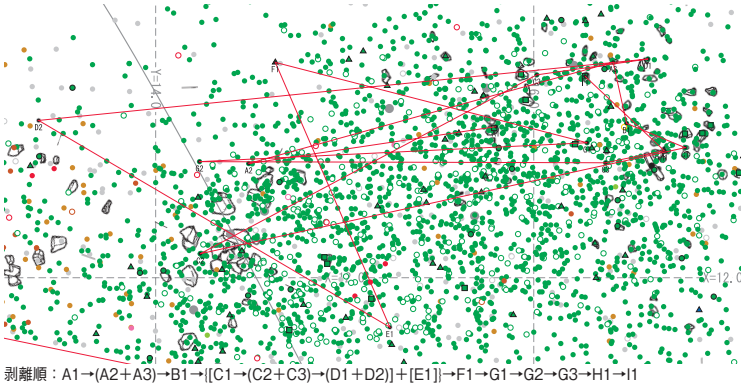
小型の角錐状石器と微細剥離痕剥片を含む接合資料である。径7～8cmの拳大の角礫を素材とし，頻繁に打面転回しながら素材剥片の生産を行っている。角錐状石器は主軸長3cm程度で製品のみの状態で石核に接合している。角錐状石器は素材剥片を横向きに使用し，頭部と尾部方向から二次加工が施されている。幅は大きく変化しているものの，主軸長は素材剥片の幅と比べてさほど変化していない。微細剥離痕剥片は主軸長5cm程度の薄手の剥片の破片を利用している。





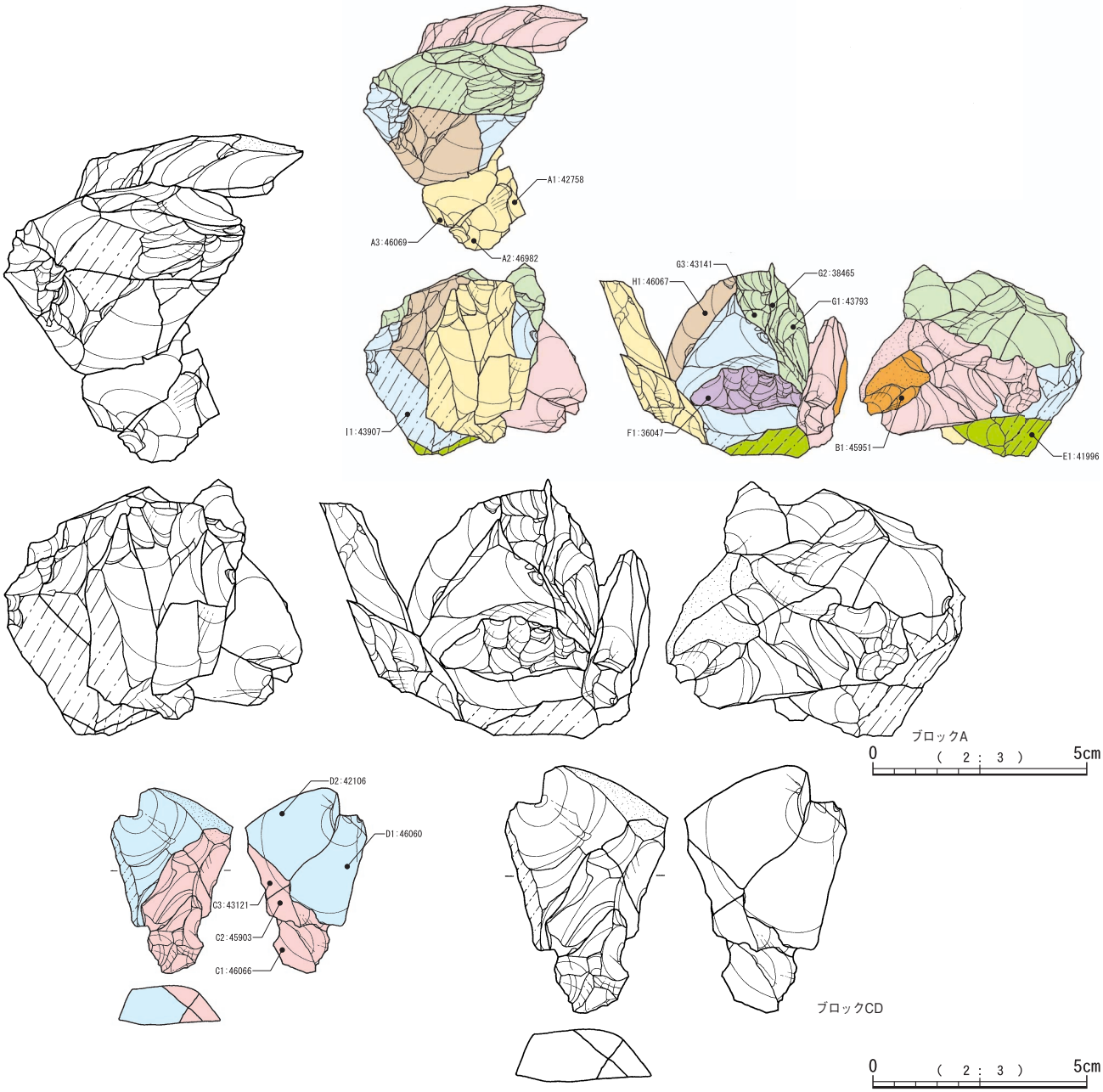
第50図　接合資料No６（２）

第51図　接合資料No７（１）



剥離順：A1→(A2＋A3)→B1→{[C1→(C2＋C3)→(D1＋D2)]＋[E1]}→F1→G1→G2→G3→H1→I1

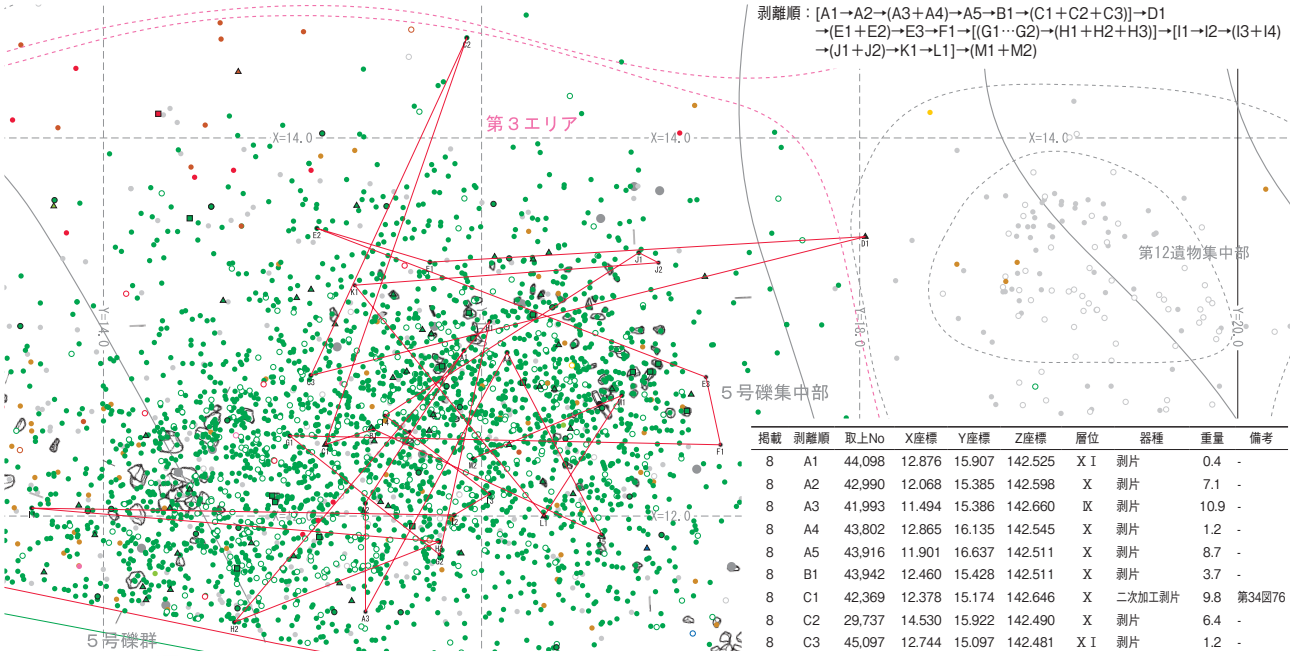
掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
7	A1	42,758	12.799	15.800	142.635	X	剥片	3.8	-
7	A2	46,982	12.604	14.492	142.426	XⅠ	剥片	4.6	-
7	A3	46,069	13.140	16.420	142.516	X	剥片	11.7	-
7	B1	45,951	12.816	16.491	142.516	XⅠ	剥片	1.1	-
7	C1	46,066	12.688	16.801	142.521	X	剥片	2.9	-
7	C2	45,903	12.127	14.236	142.447	XⅠ	剥片	3.6	-
7	C3	43,121	13.073	16.016	142.605	X	剥片	1.6	-
7	D1	46,060	13.157	16.604	142.517	X	剥片	5.5	-
7	D2	42,106	12.832	13.381	142.574	Ⅸ	剥片	8.8	-
7	E1	41,996	11.738	15.239	142.644	Ⅸ	剥片	8.2	-
7	F1	36,047	13.139	14.633	142.772	Ⅸ	角錐状石器	4.9	第32図50
7	G1	43,793	12.714	16.282	142.541	X	剥片	6.4	-
7	G2	38,465	12.614	14.232	142.690	X	剥片	3.8	-
7	G3	43,141	12.608	16.380	142.580	X	剥片	18.5	-
7	H1	46,067	12.672	16.690	142.497	X	剥片	12.0	-
7	I1	43,907	13.066	16.271	142.573	X	石核	78.6	第38図117



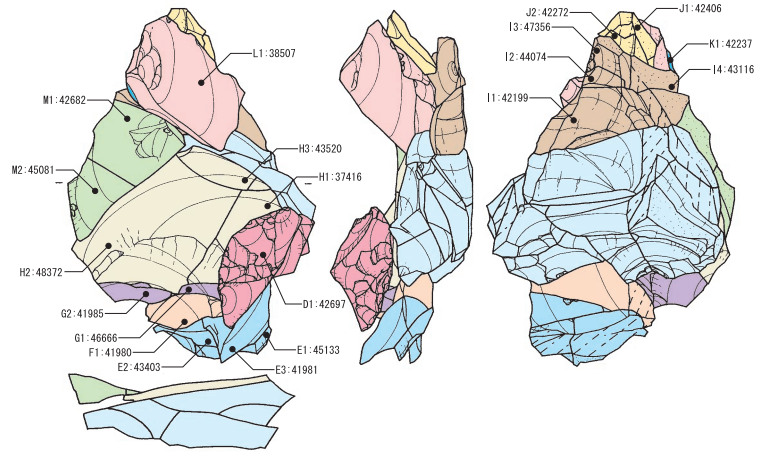
第52図　接合資料No７（２）

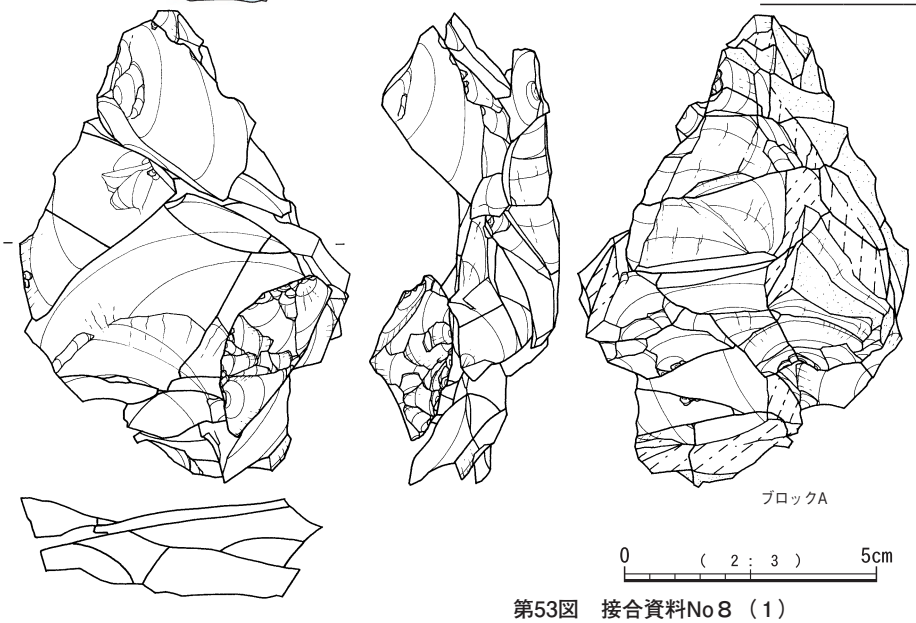
接合資料No８（第53図～第54図）

小型の角錐状石器と削器を含む接合資料である。石核は含まないものの，素材剥片剥離段階の剥片が多く接合している。素材剥片は幅4～7cm程度のものが多い。角錐状石器は主軸長3cm前後の比較的小型の資料が接合している。この他，削器が接合している。削器は角錐状石器の未製品の可能性もある。



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
8	A1	44,098	12.876	15.907	142.525	XⅠ	剥片	0.4	-
8	A2	42,990	12.068	15.385	142.598	Ⅹ	剥片	7.1	-
8	A3	41,993	11.494	15.386	142.660	Ⅸ	剥片	10.9	-
8	A4	43,802	12.865	16.135	142.545	Ⅹ	剥片	1.2	-
8	A5	43,916	11.901	16.637	142.511	Ⅹ	剥片	8.7	-
8	B1	43,942	12.460	15.428	142.511	Ⅹ	剥片	3.7	-
8	C1	42,369	12.378	15.174	142.646	Ⅹ	二次加工剥片	9.8	第34図76
8	C2	29,737	14.530	15.922	142.490	Ⅹ	剥片	6.4	-
8	C3	45,097	12.744	15.097	142.481	XⅠ	剥片	1.2	-
8	D1	42,697	13.478	18.030	142.744	Ⅹ	角錐状石器	6.1	第32図51
8	E1	45,133	13.343	15.727	142.489	XⅠ	剥片	0.5	-
8	E2	43,403	13.522	15.129	142.526	Ⅹ	剥片	1.2	-
8	E3	41,981	12.735	17.187	142.733	Ⅸ	剥片	1.9	-
8	F1	41,980	12.377	17.264	142.731	Ⅸ	剥片	4.4	-
8	G1	46,666	12.425	14.985	142.458	XⅠ	剥片	1.0	-
8	G2	41,985	11.796	15.778	142.678	Ⅸ	剥片	2.1	-
8	H1	37,416	13.030	16.043	142.797	Ⅹ	剥片	6.1	-
8	H2	48,372	11.439	14.693	142.353	XⅠ	剥片	14.0	-
8	H3	43,520	11.864	15.776	142.553	XⅠ	剥片	0.5	-
8	I1	42,199	12.042	13.621	142.570	Ⅹ	剥片	7.2	-
8	I2	44,074	12.005	15.855	142.506	XⅠ	剥片	0.2	-
8	I3	47,356	12.117	16.043	142.450	XⅠ	剥片	0.9	-
8	I4	43,116	12.532	15.489	142.591	Ⅹ	剥片	0.8	-
8	J1	42,406	13.393	16.832	142.713	Ⅹ	剥片	0.8	-
8	J2	42,272	13.340	16.936	142.731	Ⅸ	剥片	0.5	-
8	K1	42,237	13.221	15.329	142.694	Ⅸ	剥片	0.5	-
8	L1	38,507	11.999	16.330	142.737	Ⅹ	二次加工剥片	12.7	第34図77
8	M1	42,682	12.638	16.742	142.649	Ⅹ	剥片	4.4	-
8	M2	45,081	12.304	15.954	142.495	XⅠ	剥片	1.6	-



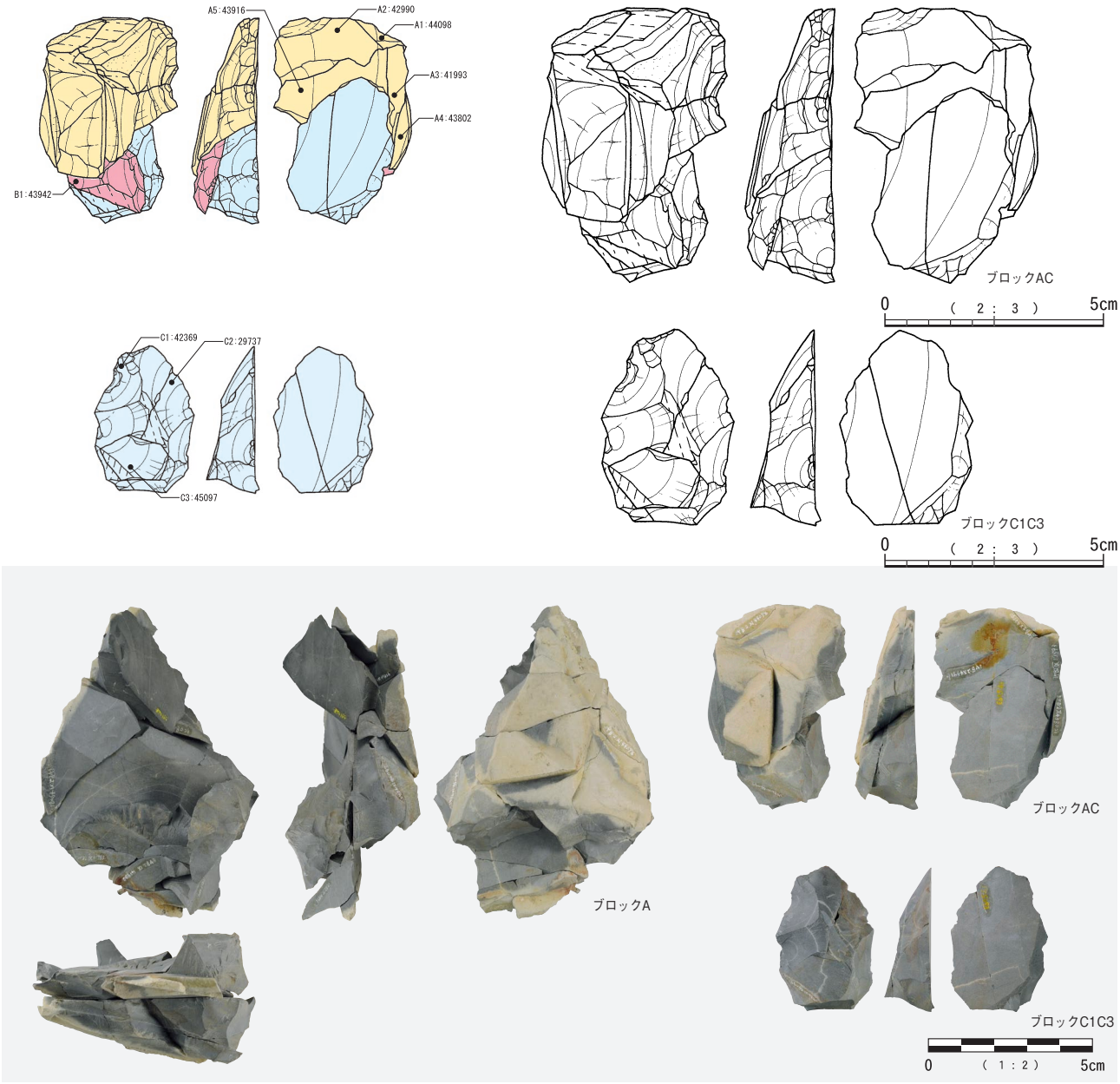


第53図　接合資料No８（１）

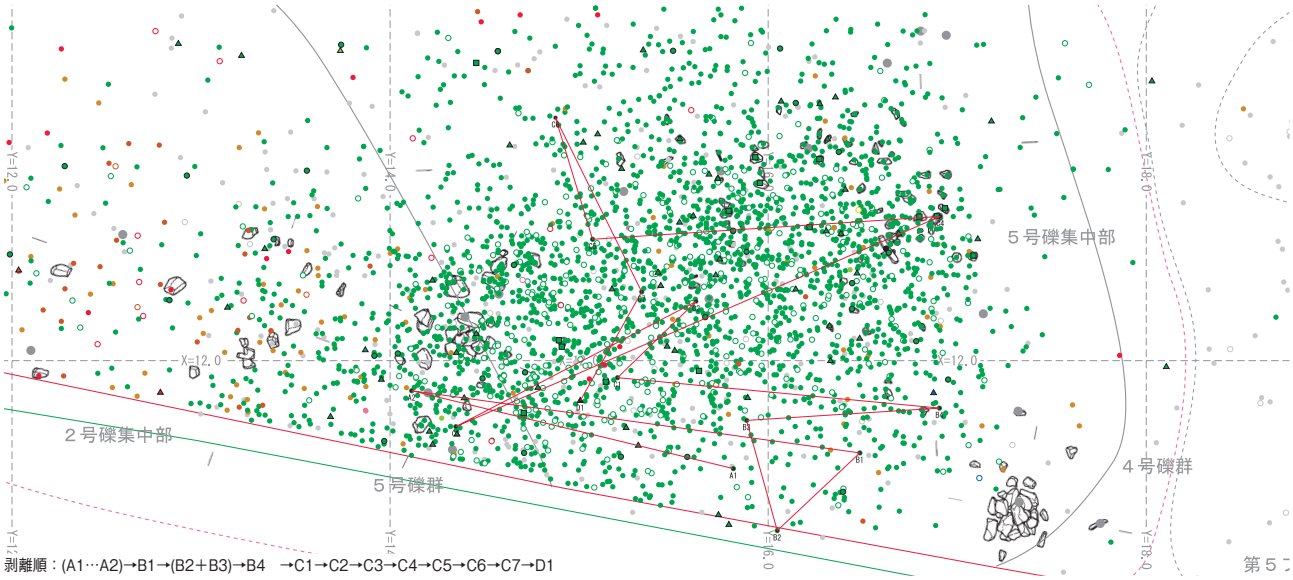
接合資料No９（第55図～第56図）

角錐状石器のリダクション資料と見られる資料である。幅8cm程度の厚手の横広剥片を素材とし，素材剥片の頭部方向から比較的やや大きめの剥離によって順次剥離を進めている。途中で数回の打面転移を行いながらも，最終的には素材の主要剥離面側から剥離を進行させている。

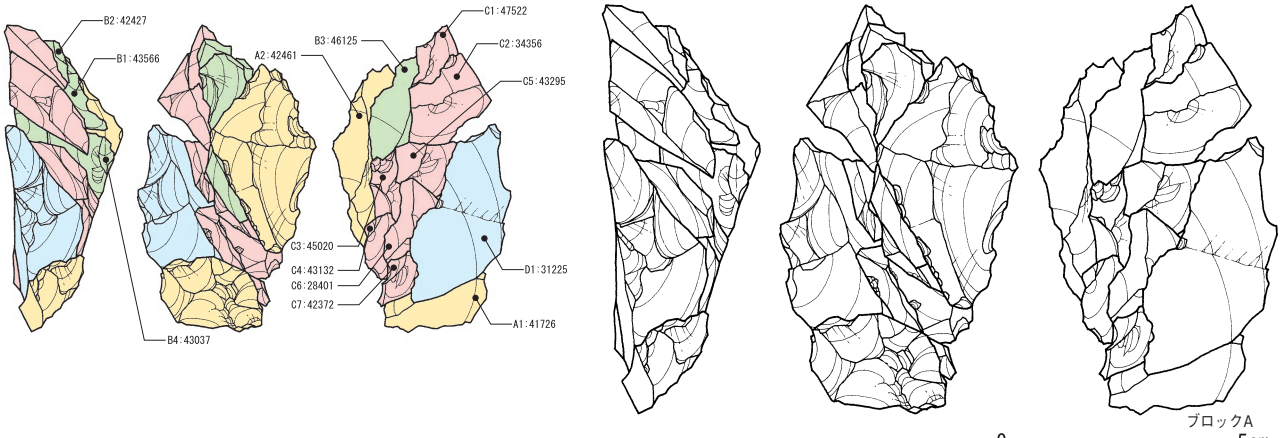
剥離のサイズが比較的大きく，最終製品にも細かい調整剥離があまり観察されないため，石核接合資料の可能性も考え



第54図　接合資料No８（２）

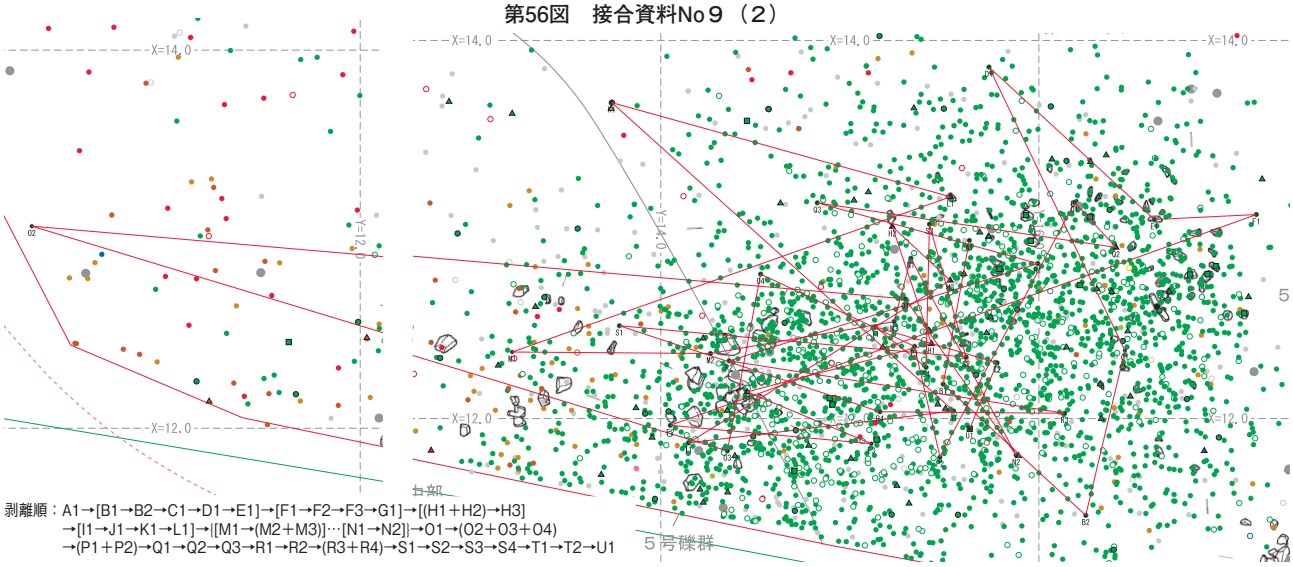


第55図　接合資料No９（１）



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
9	A1	41,726	11.429	15.816	142.701	X	剥片	5.0	-
9	A2	42,461	11.841	14.114	142.589	X	剥片	17.3	-
9	B1	43,566	11.512	16.485	142.531	XI	剥片	1.6	-
9	B2	42,427	11.101	16.048	142.676	X	剥片	1.0	-
9	B3	46,125	11.684	15.886	142.473	XI	剥片	3.0	-
9	B4	43,037	11.749	16.906	142.608	X	剥片	1.9	-
9	C1	47,522	11.910	15.203	142.434	XI	剥片	1.8	-
9	C2	34,356	12.313	15.619	142.913	IX	剥片	6.2	-
9	C3	45,020	11.651	14.348	142.480	XI	剥片	4.7	-
9	C4	43,132	12.763	16.910	142.599	X	剥片	1.9	-
9	C5	43,295	12.642	15.071	142.568	X	剥片	2.8	-
9	C6	28,401	13.285	14.875	143.102	IX	剥片	5.3	-
9	C7	42,372	12.364	15.331	142.649	X	剥片	0.8	-
9	D1	31,225	11.788	15.006	142.923	IX	角錐状石器	13.5	第33図63

第56図　接合資料No９（２）



第57図　接合資料No10（１）

られるが，稜上に観察される稜上調整様の剥離から角錐状石器の関連資料と判断した。なお最終製品は主軸長5cm程度で放棄されているが，細かい調整剥離はあまり観察されない。

接合資料No10（第57図～第61図）

最大径20cm程度の扁平な角礫から横広の剥片を剥離し，これを素材として角錐状石器等を製作する資料である。

素材剥片の剥離は，当初は石核素材の形状を生かしながら交互剥離，もしくは適宜打点を移動させながら幅8cm程度の横広剥片を剥離し，適切な打面と作業面角度が確保された段階で打面をやや固定化して連続的な剥離を指向する。

製品は主軸長7cm程度の角錐状石器(ブロックFG),二次加工剥片(ブロックH1H2,ブロックIL)などがある。二次加工剥片を含むブロックILについては，二次加工の途中で欠損しているものの二次加工がかなり進行しており，角錐状石器製作を目的とする調整が行われた可能性がある。

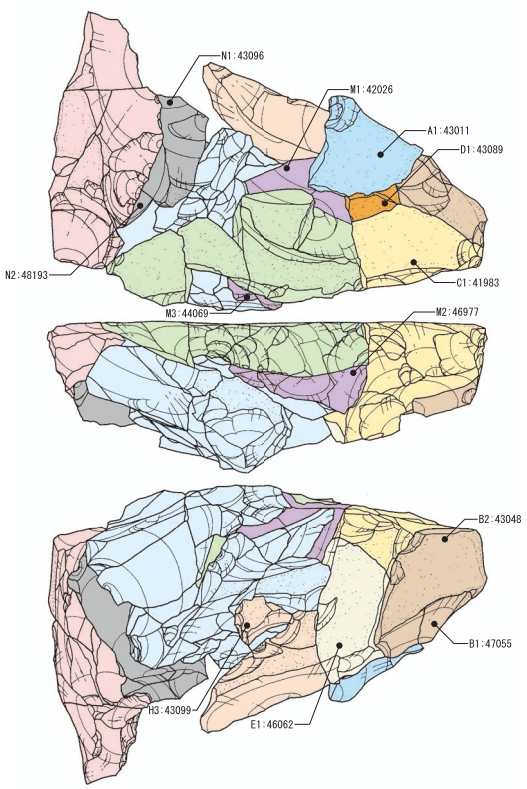
最終段階のT以降のブロックについては，この剥離自体が素材剥片の生産を目的とするものか，角錐状石器の製作を意図したものなのか容易に判断できない。しかし，Tブロック左側面を中心に細かな剥離が施される部分があるため，最終的には角錐状石器に転用された可能性がある。

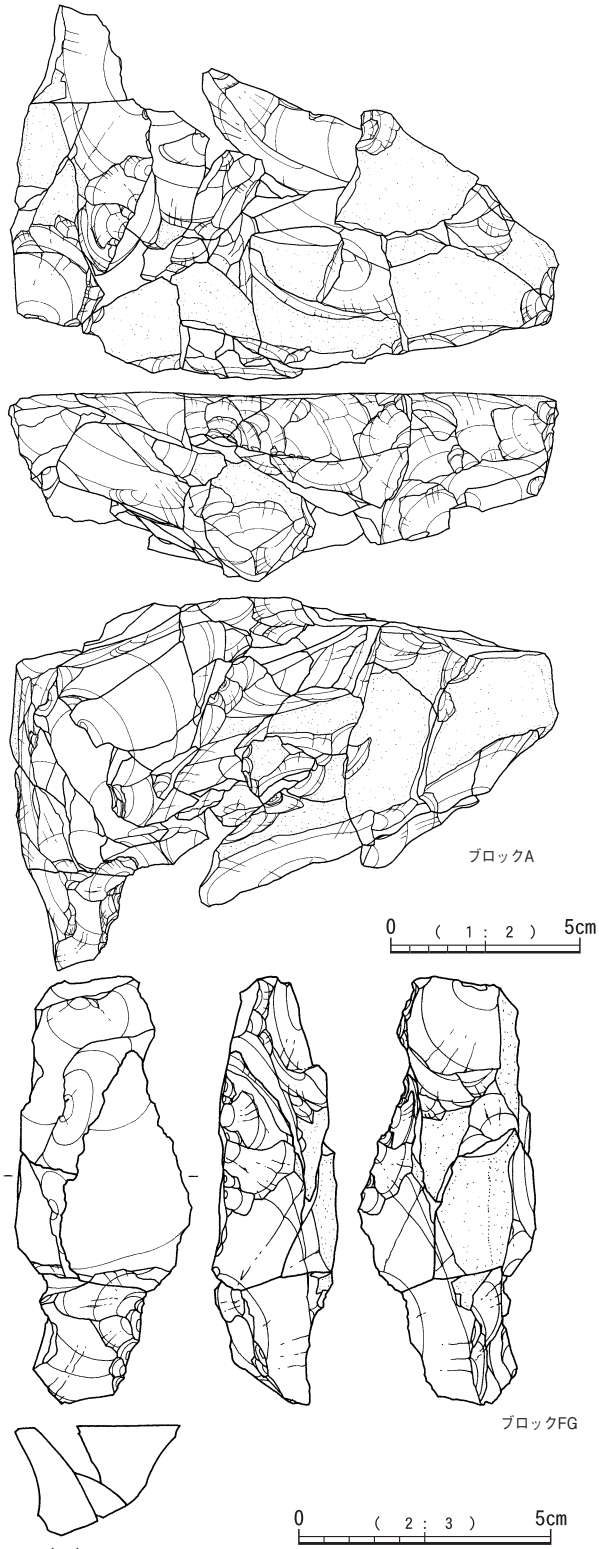
接合資料No11（第62図～第64図）

最大径15cm程度の角礫を素材として，剥片剥離を行って

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
10	A1	43,011	12.942	15.632	142.606	Ⅹ	剥片	11.1	-
10	B1	47,055	12.182	15.494	142.468	ⅩⅠ	剥片	1.6	-
10	B2	43,048	11.488	16.248	142.576	Ⅹ	剥片	29.4	-
10	C1	41,983	12.360	16.455	142.719	Ⅸ	剥片	47.0	-
10	D1	43,089	13.859	15.736	142.624	Ⅹ	剥片	2.9	-
10	E1	46,062	13.053	16.611	142.514	Ⅹ	剥片	27.1	-
10	F1	42,787	13.079	17.150	142.644	Ⅹ	剥片	11.1	-
10	F2	44,048	11.964	14.050	142.505	ⅩⅠ	剥片	12.7	-
10	F3	41,998	11.867	15.114	142.659	Ⅸ	剥片	17.6	-
10	G1	43,266	12.141	14.456	142.561	Ⅹ	角錐状石器	15.7	第33図61
10	H1	43,385	12.396	15.432	142.530	Ⅹ	角錐状石器	21.3	-
10	H2	45,957	13.015	15.225	142.481	ⅩⅠ	削器	1.5	-
10	H3	43,099	12.731	15.531	142.591	Ⅹ	削器	1.7	-
10	I1	46,730	11.871	14.146	142.422	ⅩⅠ	剥片	2.6	-
10	J1	42,927	12.040	15.549	142.612	Ⅹ	剥片	7.5	-
10	K1	42,031	13.671	13.741	142.688	Ⅸ	調整剥片	4.7	第37図100
10	L1	43,939	13.173	15.533	142.499	Ⅹ	角錐状石器	31.7	-

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
10	M1	42,026	12.352	13.214	142.598	Ⅸ	剥片	5.0	-
10	M2	46,977	12.344	14.263	142.413	ⅩⅠ	剥片	14.3	-
10	M3	44,069	12.513	15.234	142.491	ⅩⅠ	剥片	6.4	-
10	N1	43,096	12.848	15.323	142.588	Ⅹ	剥片	13.9	-
10	N2	48,193	11.806	15.880	142.418	ⅩⅠ	剥片	11.2	-

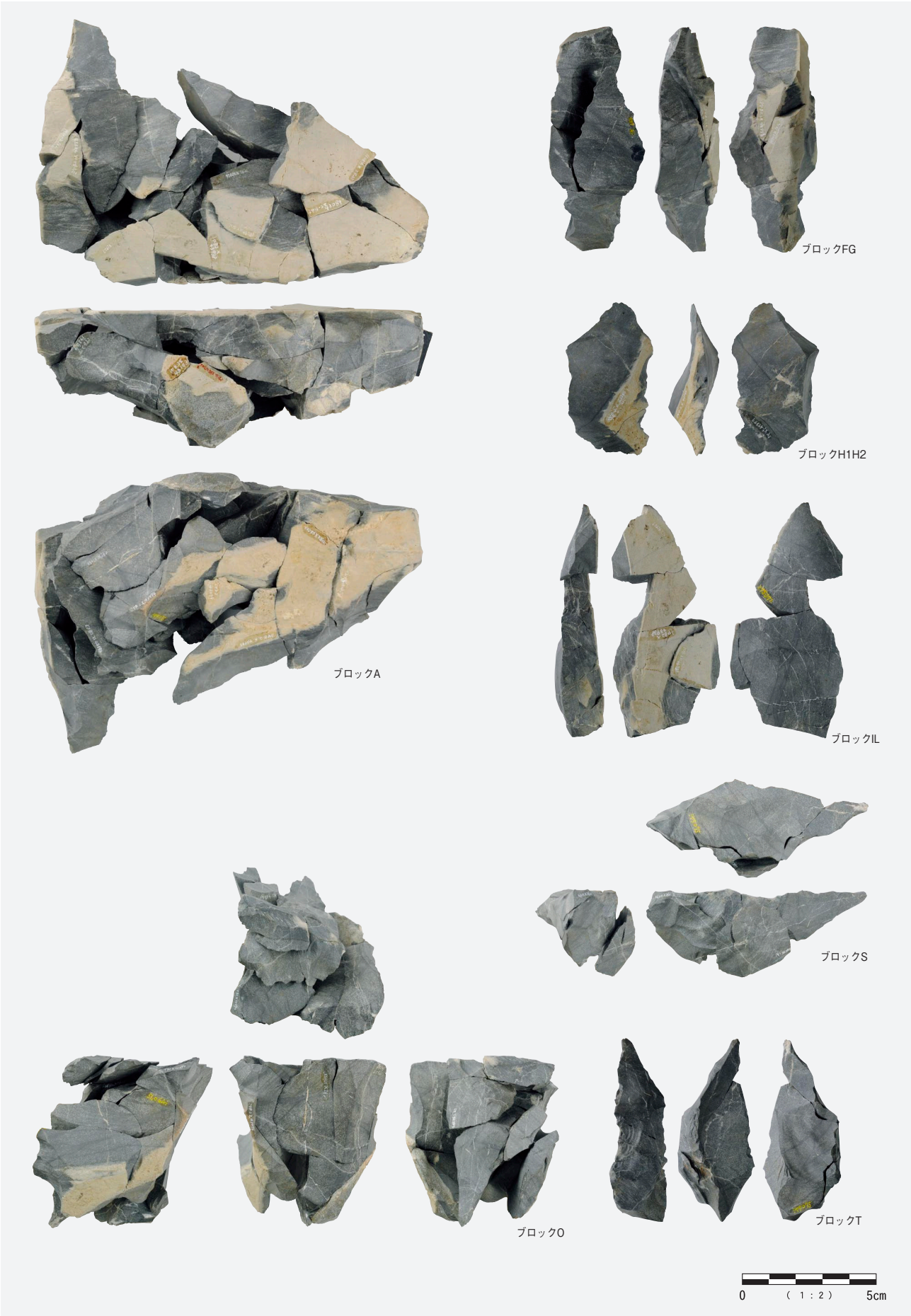




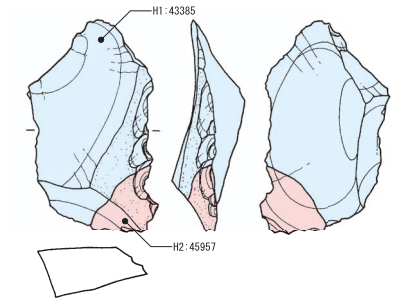
第58図　接合資料No10（2）

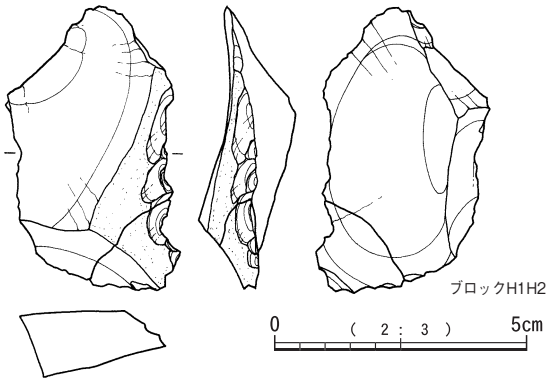
いる。周縁部をやや大きめの剥離によって整形した後，打面展開を繰り返しながら幅4cm程度の剥片を剥離している。

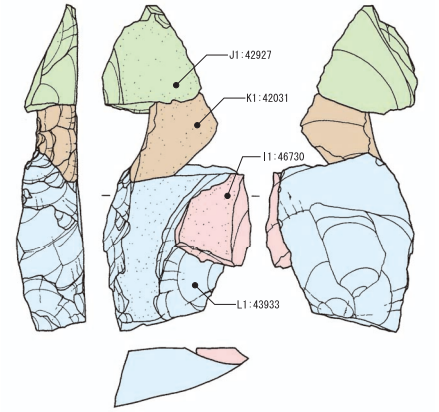
剥片の一部には二次加工が加えられ，削器等が製作されている。計画的に横長の剥片を生産しようとした痕跡は見受けられないものの，剥離がある程度進行すると石核は尖頭器状を呈する。その先端部付近に細かい調整剥離が観察されるため，最終的には角錐状石器に転用されている可能性が高い。

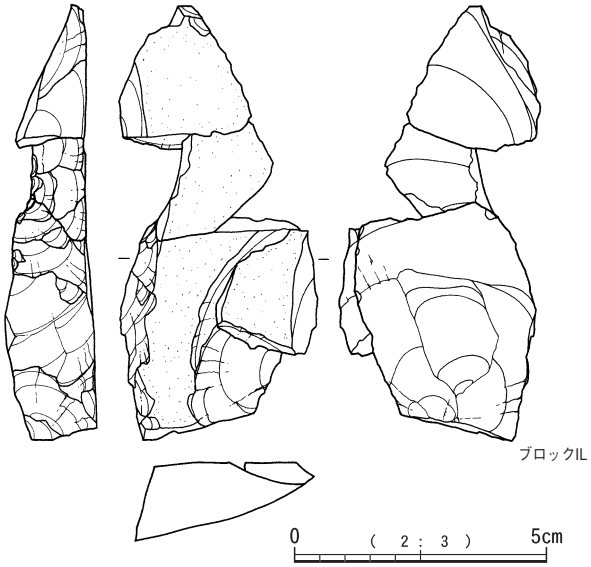


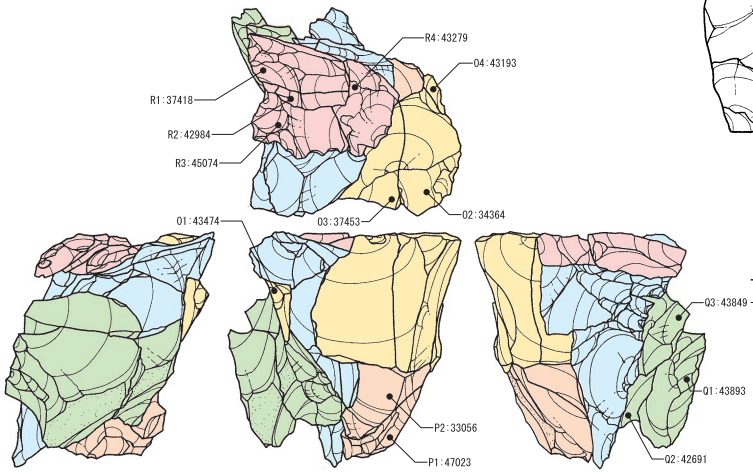
第59図　接合資料No10（３）



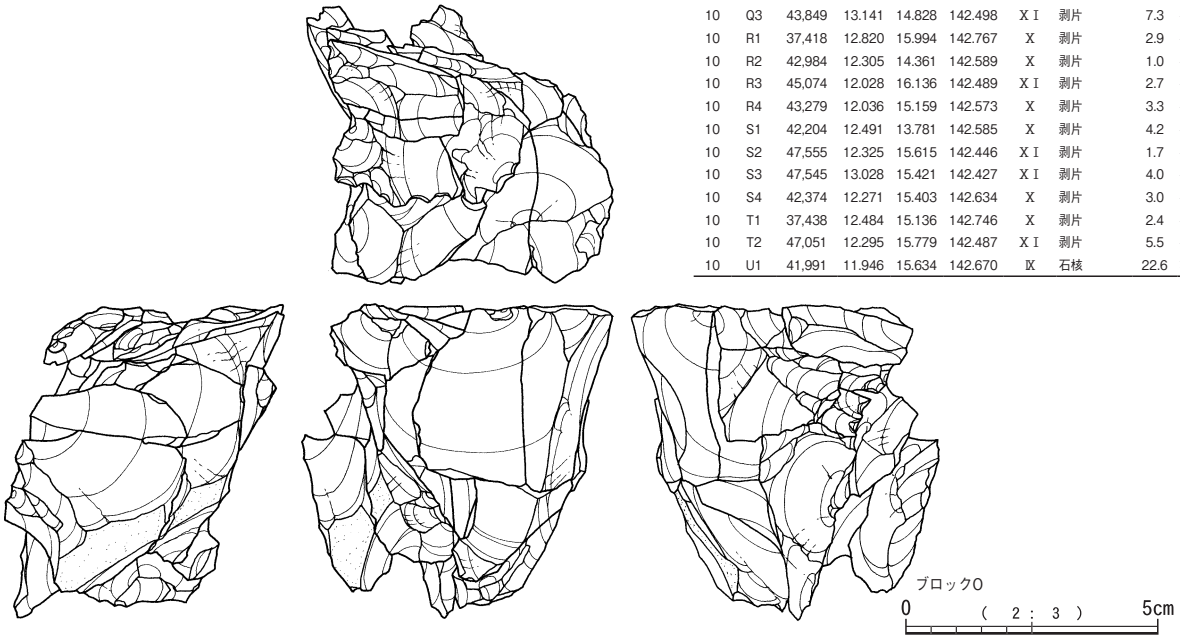




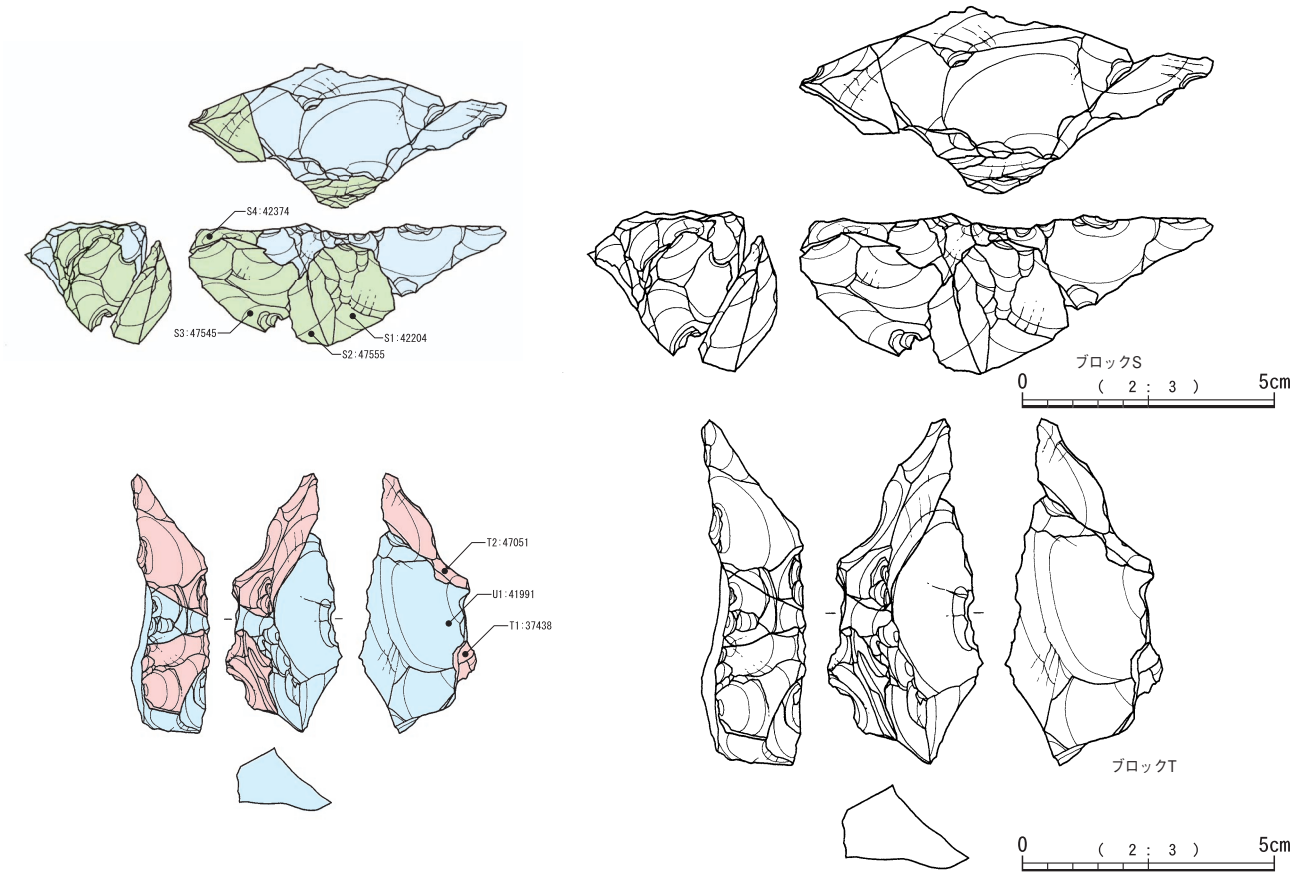




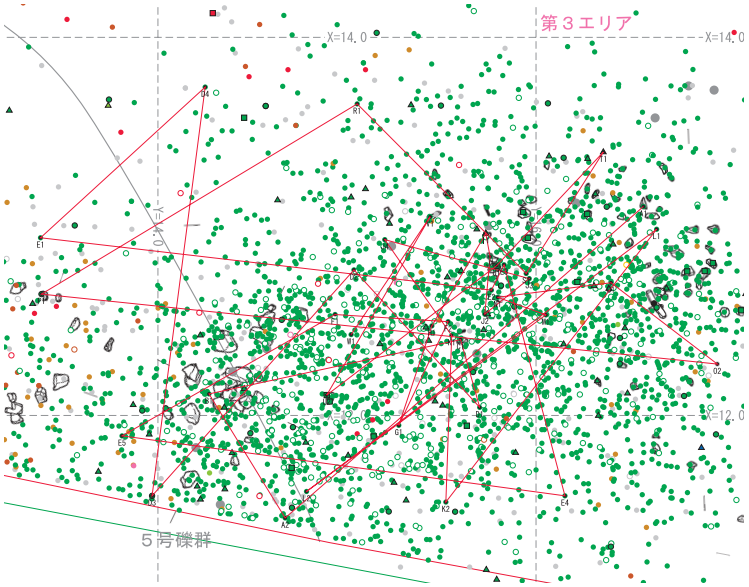
掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
10	O1	43,474	12.633	15.293	142.555	X	剥片	0.4	-
10	O2	34,364	13.069	10.263	142.700	Ⅸ	剥片	15.4	-
10	O3	37,453	11.829	14.352	142.708	X	剥片	16.1	-
10	O4	43,193	12.764	14.528	142.572	X	剥片	0.8	-
10	P1	47,023	12.382	15.342	142.474	XⅠ	剥片	9.2	-
10	P2	33,056	11.797	15.477	142.908	Ⅸ	剥片	4.4	-
10	Q1	43,893	13.143	16.189	142.553	X	剥片	10.0	-
10	Q2	42,691	12.905	16.408	142.630	X	二次加工剥片	6.5	第34図72
10	Q3	43,849	13.141	14.828	142.498	XⅠ	剥片	7.3	-
10	R1	37,418	12.820	15.994	142.767	X	剥片	2.9	-
10	R2	42,984	12.305	14.361	142.589	X	剥片	1.0	-
10	R3	45,074	12.028	16.136	142.489	XⅠ	剥片	2.7	-
10	R4	43,279	12.036	15.159	142.573	X	剥片	3.3	-
10	S1	42,204	12.491	13.781	142.585	X	剥片	4.2	-
10	S2	47,555	12.325	15.615	142.446	XⅠ	剥片	1.7	-
10	S3	47,545	13.028	15.421	142.427	XⅠ	剥片	4.0	-
10	S4	42,374	12.271	15.403	142.634	X	剥片	3.0	-
10	T1	37,438	12.484	15.136	142.746	X	剥片	2.4	-
10	T2	47,051	12.295	15.779	142.487	XⅠ	剥片	5.5	-
10	U1	41,991	11.946	15.634	142.670	Ⅸ	石核	22.6	第38図113



第60図　接合資料No10（4）



第61図　接合資料No10（5）



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
11	A1	43,892	13.105	16.568	142.552	X	剥片	83.2	-
11	A2	47,512	11.458	14.673	142.429	XⅠ	剥片	0.7	-
11	B1	43,073	12.114	14.270	142.584	X	剥片	0.9	-
11	C1	43,937	12.401	15.601	142.515	X	剥片	92.6	-
11	D1	45,078	12.043	15.702	142.495	XⅠ	剥片	10.9	-
11	D2	46,678	12.770	15.037	142.459	XⅠ	剥片	1.7	-
11	D3	46,961	11.575	13.969	142.387	XⅠ	剥片	10.5	-
11	D4	43,078	13.737	14.250	142.603	X	剥片	10.7	-
11	E1	43,256	12.940	13.379	142.442	XⅠ	剥片	0.6	-
11	E2	43,515	12.663	15.764	142.558	X	剥片	0.6	-
11	E3	42,397	12.797	15.831	142.693	X	剥片	0.6	-
11	E4	43,786	11.575	16.153	142.519	X	剥片	2.0	-
11	E5	43,654	11.892	13.810	142.431	XⅠ	剥片	1.6	-
11	F1	45,959	12.534	14.937	142.476	XⅠ	剥片	5.0	-
11	F2	43,735	12.496	15.535	142.537	XⅠ	剥片	3.7	-
11	G1	49,141	11.948	15.274	142.342	XⅠ	剥片	0.6	-
11	H1	43,386	12.474	15.449	142.536	X	剥片	0.2	-
11	I1	43,931	12.963	15.734	142.509	X	削器	26.8	-
11	J1	49,101	12.840	15.757	142.475	X	剥片	36.4	-
11	J2	43,602	12.536	15.729	142.543	X	剥片	3.2	-
11	J3	43,365	12.724	15.964	142.541	X	剥片	1.4	-
11	J4	44,068	12.930	15.200	142.494	XⅠ	剥片	3.3	-
11	K1	48,178	12.423	15.554	142.394	XⅠ	剥片	3.8	-
11	K2	37,424	11.542	15.523	142.726	X	剥片	16.2	-

第62図　接合資料No11（1）

接合資料No12（第65図～第66図）

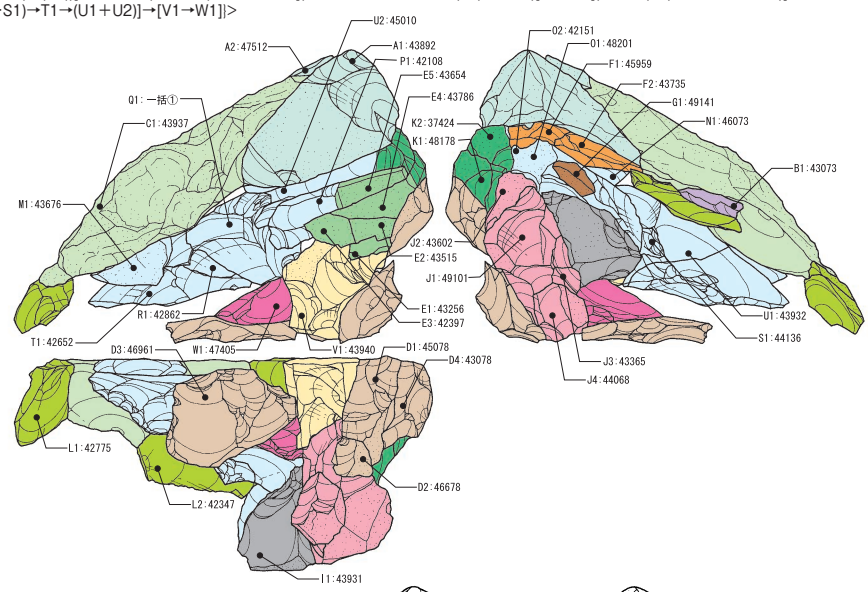
拳大の分割礫から剥離された剥片を主とする接合資料である。剥離の初期段階では比較的やや大きめの剥離によって石核形状を整え，その後は主軸長3～5cm程度の剥片を多く剥離している。空隙部分も残されており，剥離の全体像を十分に判断できる状態ではないが，接合資料には削器や微細剥離痕剥片などが含まれる。

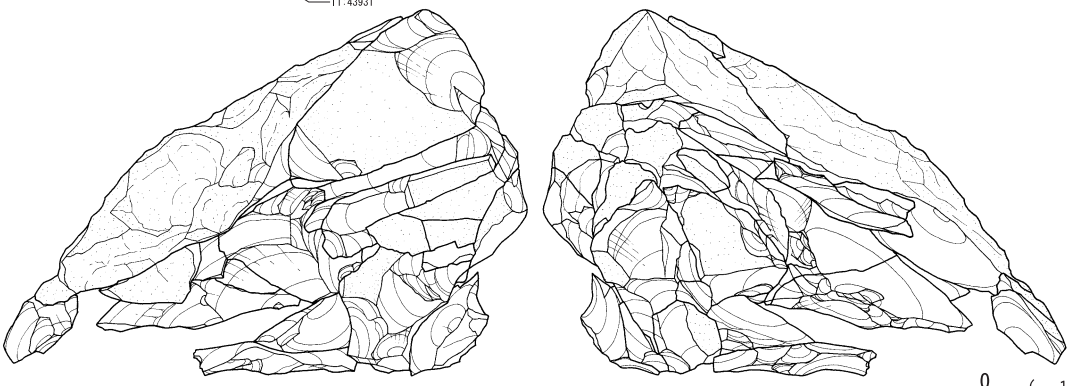
接合資料No13（第67図～第69図）

緑色の頁岩を素材とする接合資料である。本遺跡の使用石材ではやや異質な個体であり，注意を要する。

基本的には石核接合資料であり，扁平な角礫を素材として，自然面を打面として剥離を行っている。比較的やや大きめの剥離も目立つが，剥離されている剥片の主軸長は4cm前後のものが多い。接合資料には二次加工剥片が含まれる。調整剥離が正面左側縁に偏り，角錐状石器との関連を想起させるものである。

剥離順：<[(A1＋A2)…(B1))]→C1>＋<(D1＋D2)→D3→D4→[(E1＋E2＋E3＋E4＋E5)…(F1＋F2)]→G1→[(H1→I1)＋(J1＋J2＋J3＋J4)]→K1→K2→(L1…L2)→[[(M1…N1)→(O1＋O2)→P1→Q1→(R1…S1)→T1→(U1＋U2)]→[V1→W1]|>

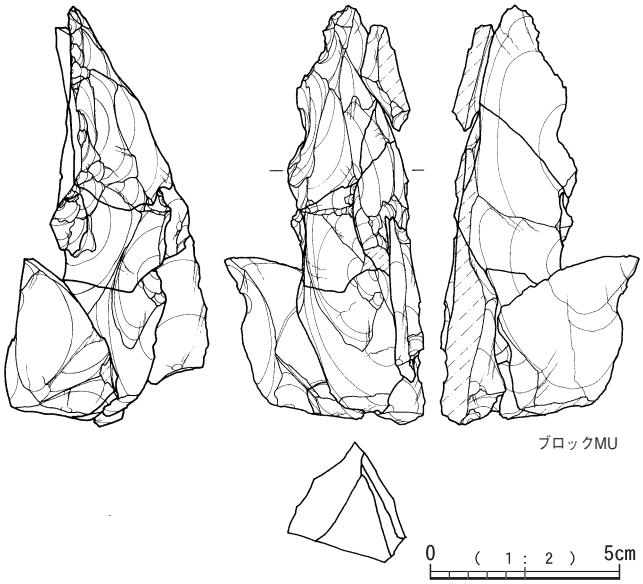




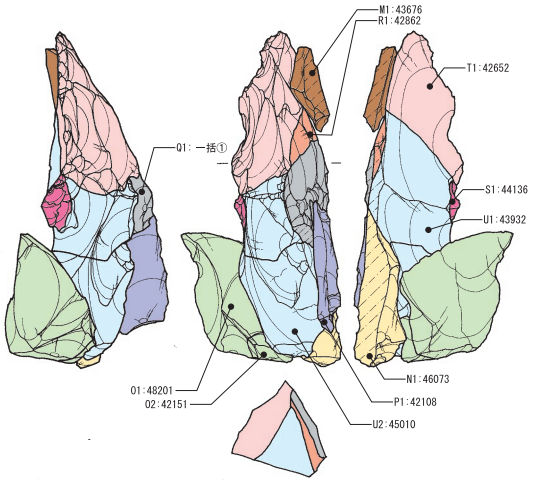
ブロックA

0 (1 : 2) 5cm

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
11	L1	42,775	12.985	16.638	142.635	X	剥片	6.2	-
11	L2	42,347	11.598	14.786	142.590	X	剥片	6.1	-
11	M1	43,676	12.532	16.052	142.567	X	剥片	2.6	-
11	N1	46,073	12.625	15.797	142.508	X	剥片	6.0	-
11	O1	48,201	12.702	16.397	142.427	XⅠ	剥片	28.4	-
11	O2	42,151	12.272	16.959	142.707	Ⅸ	剥片	1.0	-
11	P1	42,108	12.642	13.384	142.598	Ⅸ	微細剥離痕剥片	6.8	第36図93
11	Q1	一括①	0.000	0.000	0.000	-	剥片	7.0	-
11	R1	42,862	13.648	15.054	142.625	X	剥片	2.5	-
11	S1	44,136	12.751	15.948	142.508	XⅠ	剥片	0.5	-
11	T1	42,652	13.393	16.356	142.652	X	二次加工剥片	19.2	第34図74
11	U1	43,932	12.792	15.791	142.520	X	石核	38.1	-
11	U2	45,010	12.108	14.893	142.513	XⅠ	石核	20.9	-
11	V1	43,940	13.051	15.440	142.515	X	剥片	53.6	-
11	W1	47,405	12.428	15.022	142.431	XⅠ	剥片	9.5	-



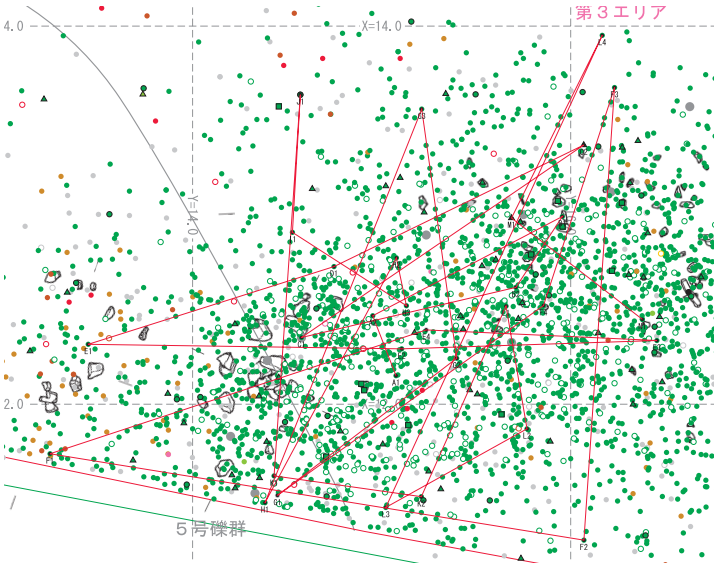
ブロックMU



0 (1 : 2) 5cm

第63図　接合資料No11（2）

第64図　接合資料No11（3）



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
12	A1	43,501	12.151	15.076	142.544	X	剥片	1.2	-
12	A2	43,281	12.468	14.953	142.577	X	剥片	1.6	-
12	B1	43,928	12.993	15.956	142.522	X	剥片	58.6	-
12	B2	46,685	12.618	15.710	142.492	XⅠ	剥片	4.2	-
12	C1	43,771	12.353	14.576	142.533	XⅠ	剥片	1.8	-
12	C2	43,007	13.371	16.069	142.614	X	削器	9.1	第35図82
12	D1	42,856	12.728	14.748	142.604	X	剥片	0.4	-
12	E1	42,329	12.317	13.448	142.533	X	剥片	0.3	-
12	E2	43,107	12.293	15.106	142.591	X	剥片	5.5	-
12	E3	44,080	12.337	16.456	142.516	XⅠ	剥片	0.6	-
12	E4	42,255	12.393	15.236	142.672	Ⅸ	剥片	1.2	-
12	F1	43,435	11.738	13.246	142.520	XⅠ	剥片	1.4	-
12	F2	51,162	11.281	16.070	142.251	XⅠ	剥片	0.6	-
12	F3	43,400	13.675	16.232	142.547	X	剥片	0.4	-
12	F4	43,934	12.522	15.856	142.520	X	剥片	3.9	-
12	G1	42,012	11.518	14.449	142.617	Ⅸ	剥片	1.7	-
12	G2	43,297	12.243	15.397	142.578	X	剥片	0.7	-
12	G3	44,187	13.561	15.212	142.488	XⅠ	剥片	2.5	-
12	H1	45,886	11.479	14.383	142.470	XⅠ	剥片	0.9	-
12	H2	43,198	12.774	15.078	142.583	X	剥片	0.7	-
12	H3	43,852	12.521	15.131	142.525	XⅠ	剥片	0.4	-
12	I1	43,490	12.909	14.528	142.551	X	剥片	0.9	-
12	J1	42,224	13.637	14.570	142.702	Ⅸ	微細剥離痕剥片	22.5	-

第65図　接合資料No12（1）

接合資料No14（第70図～第71図）

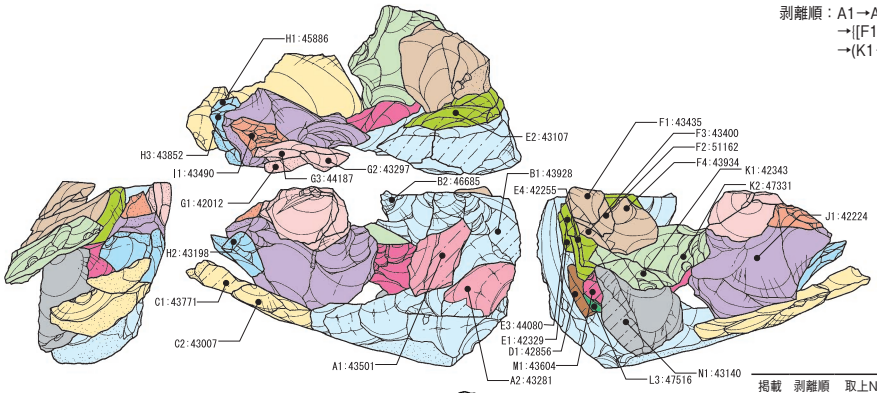
最大径13cm程度の扁平な角礫から剥離された，幅5～6cm程度の剥片を主とする接合資料である。剥片の一部には石核素材として利用され，さらに剥離が進行するものがある。また，一部には二次加工に類する細かい剥離も看取され，角錐状石器関連の資料が含まれる可能性もある。

図化後，角錐状石器を含む接合資料No24が接合した。

接合資料No15（第72図～第73図）

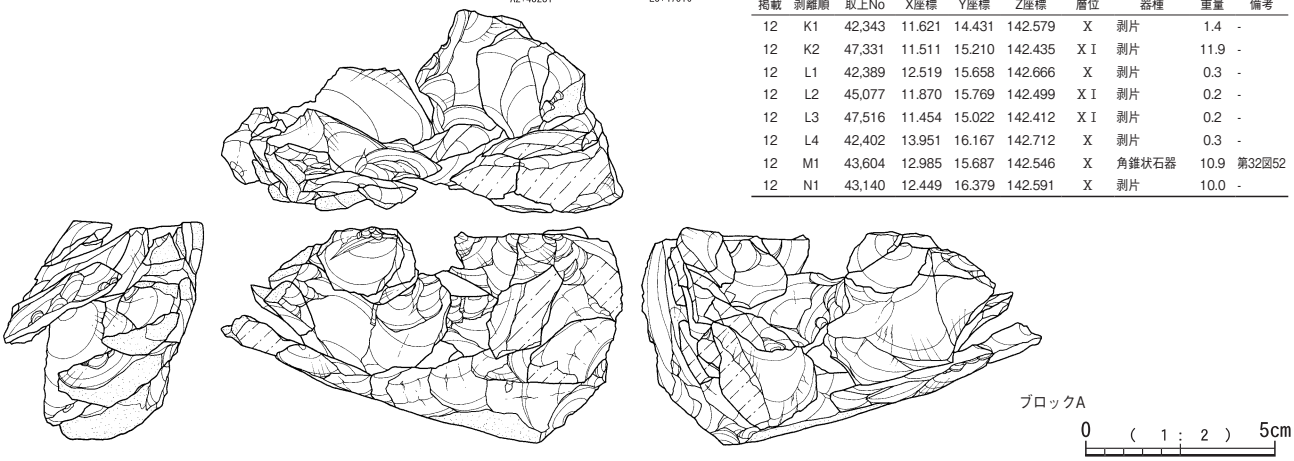
最大径15cm程度の亜円礫を素材とする接合資料である。原礫のサイズがほぼ復元可能な状態まで接合しているが，中央部には空隙が残されており，剥離目的は十分に判断できない。剥離の初期段階では，幅5cm～7cm程度の大型の剥片を剥離しており，これを石核としてさらに数枚の剥離が行われている。また，石核が拳大となった段階では，節理によっ

剥離順：A1→A2→(B1＋B2)→[(C1＋C2)…(D1→E1→E2→E3→E4)]
→[[F1→F2→F3→F4]…[G1→(G2＋G3)]]→(H1＋H2)→H3→I1→J1
→(K1＋K2)→(L1→L2→L3→L4→M1)→N1

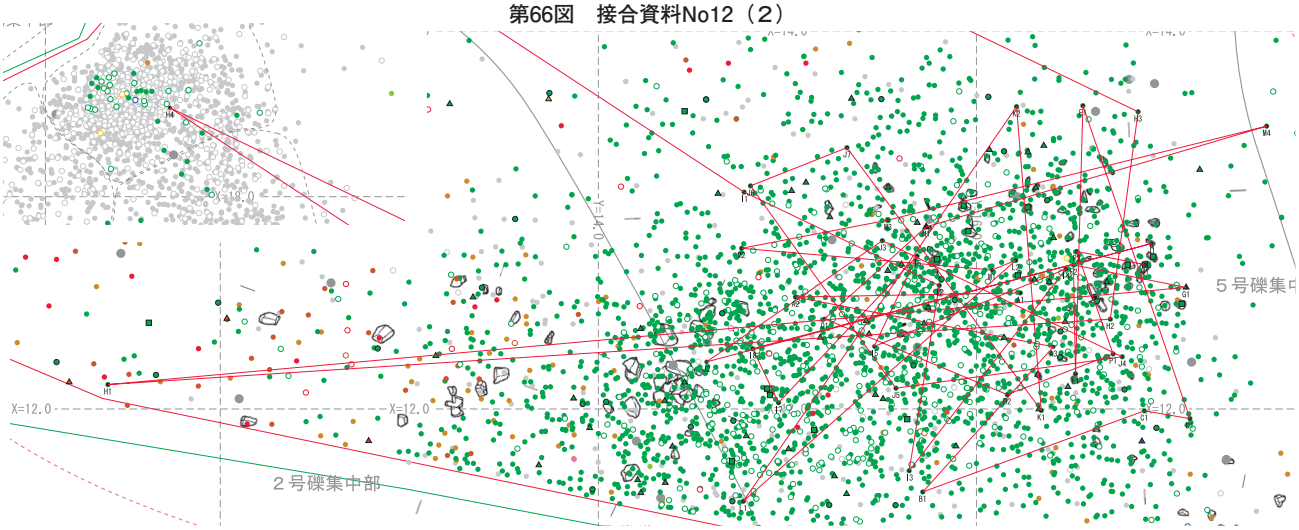


※ L1:42389, L2:45077, L4:42402はL3:47516の奥

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
12	K1	42,343	11.621	14.431	142.579	X	剥片	1.4	-
12	K2	47,331	11.511	15.210	142.435	XⅠ	剥片	11.9	-
12	L1	42,389	12.519	15.658	142.666	X	剥片	0.3	-
12	L2	45,077	11.870	15.769	142.499	XⅠ	剥片	0.2	-
12	L3	47,516	11.454	15.022	142.412	XⅠ	剥片	0.2	-
12	L4	42,402	13.951	16.167	142.712	X	剥片	0.3	-
12	M1	43,604	12.985	15.687	142.546	X	角錐状石器	10.9	第32図52
12	N1	43,140	12.449	16.379	142.591	X	剥片	10.0	-

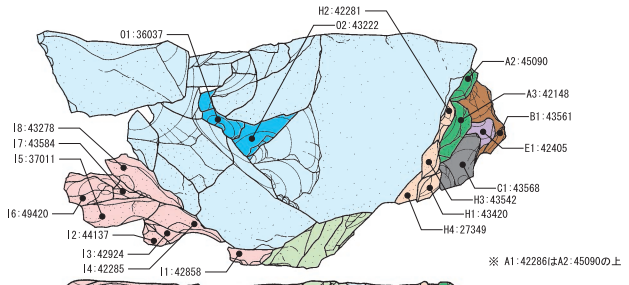


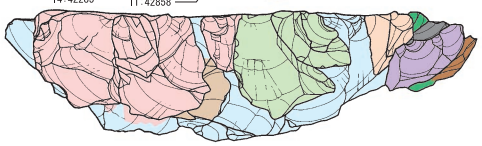
第66図　接合資料No12（2）

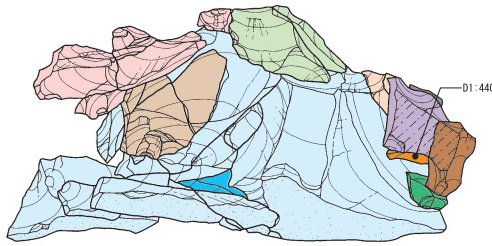


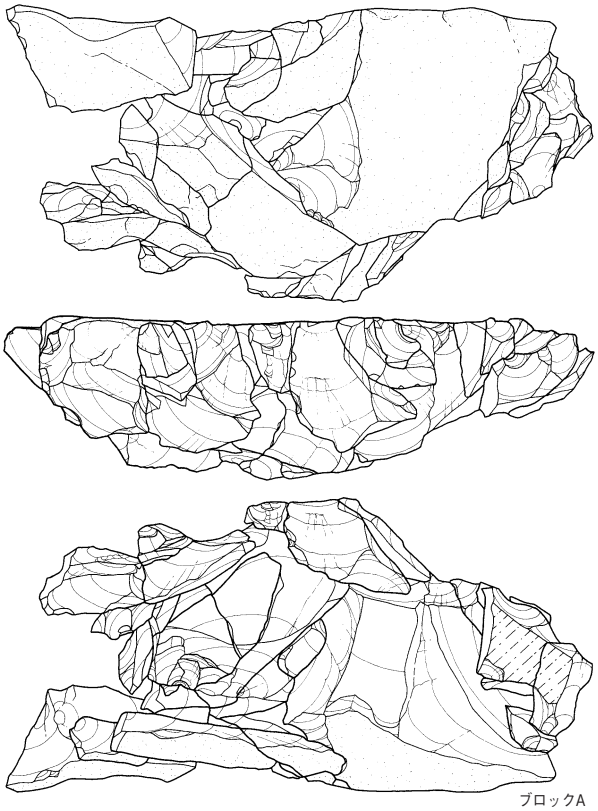
第67図　接合資料No13（1）

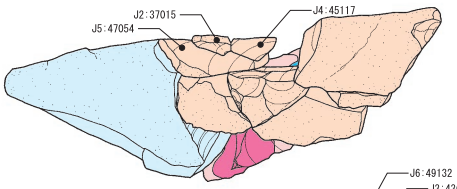
剥離順：[A1→(A2＋A3)→B1→C1→D1→E1]→(F1→F2→G1)→H1→H2→H3→H4
→[I1→I2→I3→(I4＋I5)→(I6＋I7)→I8]→(J1＋J2)→J3→J4→J5→(J6＋J7)
→[K1→K2→(L1＋L2)]→M1→M2→(M3＋M4)→N1→O1→O2→(P1＋P2)→Q1

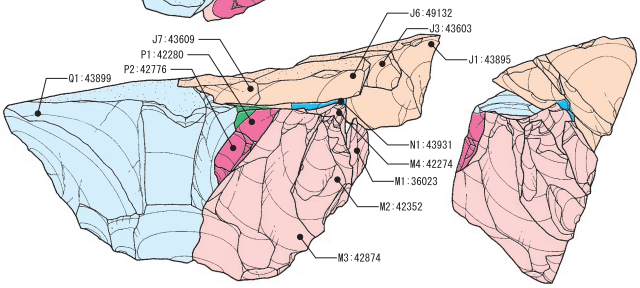


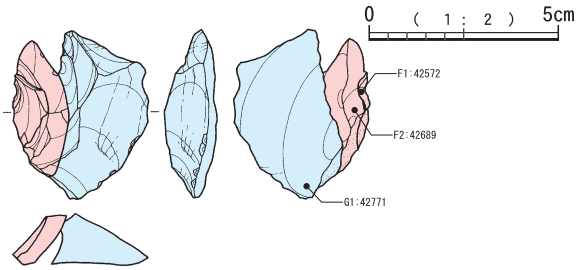


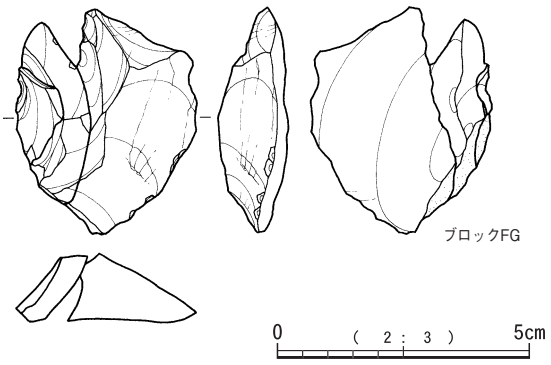


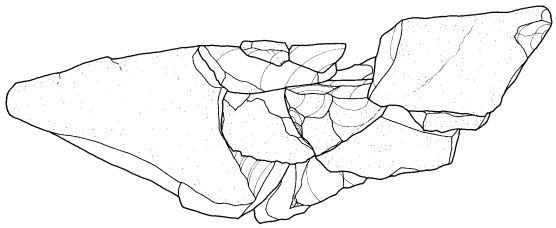


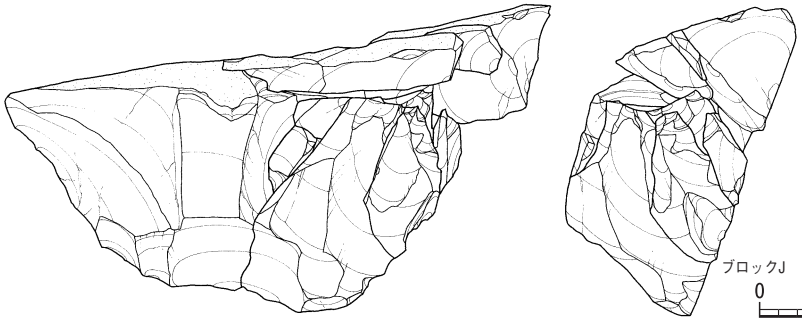








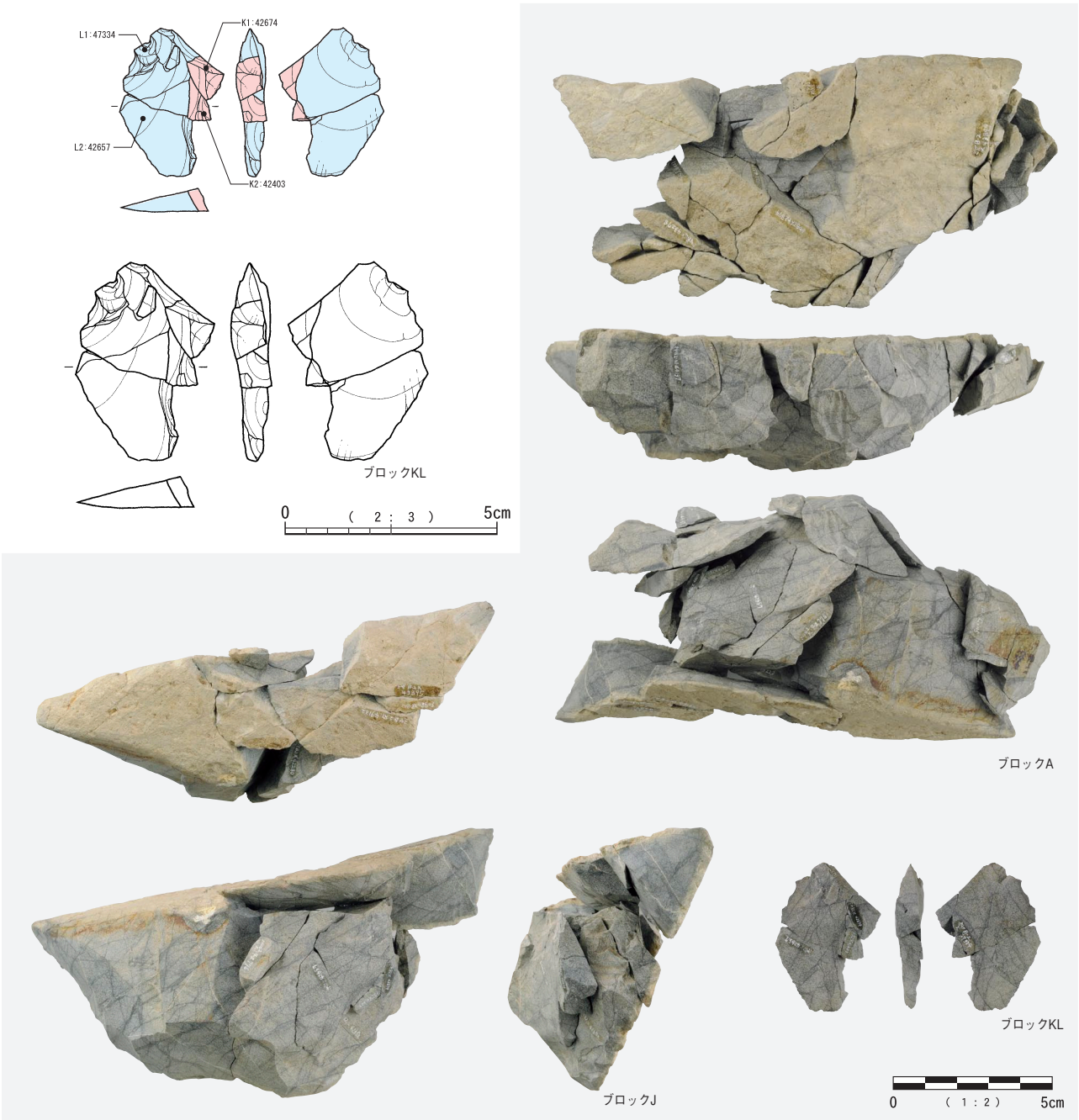




第68図　接合資料No13（2）

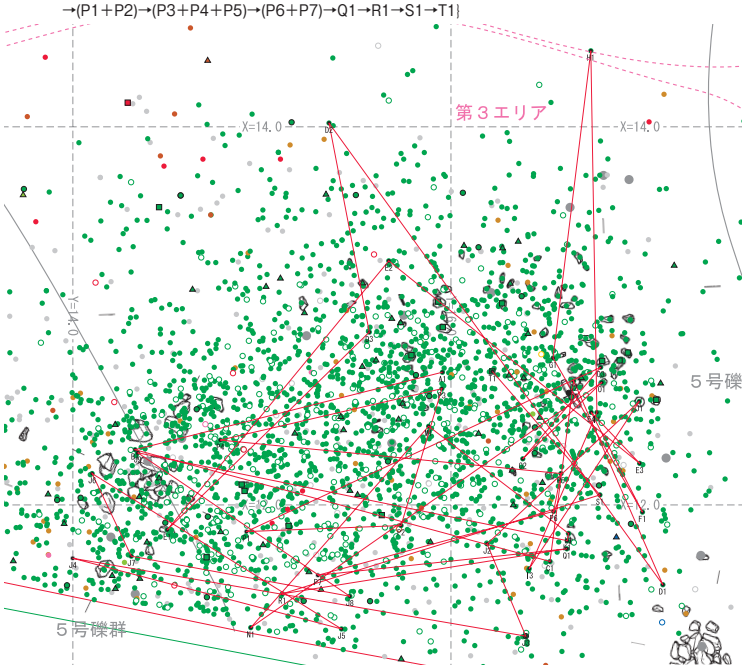
掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
13	A1	42,286	12.614	16.232	142.686	Ⅹ	剥片	0.6	-
13	A2	45,090	12.592	15.043	142.489	ⅩⅠ	剥片	1.5	-
13	A3	42,148	12.329	16.407	142.694	Ⅸ	剥片	1.3	-
13	B1	43,561	11.561	15.716	142.534	ⅩⅠ	剥片	2.9	-
13	C1	43,568	11.990	16.888	142.525	ⅩⅠ	剥片	1.7	-
13	D1	44,020	11.949	17.129	142.502	ⅩⅠ	剥片	0.9	-
13	E1	42,405	13.604	16.563	142.731	Ⅹ	剥片	8.9	-
13	F1	42,572	12.186	16.524	142.639	Ⅹ	剥片	0.6	-
13	F2	42,689	12.762	16.513	142.636	Ⅹ	剥片	3.7	-
13	G1	42,771	12.643	17.109	142.615	Ⅹ	二次加工剥片	14.1	第34図75
13	H1	43,420	12.129	11.406	142.432	ⅩⅠ	剥片	0.8	-
13	H2	42,281	12.475	16.708	142.681	Ⅹ	剥片	1.1	-
13	H3	43,542	13.572	16.855	142.577	Ⅹ	剥片	1.0	-
13	H4	27,349	18.470	6.659	142.859	Ⅸ	剥片	1.6	第92図135
13	I1	42,858	13.147	14.771	142.602	Ⅹ	剥片	1.7	-
13	I2	44,137	12.653	15.803	142.506	ⅩⅠ	剥片	0.9	-
13	I3	42,924	11.673	15.644	142.552	Ⅹ	剥片	1.3	-
13	I4	42,285	12.740	16.473	142.685	Ⅹ	剥片	12.2	-
13	I5	37,011	12.331	15.459	142.801	Ⅸ	剥片	11.6	-
13	I6	49,420	12.809	15.686	142.360	ⅩⅠ	剥片	1.3	-
13	I7	43,584	12.033	14.953	142.545	Ⅹ	剥片	0.8	-
13	I8	43,278	12.319	14.816	142.595	Ⅹ	剥片	6.4	-

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
13	J1	43,895	12.875	16.926	142.574	Ⅹ	剥片	33.4	-
13	J2	37,015	12.249	14.572	142.784	Ⅸ	剥片	0.7	-
13	J3	43,603	12.890	15.502	142.542	Ⅹ	剥片	1.6	-
13	J4	45,117	12.276	16.771	142.500	ⅩⅠ	剥片	0.9	-
13	J5	47,054	12.110	15.574	142.482	ⅩⅠ	剥片	9.5	-
13	J6	49,132	13.180	14.805	142.361	ⅩⅠ	剥片	15.6	-
13	J7	43,609	13.382	15.315	142.557	Ⅹ	剥片	6.4	-
13	K1	42,674	11.992	16.343	142.622	Ⅹ	剥片	0.8	-
13	K2	42,403	13.599	16.212	142.704	Ⅹ	剥片	0.5	-
13	L1	47,334	11.512	14.767	142.448	ⅩⅠ	剥片	5.5	-
13	L2	42,657	12.786	16.208	142.641	Ⅹ	剥片	2.9	-
13	M1	36,023	12.735	16.082	142.831	Ⅸ	剥片	1.5	-
13	M2	42,352	12.850	14.758	142.640	Ⅹ	剥片	9.3	-
13	M3	42,874	12.999	15.532	142.620	Ⅹ	剥片	52.5	-
13	M4	42,274	13.496	17.535	142.708	Ⅹ	剥片	12.5	-
13	N1	43,931	12.963	15.734	142.509	Ⅹ	剥片	2.0	-
13	O1	36,037	12.477	15.197	142.875	Ⅸ	剥片	0.3	-
13	O2	43,222	12.076	16.163	142.580	Ⅹ	剥片	8.5	-
13	P1	42,280	12.291	16.723	142.686	Ⅹ	剥片	4.1	-
13	P2	42,776	12.833	16.530	142.622	Ⅹ	剥片	4.9	-
13	Q1	43,899	12.764	16.892	142.544	Ⅹ	石核	183.9	-

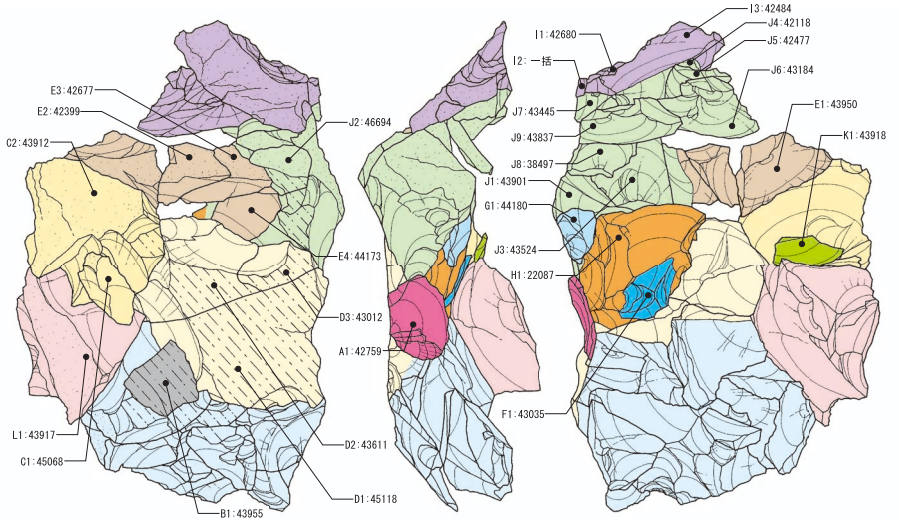


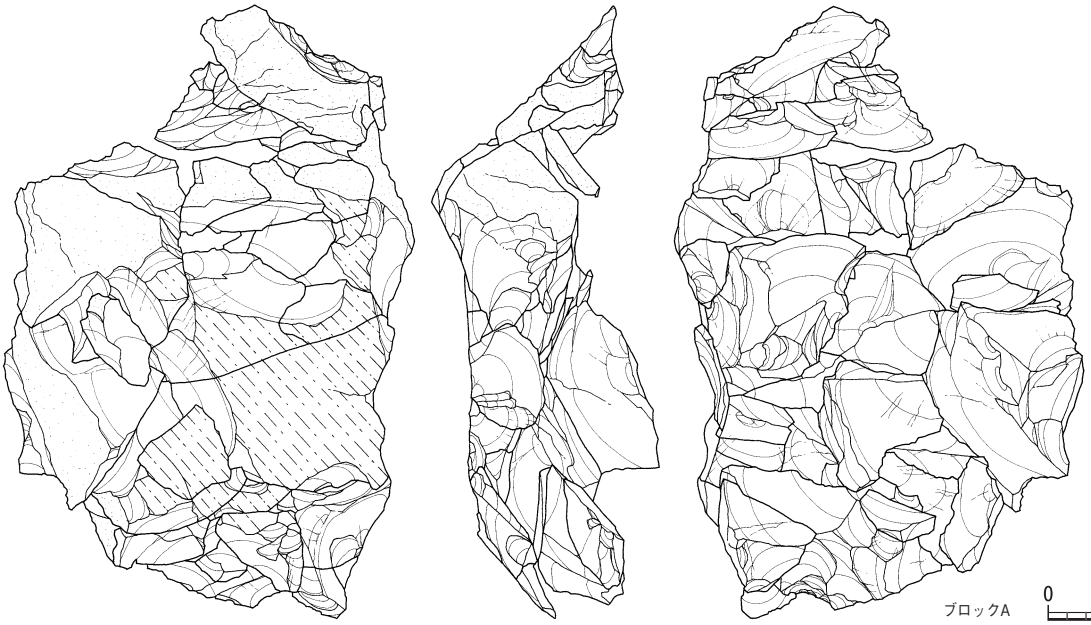
第69図　接合資料No13（3）

剥離順：(A1…B1)→{C1→C2→(D1＋D2＋D3)→(E1→E2→E3→E4)→[F1→(G1→H1)]→I1→I2→(I3)
→(J1＋J2)→[(J3→J4→J5→J6)…(J7)]→J8→J9}→{K1→L1→M1→N1→(O1＋O2＋O3)
→(P1＋P2)→(P3＋P4＋P5)→(P6＋P7)→Q1→R1→S1→T1}

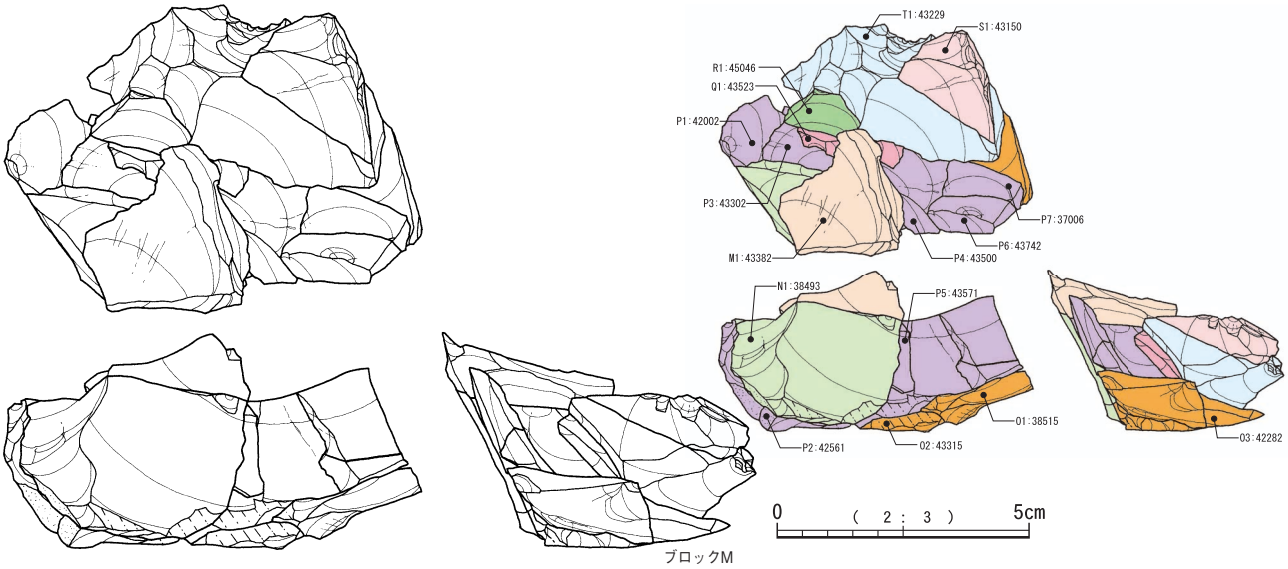


掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
14	A1	42,759	12.702	15.955	142.633	Ⅹ	剥片	2.3	-
14	B1	43,955	12.292	14.329	142.493	ⅩⅠ	剥片	3.2	-
14	C1	45,068	11.701	16.524	142.503	ⅩⅠ	剥片	1.5	-
14	C2	43,912	12.656	16.649	142.566	Ⅹ	剥片	28.8	-
14	D1	45,118	11.578	17.121	142.476	ⅩⅠ	剥片	36.8	-
14	D2	43,611	14.020	15.355	142.576	Ⅹ	剥片	24.0	-
14	D3	43,012	12.914	15.568	142.622	Ⅹ	剥片	2.7	-
14	E1	43,950	11.868	14.499	142.502	ⅩⅠ	剥片	7.6	-
14	E2	42,399	13.291	15.671	142.694	Ⅹ	剥片	3.4	-
14	E3	42,677	12.220	16.998	142.629	Ⅹ	剥片	3.2	-
14	E4	44,173	12.490	16.742	142.499	ⅩⅠ	剥片	4.6	-
14	F1	43,035	11.962	17.013	142.574	Ⅹ	剥片	1.6	-
14	G1	44,180	12.777	16.540	142.532	ⅩⅠ	剥片	1.5	-
14	H1	22,087	14.402	16.740	142.801	Ⅹ	剥片	23.6	-
14	I1	42,680	12.489	16.772	142.627	Ⅹ	剥片	0.8	-
14	I2	一括	0.000	0.000	0.000	-	剥片	0.5	-
14	I3	42,484	11.663	16.414	142.651	Ⅹ	剥片	19.9	-
14	J1	43,901	12.547	16.996	142.537	Ⅹ	剥片	67.3	-
14	J2	46,694	11.794	16.191	142.462	ⅩⅠ	剥片	1.5	-
14	J3	43,524	11.306	16.396	142.534	ⅩⅠ	微細剥離痕剥片	7.6	第36図92
14	J4	42,118	11.718	13.999	142.627	Ⅸ	剥片	1.8	-
14	J5	42,477	11.344	15.421	142.590	Ⅹ	剥片	1.0	-
14	J6	43,184	12.166	14.102	142.564	Ⅹ	剥片	7.2	-
14	J7	43,445	11.729	14.309	142.537	ⅩⅠ	剥片	1.1	-
14	J8	38,497	11.517	15.465	142.702	Ⅹ	剥片	2.5	-
14	J9	43,837	12.276	14.343	142.525	ⅩⅠ	剥片	6.9	-
14	K1	43,918	11.811	16.615	142.531	Ⅹ	剥片	0.7	-
14	L1	43,917	11.849	16.622	142.518	Ⅹ	剥片	54.0	-
14	M1	43,382	12.416	15.882	142.544	Ⅹ	剥片	8.8	-
14	N1	38,493	11.351	14.941	142.685	Ⅹ	剥片	28.2	-

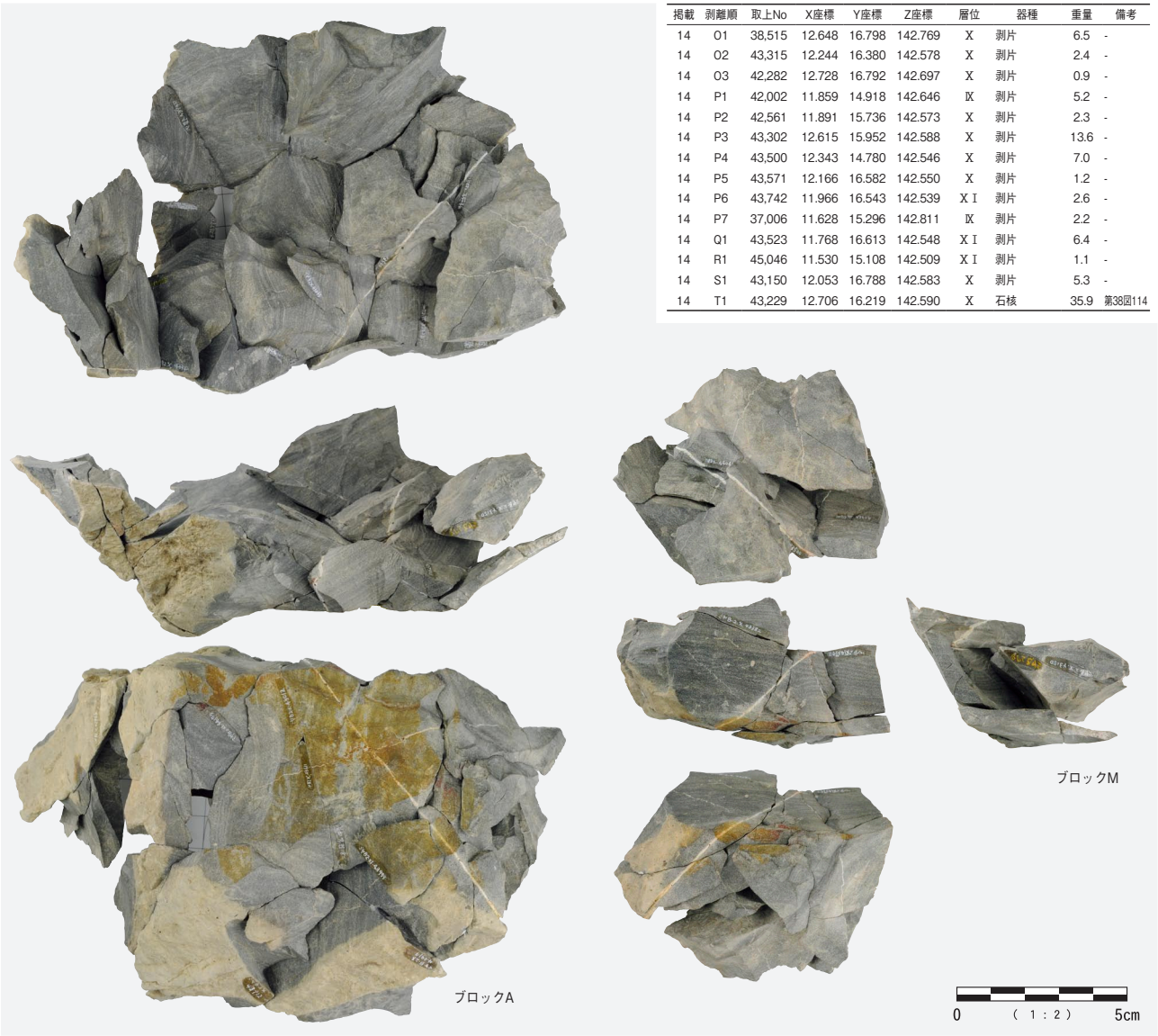




第70図　接合資料No14（1）



掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
14	O1	38,515	12.648	16.798	142.769	Ⅹ	剥片	6.5	-
14	O2	43,315	12.244	16.380	142.578	Ⅹ	剥片	2.4	-
14	O3	42,282	12.728	16.792	142.697	Ⅹ	剥片	0.9	-
14	P1	42,002	11.859	14.918	142.646	Ⅸ	剥片	5.2	-
14	P2	42,561	11.891	15.736	142.573	Ⅹ	剥片	2.3	-
14	P3	43,302	12.615	15.952	142.588	Ⅹ	剥片	13.6	-
14	P4	43,500	12.343	14.780	142.546	Ⅹ	剥片	7.0	-
14	P5	43,571	12.166	16.582	142.550	Ⅹ	剥片	1.2	-
14	P6	43,742	11.966	16.543	142.539	ⅩⅠ	剥片	2.6	-
14	P7	37,006	11.628	15.296	142.811	Ⅸ	剥片	2.2	-
14	Q1	43,523	11.768	16.613	142.548	ⅩⅠ	剥片	6.4	-
14	R1	45,046	11.530	15.108	142.509	ⅩⅠ	剥片	1.1	-
14	S1	43,150	12.053	16.788	142.583	Ⅹ	剥片	5.3	-
14	T1	43,229	12.706	16.219	142.590	Ⅹ	石核	35.9	第38図114

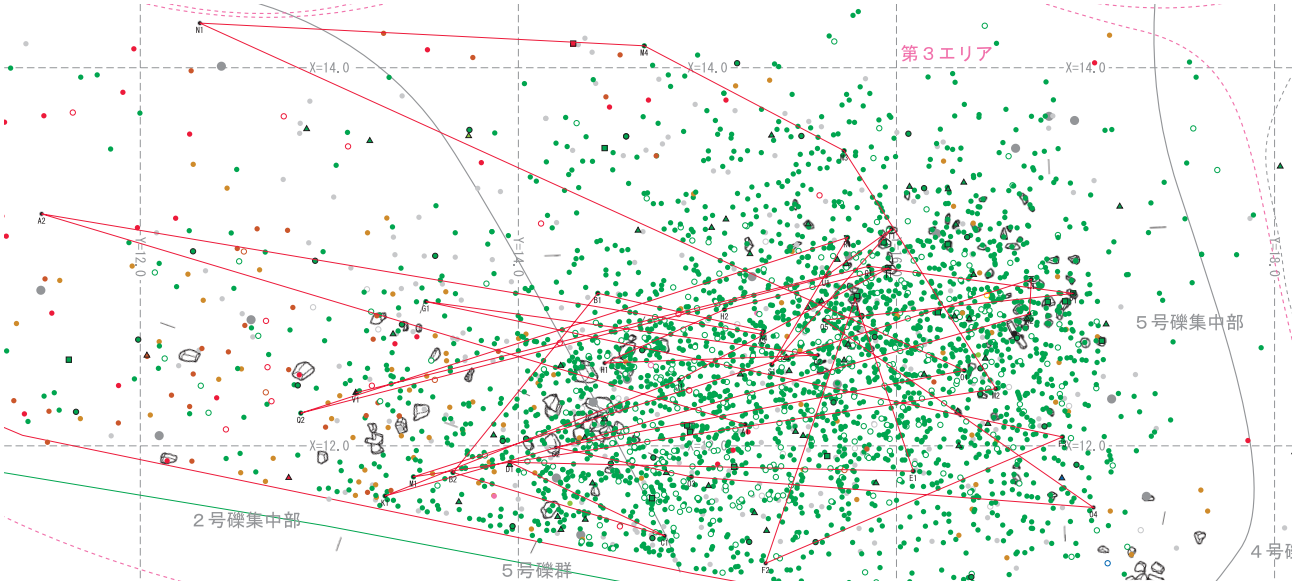


第71図　接合資料No14（2）

て石核が分割され，分割片それぞれで剥片剥離が進行している。

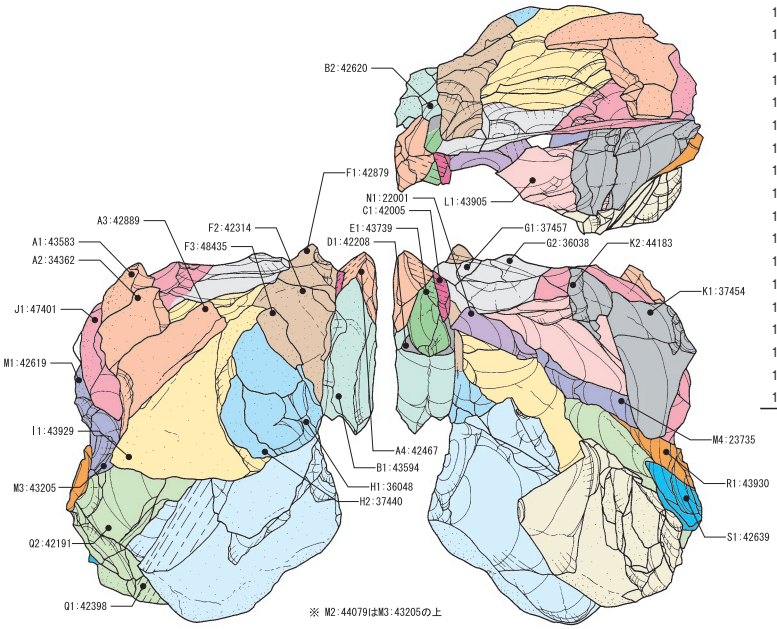
接合資料No16（第74図）

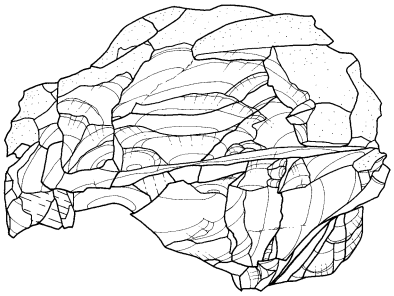
石核接合資料である。剥離の最終段階に近く，表裏を頻繁に反転させながら横広の剥片剥離を行っている。

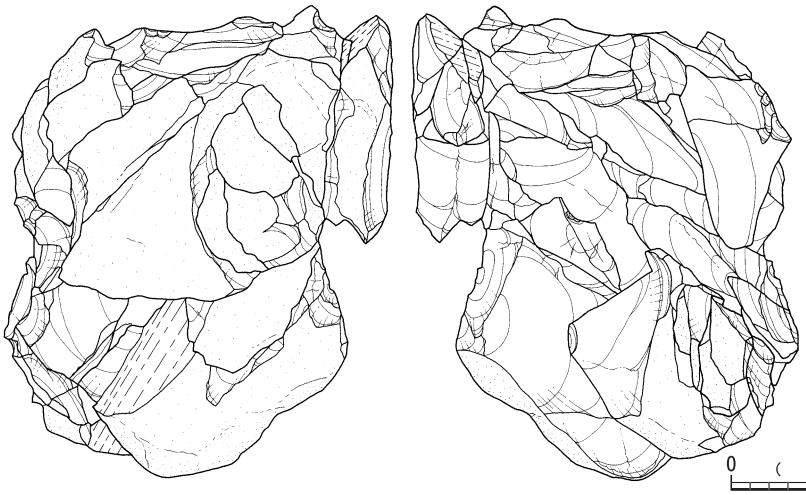


剥離順：(A1＋A2＋A3)→A4→(B1→B2→C1→D1→E1)→(F1＋F2＋F3)
→[(G1→G2)…(H1→H2)]→I1→J1→(K1→K2→L1)→<{(M1＋M2＋M3)→M4
→N1}＋{[O1→O2→O3→O4→O5→P1]→[Q1→Q2→R1→S1→T1]}＋{U1→V1}>

掲載	剥離順	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	器種	重量	備考
15	A1	43,583	12.113	15.200	142.537	Ⅹ	剥片	2.4	-
15	A2	34,362	13.227	11.478	142.782	Ⅸ	剥片	5.8	-
15	A3	42,889	12.590	15.289	142.625	Ⅹ	剥片	6.1	-
15	A4	42,467	12.607	15.296	142.638	Ⅹ	剥片	6.2	-
15	B1	43,594	12.807	14.420	142.537	Ⅹ	剥片	13.6	-
15	B2	42,620	11.859	13.654	142.573	ⅩⅠ	剥片	1.5	-
15	C1	42,005	11.524	14.774	142.647	Ⅸ	剥片	1.6	-
15	D1	42,208	11.913	13.955	142.590	Ⅹ	剥片	2.7	-
15	E1	43,739	11.866	16.089	142.521	ⅩⅠ	剥片	5.4	-
15	F1	42,879	12.777	15.781	142.605	Ⅹ	剥片	5.1	-
15	F2	42,314	11.379	15.308	142.630	Ⅸ	剥片	8.4	-
15	F3	48,435	12.047	16.878	142.400	ⅩⅠ	剥片	1.1	-
15	G1	37,457	12.763	13.511	142.688	Ⅹ	剥片	1.2	-
15	G2	36,038	12.480	15.584	142.810	Ⅸ	剥片	10.2	-
15	H1	36,048	12.438	14.456	142.801	Ⅸ	剥片	9.6	-
15	H2	37,440	12.721	15.090	142.741	Ⅹ	剥片	3.7	-
15	I1	43,929	12.940	15.957	142.536	Ⅹ	石核	98.1	-
15	J1	47,401	12.350	14.851	142.491	ⅩⅠ	剥片	35.2	-
15	K1	37,454	11.735	13.295	142.644	Ⅹ	剥片	23.1	-
15	K2	44,183	12.698	16.704	142.504	ⅩⅠ	剥片	7.9	-







第72図　接合資料No15（１）